

# 上富良野町郷土芸能資料館新築工事

上富良野町郷土芸能資料館新築 工事特記仕様書

I 工事概要

1. 工事場所 北海道空知郡上富良野町大町2丁目4583-3

Table with columns: 名称, 構造種別, 数量, 単位, 備考. Includes items like 郷土芸能資料館, 鉄骨造, 402.67, m².

3. 工事項目 表欄目は●印を付したものを適用する。

Table with columns: 区分, 設備名称, 数量, 単位, 備考. Lists various equipment like 暖気設備, 換気設備, etc.

4. 施工区分 表欄目は●印を付したものを適用する。

Table with columns: 項目, 工種, 建築, 電気, 衛生, 備考. Lists construction items like 暖気設備, 換気設備, etc.

5. 指令部分工事 (1)工事範囲 (2)指定工期 契約日より平成 年 月 日まで

6. 別注工事

II 工事仕様

1. 共通仕様 図面及び本仕様書に記載されていない事項は全て建設大臣官庁官庁管理標準仕様書

2. その他

Table with columns: 項目, 特記事項. Lists specific requirements for materials and construction methods.

III 共通仕様

1. 共通仕様 図面及び本仕様書に記載されていない事項は全て建設大臣官庁官庁管理標準仕様書

2. その他

Table with columns: 項目, 特記事項. Lists specific requirements for materials and construction methods.

IV 共通仕様

1. 共通仕様 図面及び本仕様書に記載されていない事項は全て建設大臣官庁官庁管理標準仕様書

2. その他

Table with columns: 項目, 特記事項. Lists specific requirements for materials and construction methods.

V 共通仕様

1. 共通仕様 図面及び本仕様書に記載されていない事項は全て建設大臣官庁官庁管理標準仕様書

2. その他

Table with columns: 項目, 特記事項. Lists specific requirements for materials and construction methods.

VI 共通仕様

1. 共通仕様 図面及び本仕様書に記載されていない事項は全て建設大臣官庁官庁管理標準仕様書

2. その他

Table with columns: 項目, 特記事項. Lists specific requirements for materials and construction methods.

項目 特記事項

●再生材の処理 引渡しを要する場合は、引渡しを要する範囲は下記により、監督員の指示する方法及び位置に準拠し、整理し所定の発生材報告書により監督員に報告する。

●再生利用する場合 再生利用する場合は、建設副産物の処理に当たって「建設副産物適正処理推進要綱」を守って行わなければならない。

●産業廃棄物の処理 産業廃棄物の処理は下記のとおりとし、「産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の関係法令に従い適切に処理する。

●自主施工期間中の施工条件 自主施工期間中は各運時施工により品質管理上支障の起こす恐れのない工程についてはこれを積極的に活用できる。

●工事標準 1. 200 1.350 1.350 1.350

1. 公共事業労働者調査に対する協力 (1) 本工事が北海道の実施する公共事業労働者調査の対象工事となった場合、調査員は、調査等に必要事項を正確に記入し北海道に提出する等、必要な協力を行わなければならない。

2. 工事実施データの作成 調査員が本工事の一部について下請契約を締結する場合には、調査員は、当該下請工事の委託者(当該下請工事の一部に係る二次以降の下請人を含む。)が前項と同様の義務を負う旨を定めなければならない。

3. 労働者の安全衛生教育の徹底 (1) 労働者の安全衛生教育の徹底。 (2) 工事現場の安全パトロールの励行。 (3) 建設機械等による危険防止の徹底。

4. 給油設備 地下貯油槽 1. 基礎工事 ●要 ○不要 基礎杭 ●要 ○不要 本工事 ○別注工事

5. 自動制御設備 1. 制御方法 ●電気式 ●電子式 ●デジタル式 ●空気式

空気調和設備

10. 放熱器 1. 種類 ●熱交換放熱器 ○パネルヒーター ○ファンコイルユニット

11. 風道 1. 方式 ●低速 ○高速 ○その他 ( )

12. 吹出口・吸込口 1. 材質 ●鋼板製 ○アルミ製 ○その他(樹脂製)

13. 防音フード 1. 材質 ●ステンレス鋼板製 (OSUS430 OSUS304) ○その他 ( )

14. 排気フード 1. 形状 ○スリット形 ○リング形

15. 排気口 1. 形状 ○スリット形 ○リング形

16. 風量測定口 1. 取付箇所 1. 特記した風量調整ダンパーの上流又は下流

17. 防音ダンパー 1. 取得方式 ○遮断式 ○手動式

18. チャンパー等 1. 外壁に面するガラリに直接取付けるチャンパー、ホッパーには排水を設ける。

19. 消音内貼り 1. 施工方法は共通仕様書の当該事項による。

給排水設備

1. 給水方式 1. 水道直結方式 ○高層タンク方式 (○上水○井水) ○圧力タンク方式 (○上水○井水)

2. 排水方式 1. 自然流下 ○強制排水

3. 給水タンク 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

4. 受水タンク 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

5. 排水装置 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

6. 排水方式 1. 自然流下 ○強制排水

7. 排水装置 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

8. 排水装置 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

9. 排水装置 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

10. 排水装置 1. 構造 ●鋼製 ○コンクリート製 ○その他 ( )

Table with columns: 機器名, 指定, 製造, 所. Lists equipment specifications.

創明建築設計事務所 SOUMEI ARCHITECTS CORPORATION

管理建築士 三嶋幸利

上富良野町郷土芸能資料館新築工事

特記仕様書

上富良野町郷土芸能資料館新築 工事特記仕様書

1. 工事場所 北海道空知郡上富良野町大町2丁目4583-3の内

2. 用途 展示場

3. 用途地域 第2種住居地域

4. 構造 鉄骨造一部2階建

5. 面積 建築面積 405.0 m<sup>2</sup> 延面積 483.67 m<sup>2</sup>

6. 工期 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日 日間

7. 工事範囲 兼 建築主体工事 ○ 電気設備工事 ○ 衛生設備工事 ・ 空調設備工事 ・ 冷暖房設備工事  
兼 昇降機工事 ・ 外構工事 ・

設計図及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て建設大臣官庁官庁営繕部監修建築工事共通仕様書（最新版）による。  
電気設備、機械設備仕様は、別記による。  
契約書及び設計図書に記載されていない事項で、意匠、構造、法規上、社会通念上当然と認められる軽微な工事は、請負金額の内で施工する。項目は本工事に関係するものを適用する。  
特記事項は○印のついたものを適用し、○印のない場合は兼印のついたものを適用する。  
また特記無きものは日本工業規格（JIS）による。 当工事の監督員は とする。

項目 特記事項

1. 材 料 1 章 一 般 共 通 事 項

- 建築材料の製作所、商品、施工業者は記載されたものとする。又、同等以上とする場合は監督員の承諾を受ける。
- 材料は監督員の検査を受け、合格したものを使用する。
- 材料の検査及び試験の基準は、日本工業規格を基本とし、それに要する費用は一切施工者の負担とする。
- 監督員の指示する材料は、仕上程度、色合、材質等見本品を提出し承諾を受ける。

2. 立会検査

- 下記の事項は立会検査を受けなければならない。
- なわ張りもしくはやり方完了時 ・ ベンチマーク
- 根切り終了時 ・ 地耐力試験
- コンクリート打設等で設備がいんべいとなる部分
- 圧接完了時（自主検査成績表提出）
- 鉄骨現寸検査
- 鉄骨溶接完了後（検査成績表提出）
- 鉄骨建入れ（検査記録提出）
- 断熱工事完了時
- 外壁タイル接着試験の立会
- 材料の検査に伴う試験の立会（公的試験場で行う場合は除く）
- 施工後検査困難となる工事
- 各官公署検査時
- 検査、立会

3. 完 成 時

- 竣工日までに工事施工者において完成図を作成し（電気、機械設備共）2部製本とし原図とともに納品する。
- 竣工写真は監督員の指示する箇所（外部4カット・内部各室1カット）を外部はキャビネ判その他サービス判で撮影し、カラー写真をアルバム2部に整理しネガ共提出する。
- 着工より竣工までの工事期間の記録写真をアルバムに2部整理しネガ共提出する。
- 竣工検査は 7 日前に竣工検査を受けダメ直し・残工事を一切完了させた上行うものとし、竣工引渡し前に仮設物等を一切撤去しなければならない。尚、引渡しと同時に下記書類を取りそろえ提出する。  
a. 工事引き渡し書 b. 備品目録（鍵、フック類、その他） c. 官公署及び事業会社の許可証  
d. 保証書及び品質証明書 e. 機械装置の操作手引書 f. 試験成績書（鋼材、コック、トコナリ、発電機）  
g. 竣工図 h. 建物維持管理注意事項（内装仕上含む）  
i. その他工事中重要記録、工事関連業者かし連絡表

4. 特殊な工事

5. 工事記録

- 工程に従って工事写真を撮影し工事監理報告書を作成して、毎月5日までに2部提出する。
- 工事写真は 兼 カラーサービス版 ・モノクロームサービス版 とする。

6. 実施図面

- 施工図（現寸図含む）は一切請負者にて製作し、監督員の承認を受けること。尚、部材の寸法、形状は現寸図により決定する。

7. 技 能 士

- 工事の主要な部分については技能士をもって施工する様努める事。尚、工事名、担当技能士名を書面により監督員に通知すること。

8. 現場代理人（施工管理技術者）

- 鉄筋工事・型枠工事・木工事・左官工事・塗装工事・木製建具工事
- 1級建築士又は、1級施工管理技士を常駐 ・ 2級建築士又は、2級施工管理技士を常駐  
尚、経歴書を提出し承認を受けること。
- 代理人は現場にて一切を処理するものとする。
- 現場係員は 1 名以上常駐する。
- 請負人は場内職工人の出入を管理し、残材、不要材は直ちに場外へ搬出し場内の整理を行い、火災・第3者災害  
○ その他の事故防止について十分に注意する。又、必要に応じてガードマン等を配置する。

9. 現場管理

- 図面 ○ 現況GL ○ BMより
- 検査に先立ち社内検査を実施し、結果を文書で報告する。
- 工事着工より竣工までの間請負者は本工事の全ての物件に対して、支払額に相当する金額の損害保険（火災保険を含む）を付し、写しを提出する。
- 本工事に対し施工者が必要とする官公署の手続きは、施主の協力を得て工事施工者において行う。尚、これに要する費用は施工者が負担する。
- 現場の納り、取り合わせ等の関係で材料の寸法、取付位置等の軽微な変更は、監督員の承諾を受けて行い請求金額の内で施工する。

10. 設計GL

11. 社内検査

12. 損害保険

13. 官公署に  
対する手続

14. 軽微な変更

15. 設計変更 ○ 工事の変更に伴い設計変更の必要が生じた場合は異議なくこれに応じ、且つ、これにより工事費に増減を生じた場合は、工事内訳書に準拠して工事費の増減を行う。
16. 養 生 ○ 工事係員が必要と認めた場合には、道路、その他に対して損傷を生じさせない様措置する。尚、これをあてた場合には、直ちに復旧すること。
17. そ の 他 ○ 工事打合わせは ・ 毎週 回（ 曜日） ○ 適宜行う。  
○ 現場事務所に建設大臣官庁官庁営繕部監修建築工事共通仕様書（最新版）を常備する。

2 章 仮 設 工 事

1. 仮 囲 い ○ 構造（鉄板製 ・ 木製 ○安全ロープ張り） 仕上（ペイント塗り ・ 仕上なし）  
○ 高さ（ ・ 1.5m以上 ・ 1.8m以上 ・ 2.4m以上）

2. 仮設建物 ○ 場内仮設計画書を作成して係員に提出する。請負者負担にて工事期間中仮建物、備品を無償貸与する。  
○ 係員詰所 約 10㎡ ○ 保安帽 2ヶ ○ 軍手 ○ 長靴 2足 ・ 防寒服 ・ その他設備等  
※ 標示する（亜鉛鉄板ペイント仕上）

3. 工事標示 種類 ○ 設計監理（○ 600×880（様式1参照） ・ 監督員打合せ）  
○ 住宅金融公庫融資工事（ ・ 900×900 ）  
○ 工事名（ ・ 900×900 ）  
○ 発注者（ ・ 係員打合せ ）

4. 保護設備 ○ 隣接建物及び通行人に対して損害を与えない様、必要な保護設備を計画し実施しなければならない。万一損害を与えた場合、速やかに応急手当及び復旧工事を請負者の負担で行う。

5. 敷地境界線 ○ 設計図に基づき敷地実測確認の上、施主ならびに監督員必要に応じて隣地所有者又は関係官署監督員立会の承認。

6. 地耐力試験 ○ 箇所数 箇所とし基礎底面で行う。 設計地耐力  $t_e$  t/m<sup>2</sup>

7. 清掃復旧 ○ 工事完了引渡し前に全ての清掃を行い、公道等の工事による損害箇所は完全に復旧する。

8. 工事用水 ○ 構内既存の施設 兼 利用できない ・ 利用できる（ ・ 有償 ・ 無償）  
工事用電力

3 章 土 工 事

1. 敷地整地 ○ 敷地内にある障害物など監督員と打合わせの上、工事に支障のないよう整理する。

2. 根切り ○ 工法は着工前に計画図を作成し、監督員の承認を受ける。又、止工工事必要の際は十分な安全対策を考える。

3. 埋戻し ○ 根切り終了後、監督員の立会検査を受ける。

4. 残土処分 ○ 根切土使用B種 ・ 搬入土（ ・ 切込砂利 ・ 山砂の類 ・ その他（C種及びD種）  
○ 場内処分（ ・ 敷均し整地 ・ 集積天端均し） ※ 場外処分（ 兼 自由処分 ・ 指定場所 ）

5. その他 ○ 工事に支障をきたす雨水・湧水・溜水等は、ポンプ等により適切な処置をする。  
○ 低騒音型、低振動型の建設機械を使用する。

4 章 地 業 工 事

1. 既 製 杭 ○ 材質 ・ RC杭 ・ PHC杭 ・ SC杭 ・ 鋼製杭（JIS A 5525）  
○ 長さ・径・継手・支持力は設計図による。  
○ 指定製作会社：

2. 場所打ち  
コック杭 ○ セメント使用最少値 ・ 310kg/cm<sup>2</sup> ・ 340kg/cm<sup>2</sup>  
○ 工法 専門業者の仕様による。 長さ・径・本数・継手・支持力は設計図による。  
○ 割ぐり地業 ○ 割ぐり石・割玉石または玉石で150mm内外で硬質のもの。

3. 砂利地業 ○ 切込砂利、切込砕石とし、最大粒径は80mm以内としランマー等で締固める。

4. 均しコック ○ 兼 50mm ・ 30mm ・ 60mm  $F_o = 16N/mm^2$ 以上 ※ SL-8cm ・ 15cm

5. 杭打工法 ○ 打撃工法 ・ オーガー併用工法 ・ セメントミルク工法（大臣認定工法）

7. そ の 他 ○ 現場において発生する騒音・振動・油類の飛散などによる近接に及ぼす影響を防止する。

5 章 鉄 筋 工 事

1. 材 料 ○ 異形丸鋼 JIS G 3112・JIS G 3117 ※ 規格品（証明付） ・ 規格相当品（強度保証）

- 継手 ※ 重ね継手（D16以下） ・ ガス圧接継手（D19以上 5・3・1による）
- 指定製造会社（異形丸鋼）： 新日本製鉄・神戸製鋼所・川崎製鉄・大阪製鋼・住友金属工業・中山製鋼・日本製鋼

2. 加工組立 ○ 鉄筋は設計図に指定された寸法及び形状に合わせて常温で加工する。鉄筋には点付け溶接、7・3トクを行わない。  
○ 異形鉄筋の、末端部には、下記の場合フックを設ける。  
a. 柱の四隅にある主筋で、重ね継手及び、最上階の柱頭にある場合。  
b. 梁の主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の外側にある場合。但し、基礎を除く。  
c. 煙突の主筋 d. 帯筋、あばら筋及び幅止め筋 e. 杭基礎のベース筋

3. 取り扱ひ ○ 鉄筋は、受合等の上に種類別に整頓して置き、直接地面に置いてはならない。また長期間屋外に貯蔵する場合はシート等で覆い養生を行う。

4. 施工計画書 ※ 提出する。

6 章 コ ン ク リ ー ト 工 事

1. 材 料 ○ 普通ポルトランドセメント JIS R 5210

2. 混 合 剤 ○ A E 剤（レミコン納入会社使用品） ・ A E 減水剤標準型  
○ 混和剤（防水、止水剤） ・ ブラジック（ ） ・ コンブラスト211（ ） ・ ブラジック止水板

3. 1 ェ イ ミ タ ト ン ク リ ー ト ○ 兼 1 類 ・ 兼 2 類

4. 設計基準強度 ○ 一般  $F_o$  ( 1 階 ) 18t3 N/mm<sup>2</sup>  $F_o$  ( 階 ~ 階 ) N/mm<sup>2</sup>  
○ 土間  $F_o$  18 N/mm<sup>2</sup>

5. 所要スラブ ○ 基礎・地中梁・土間・捨コン ・ 15cm ○ 18cm  
○ 柱・梁・床版・壁 ※ 18cm

6. 気温による温度補正 ※ 必要

7. 製造工場 ○ JIS A 5308 による JIS 表示許可工場とし、配合報告書を提出する。
8. 寒中コック ○ コンクリート打設後4週までの期間の、予想平均気温約3℃以下の場合に適応する。  
○ 工事開始前に、養生方法及び保温管理方法を定め、監督員の承認を受ける。  
※ 積算温度方式による。
9. コック強度  
の試験 ○ 各調査種類については150m<sup>3</sup>以内毎に1回且つ、一打設区画毎に1回の割合で、供試体の数は1回につき3個又は、監督員の指示による。又、試料採取はコンクリートの打設地点とし、1バッチから1個ずつ採取する。  
○ スランブ試験、空気量、温度の測定は第1台目のレミコン車で行い、不合格の場合は打設を中止し、調査の確認をする。  
○ 供試体 標準養生 1週1回 4週1回  
現場水中養生 1週1回 4週1回
10. 型 枠 ○ 一般コンクリート面○種 市販合板パネル ※ 12mm ・ 15mm （再使用可）  
○ 打放し面（ ・ A種 ※ B種 ） 市販合板パネル ※ 12・15mm（新品使用） 尚、フォームタイ使用とし割付等正確に行う。  
※ 提出する。
11. 施工計画書

7 章 鉄 骨 工 事

1. 材 料 ○ 表 7・2・1及び表 7・2・2による。 ※ 規格品 ・ 適合品

2. 普通ボルト ○ SS 400 中級ボルト程度 JIS B0205とし、ボルト-JIS B1180 ナット-JIS B1181 座金-JIS B1256とする。

3. アンカーボルト ○ SNR 400B ○ SS400

4. 高力ボルト ○ JIS B 1186 ※ 2種 \$ 10T ・ M17型高力ボルト 2種（ \$ 10T）  
○ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト（1種 F 8 T）

5. 溶接材料 ○ 本締完了後ボルト締付検査を行い、成績書を提出する。  
○ 表 7・2・5による。

6. 溶接技能者 ○ JIS Z 3801 JIS Z 3841の資格を有する者とし、資格証明書を提出する。

7. 防錆塗料 ○ 鉛丹系（JIS K 5622 の規格品）又は、シアナミド系（JIS K 5625 1種の規格品）とする。  
○ 工場1回塗り現場1回2回塗り

8. 柱底均し仕上 ○ 無収縮モルタル

9. 施 工 ○ 工事着手前に加工組立工法の詳細を表す工場加工要領書及び加工組立要領書を作成し、監督員の承認を受ける。  
※ 目視検査 ・ 浸透探傷検査 ・ 放射線透過試験法 ・ 磁粉探傷法 ○ 超音波探傷法

10. 溶接部の検査 ○ 全鋼造スラブ（ Mクラス以上）工場 -----（完全溶込み溶接部）

11. 指定製作所 ※ 提出する。

12. 施工計画書

8 章 ブロック及びALCパネル・PCカーテンウォール工事

1. コックロ ック ○ 空洞コンクリートブロック（ ・ 100mm ・ 120mm ・ 150mm ）（ ・ 08 ・ 12 ・ 16 ）  
○ 防水ブロック（ ・ 100mm ○ 120mm ・ 150mm ）（ ・ 08 ・ 12 ○ 16 ）  
○ 耐火コンクリートブロック（ ※ 120mm ）  
○ その他設計図による。

2. 指定製作工場 ○ JIS許可工場とし、その他は監督員の承認による。

3. 配 筋 ○ JIS G 3112 SD 295A 規格品 縦 D 10-400 横 D 10-400 外壁 縦 D13-400 コナ部 D-13

4. ALC版 ○ 材 料 外 壁 ・ 100mm ・ 120mm ・ 150mm スラブ ・ 100mm ・ 120mm ・ 150mm  
○ その他 ・ 100mm ・ 120mm ・ 150mm  
※ パネル割付図を作成し、監督員の承認を受ける。  
※ 下地防水処理を行い取付する。

5. そ の 他 ○ 指定製造会社 ・ シノレックス ・ 旭化成ヘーベル ・ イトン

9 章 防 水 工 事

1. 一般工事 ○ 本工事は全て責任施工とし、請負者及び施工会社連名捺印の上、保証書を提出する。

2. 7mm防水 ○ 種別 ○ 歩行用屋上防水 ・ 屋内防水 ・ E-1 ・ E-2  
○ 屋上露出防水 ・ D-1 ・ D-2

3. コック複合防水 ○ 種別 ○ 歩行用屋上防水 ・ 非歩行用屋上防水 ※ 鋼ダイフレックス同等品

4. 脱気装置 ○ 兼 1ヶ所/100m<sup>2</sup>~150m<sup>2</sup>

5. その他の防水工法

6. 保証年限 ○ 7年間 ・ 10年間 ・ 15年間

7. シーリング ○ 表 9・5・1による。  
○ 防火戸に使用するシーリングはJIS A1304に合格した難燃性のミール材とする。  
○ 外部に使用するシーリングは耐凍害性のミール材とする。  
○ コンクリート打継目（幅150） ○ 受水槽壁まわり ○ 1階壁の土に接する部分

8. 無機質浸透型  
塗膜防水剤 ○ 指定製造会社 ・ 日本パンテックス ・ 恒和化学ワタックス ・ 大関化学工業（株）バラテックスB-2

9. セメント防水 ○ 工法等施工会社の責任施工とする。  
○ 保証年限 ・ 5年間 ・ 7年間 ・ 10年間  
※ 施工計画書を提出する。  
※ 防水検査報告書を提出する。（防水浸透検査書 48時間）  
○ シーリングは簡易接着性試験を行う。

10. そ の 他

10 章 石 工 事

1. 材料・仕上 ○花こう岩（・国産 ・外国産） ※つや出し本磨 ・つや消し本磨 ・水磨 ・プラスト  
 ○大理石（・国産 ・外国産） ※つや出し本磨 ・つや消し本磨 ・水磨 ・プラスト  
 ○テラゾーブロック ※本磨（※大理石の類） ・水磨 ・プラスト

2. 指定製作所 ○監督員の承認を受ける。

3. 定 礎 ○材料 御影石 400×600 程度  
 ○定礎石に記載する内容は監督員と打合わせすること。

4. 銘 板

11 章 タ イ ル 工 事

1. 材 料 ○JIS A 5209 による。

2. 役 物 ※使用する ・使用しない ・内部タイルは使用する。

3. 見 本 焼 ・必要 ※不要

4. タイル割図 ○タイル割図を作成し、監督員の承認を受ける。

5. 目 地 ○特記無き限り柱の両側及び中間3M程度の伸縮目地を取る。（外壁）-SR-2

6. 工 法 ○内装タイル-接着張。 外装タイル-改良圧着張及び接着張。

7. 指定製作所 : -----

施工箇所	品 名	施工箇所	品 名
ボ 子	INAX ビアツア(OXシリーズ)同等品		

※ 内装タイルの入隅は、シーリング処理とする。

12 章 木 工 事

1. 材 料 ○構造材及び下地材 ・小節 ※1等（見え掛り材は上小節）  
 ○造作材及び仕上材 ・無節（ ） ・上小節（ ） ○小節（ 枠材 ）  
 ・ラワン（ ） ・ナラ（ ） ・タモ（ 枠材 ）

2. 乾燥木材 ○雑木林及び堅木は、※ラワン ・ナラ ・タモ ・カバ とする。  
 ○含水率 ※構造材 20%以下 ※造作材 15%以下 使用箇所  
 ○指定製作所 : JAS品とする

3. 防 腐 剤 ○表示のある木材を使用する  
 ○コンクリートに接する箇所は全てキシロモン塗りとする。  
 ○取付用ボルトは亜鉛メッキとする。  
 ○樹種は、タモ サンダー掛けとし、昭和木材製品及び同等品以上とする。

4. 集 成 材 ○JIS規格で市販品を使用する。

5. 諸 金 物 ○設計図に記入のないものは、下記による。 ※木造土台は、防腐処理土台とする。  
 ・洋室まわり-ラワン材 和室まわり-青木

13 章 屋 根 及 び 板 金 工 事

1. 材 料 ※ 塗装溶融亜鉛メッキ鋼板 JIS G3312 厚 (0.35 ・ 0.4 ・ 0.5 ・ 0.8)  
 ・ 塗装溶融亜鉛アルミニウム合金メッキ鋼板 JIS G3318 厚 (0.35 ・ 0.4 ・ 0.5 ・ 0.8)  
 ・ 冷間圧延ステンレス鋼板 JIS G4305 厚 (0.4 ・ ) ( ・ カラー ・ 生地)  
 ・ ポリ塩化ビニール被覆金属 厚 ( )

2. 工 法 ○長尺瓦葺 ※ 銅掛葺 ・ 一文字葺 ・ 平板葺 ( ・ 中間リブ付 ) ・ 横葺 ・ 折板  
 ・ シーム溶接工法 ○水密工法

3. 下 地 ※ アスファルトルーフィング 22kg ・ 合成樹脂発泡板 20 mm  
 ○木毛板 30 mm ・ ドリソール mm ・ 青木荒板 12mm ・ 型枠用合板 mm

4. 指定施工会社 : -----

14 章 金 属 工 事

1. 軽量鉄骨下地 a. 天井 (JIS A 6517) ○野縁などの種類 屋内 ※ 19形 ・ 25形  
 ○開口部補強材の種類 屋外 ※ 19形 ・ 25形 ※ 防錆処理  
 ※ 50形 (ボード片面張の場合に適用する。) ○間柱及びランナーの種類 ※ 65形 (高さ4m以下)  
 ○開口部補強材の種類 ※ 65形 ・ 90形 ・ 100形 ※ 防錆処理  
 ○間柱の間隔 ※ 830mm (直張、他) ※ 845mm (下地張有り)  
 ○振止めは間柱の高さにかかわらず間隔1.2m以内とする。

2. スルミの仕上 ○特記無き限り SUS 304 HL 仕上とする。但し、塗装部分は No.2 D (JIS G 3405) 仕上とする。

3. スルミの表面処理 ※ 無着色陽極酸化皮膜 (B-1) ・ 着色陽極酸化皮膜 (B-2)

4. 鉄の亜鉛メッキ ※ 溶融亜鉛メッキ 2種

5. インサート ○SSインサートC型足付とする。但し最上階は、断熱インサートを使用する。

6. ノンスリップ ○ステンレス ・ アルミニウム ・ スチール ・ 黄銅 ・ ゴム入ナカ式ハイステップHL程度  
 ・ 30mm ○ 35mm ・ 38mm ・ 40mm  
 ※ アルミニウム製 (床 ・ 450×450 ※ 600×600) (天井 ※ 450×450 ・ 600×600)  
 ※ 表面は床及び天井仕上材に合す。  
 ・ 鋳鉄製マンホール ・ 450φ ・ 600φ ・ 防水型 ・ 防臭型  
 ・ 100×160 ・ 120×180

8. 灰 出 口 ※ 鋳鉄製丁番付

9. 床下換気口 ※ 鋳鉄製 ・ プラスチック製 ・ 開閉式 (網張り) ・ 開放式 (網張り)

10. フード ○一般 ・ 1.0 ステンレス製 ・ 1.6 スチール製 SOP ・ プラスチック製  
 ○アルミニウム製 ( ・ 焼付塗装 ・ セルフード ・ パツフル型)  
 ○延焼区域 ・ 1.0 ステンレス製 FD付 ・ 1.6 スチール製 FD付 SOP ・ プラスチック製  
 ○アルミニウム製 FD付 ( ・ 焼付塗装 ・ セルフード ・ パツフル型)

11. レジスター ※ ステンレス防虫網付 ・ 防鳥網付  
 ○プラスチック製 ・ スチール製 FD付 (延焼区域)

12. 厨房用フード ○レジスター、フード共、設計図に記入のない限りプラスチック製 150×200 とする。  
 ・ 1.0 ステンレス製 ・ 1.6 スチール製 ・ 0.4 カラー鉄板製 ・ プラスチック製  
 ・ 1.6 スチール製 FD付

13. クラップ ※ サラン防虫網付 ・ 防鳥網付  
 ・ 屋外 ( ・ ステンレス製 ○アルミニウム製 ・ スチール製 SOP ) 仕様  
 ・ 屋内 ( ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 ・ スチール製 SOP ) 仕様  
 ・ アルミニウム製 ○スチール製 ステンレス製 仕様  
 ・ ノンシールタイプアルミニウム押出成形材 ( ・ カラー )

14. 手 摺 り

15. 屋上笠木

16. 床下コンクリート金物  
 ・ 1.6 鋼板製 ・ 0.4 カラー鉄板  
 ・ ステンレス製 ・ アルミニウム製 ( ・ カラー ) ・ 鋼板製

15 章 左 官 工 事

1. セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント

2. 外壁モルタル ○ 塗厚 25mm以上 ※ 防水モルタル (ウォータイトB、マノール同等)  
 ○ 外部建具まわりは無収縮防水モルタルとする。

3. モルタル詰 ○ 調合比 セメント:パワート:砂=1:3:0  
 ○ 使用場所により調合を変える時は、監督員の承認を受ける。東邦パワート同等品とする。

4. パワート詰 ○ 開口部隅、合成樹脂発泡板、下地ボード継目など、亀裂の恐れのある箇所は、ラス等を使用し有効な下地処理を行う。

5. 亀裂防止 ○ アスファ-、JIS 6904の規格品とする。 塗厚 20mm以上 (下地コンクリート他) 13mm以上 (5φ-ド下地)

6. 石膏プラスター ○ 比重 0.3g/cm3 (JIS A9504)  
 ○ 柱 ・ 30mm以上 ・ 45mm以上 ・ 60mm以上 屋根 ・ 10mm以上  
 ○ 外壁非耐力壁 ・ 20mm以上 ・ 30mm以上 鉄板床 ・ 15mm以上 ・ 20mm以上

8. 床コンクリート直均し仕上げ (15・5・2による)

9. 打放しの種別 ○ A種 ※ B種 ○ C種

10. 内部モルタル仕上 内壁 20程度 床 30程度

16 章 建 具 工 事

1. 7mm以上鋼製建具 ○ 表面処理 ※ 陽極酸化 (以上) ・ 電解着色 ・ 自然着色 (全て絶縁処理)  
 ○ 気密性 A-3 (8等級) 水密性 W-4 (350Pa)  
 ○ 指定製作所 ○ 三協アルミ ○ 吉田工業 (YKK) ○ 立山アルミ ○ 新日軽

2. 鋼製建具 ○ 鋼板は表面処理亜鉛メッキ鋼板とし、亜鉛の最少付着量が面で 180g/㎡ 以上とする。  
 ○ 防火戸の場合の煙感知器及び熱感知器は、鋼製建具に含むものとする。

3. スリット製建具 ○ 指定製作所 : 上記アルミ製建具製作所と同じ。  
 ○ ステンレス鋼板 JIS G 4305、SUS 304、※HL仕上とする ・ 鏡面仕上  
 ○ 工法 ※ 普通曲げ ・ 角出し曲げ  
 ○ 指定製作所 :  
 ○ 開閉機構

駆動方式	開閉方法	検出装置	安全光線の併用
・電動油圧式又は電動空気圧式 ※電気式	・引き戸 ・開き戸	・マットスイッチ ・電波 ・熱線 ※電磁マット ・タッチスイッチ	※あり ・ なし

4. 自動扉 ○ 指定製作所 :  
 ○ スラット及びシャッターケース用鋼板は、鋼製建具と同等とする。

5. 重量シャッター ○ ガイレルール、まぐさ、座金又は座板の包み板、開閉機のカバー及びスイッチボックスのカバーは、ステンレス鋼板 SUS 304 とする。  
 ○ 形式・機構 ※ 上部電動式 (手動併用)  
 ・ 手 動 式 ・ 普通シャッター ・ 防塵シャッター ・ 防火シャッター  
 ・ 三和シャッター ・ 文化シャッター

6. 軽量シャッター ○ 指定製作所 ○ 材 料 スラットの鋼板は亜鉛メッキ鋼板に合成樹脂塗料の焼付を行ったものとする。  
 ○ 厚 さ ※ 0.5mm ・ 0.8mm ・ バイブシャッター  
 ○ 機 種 ※ 上部電動式 ※ 手動式  
 ○ 指定製作所 ○ 三和シャッター ・ 文化シャッター

7. 木製建具 ○ 樹 種 建具表に記入のないものは松材とする。  
 ○ 金 物 見本品を提出し監督員の承認を受ける。  
 使用所・洗面所・浴室・厨房類の丁番は、ステンレス製 (SUS 304) とし、  
 その他は鋼製メッキ品ブッシュ付儀星丁番とする。

8. 建具共通使用 ○ 指定製作所 :  
 ○ 検 査 係員の工場製品検査・行う ○行わない、製品は社内検査に合格したものとし、  
 検査成績書を監督員に提出する。  
 ○ 鍵 鋼製建具と木製建具は同メーカーとする。  
 ○ マルキ ※ 製作する。(1組3個) ・ 製作しない  
 ○ 指定製作所 ○ 美和 ○ ホリー ○ ゴール  
 ○ その他建具図による。

9. 製品検査報告図

10. ガラ ス ○ 防火戸・防塵シャッター性能検査表、鋼製建具成績書を提出する。  
 ・ 複層硝子 ( ・ LOW-E )  
 ・ 熱線吸収ガラス ( ・ ブロンズ ・ グレー ・ ブルー )  
 ○ アルミニウム製 ※ シーリング材 SR-1 ・ グレーチングチャンネル  
 ○ 鋼製建具 ※ シーリング材 SR-1 ・ パテ  
 ○ 複層硝子、合せ硝子、網入硝子 ※ シーリング SR-1  
 ○ ステンレス製 ※ 押縁 (木製パテ併用)

11. ガラス留め材 ○ 複層硝子 ( ・ LOW-E )  
 ・ 熱線吸収ガラス ( ・ ブロンズ ・ グレー ・ ブルー )  
 ○ アルミニウム製 ※ シーリング材 SR-1 ・ グレーチングチャンネル  
 ○ 鋼製建具 ※ シーリング材 SR-1 ・ パテ  
 ○ 複層硝子、合せ硝子、網入硝子 ※ シーリング SR-1  
 ○ ステンレス製 ※ 押縁 (木製パテ併用)

12. 網 戸 ○ サラン ・ ステンレス網 ・ グラスファイバー

13. そ の 他

17 章 塗 装 工 事

※ JIS規格品とする。

1. 一般塗料 ○ 一般塗装用塗料は原則として同メーカーの資材を使用し施工する。

2. リシン吹付 ○ セメント系 ※ 合成樹脂エマルジョン系

3. 吹付タイル ○ モルタル下地は特記無き限り刷毛引仕上とする。  
 ・ 無機質系 ※ 有機質系 ( ○ E ・ RE ・ RS )  
 ○ モルタル下地は全て金コテ仕上とする。  
 ○ 仕上 ・ クレーター仕上 ・ キャスト仕上 ○ 凹凸仕上

4. 指定製造会社 ○ 日本ペイントKK ○ 関西ペイントKK ・ 神東塗料KK ・ 大日本塗料KK ・ 東亜ペイントKK  
 ○ 日本油圧KK ○ 四国化研工業 ○ 明研化学 ○ 吹付専門メーカー  
 ・ ALC版外壁面 ・ コンクリートブロック外壁面

5. 7層処理 ○ オスモカラー ・ キシラアコール ○ サドリソ

7. 業地ごしえ ○ 全ての塗装面 ※ B種

8. その他の塗装 VP 塩化ビニールエナメル ( ・ A種 ※ B種 ) JIS K 5582  
 OP 合成樹脂調合ペイント ( ・ A種 ※ B種 ) JIS K 5516  
 AEP 合成樹脂エマルジョンペイント ( ・ A種 ※ B種 ) JIS K 5663 木部用  
 OS オイルステイン 2回塗  
 CL クリヤラッカー ( ・ A種 ※ B種 ) JIS K 5531  
 FE フタル酸樹脂エナメル ( ・ A種 ※ B種 ) JIS K 5572  
 UC ウレタン樹脂ワニス塗 (2液性) ( ・ A種 ※ B種 ) 木部用

9. 錆 止 め ○ 鉛丹錆止めペイント 2種 JIS K 5622  
 ※ シアミド鉛錆止めペイント 2種 JIS K 5625  
 ※ 一般錆止めペイント 1種 JIS K 5621 (屋内)

10. 亜鉛めっきの錆止め ※ 17・3・2 表による。

18 章 内 装 工 事

1. 床用ビニール ○ 地盤、1階、階段及び湿気しやすい床は、エポキシ樹脂系で接着施工する。  
 及びビニール床シート ※ ビニール床シート JIS A 5707

品 種	工 法	厚 さ (mm)	場 所	品 名
・ 一 般 用	・ 溶接張り	・ 2.0 ・ 2.5		
・ 重歩行用 (歩道用)	・ 突付張り	・ 2.0 ・ 2.5		
・ ノリ付張り				

※ ビニールタイル JIS A 5705 仕様 ※ 厚さ2mm マチコV同等品

2. 塗 床 ○ 材種 ・ ウレタン系 ( ・ 3mm ) ・ エポキシ系 ( ・ 3mm ・ 6mm )  
 ○ 仕上 ・ 平滑仕上 ・ 防滑仕上 ・ つや消仕上

3. ボード類及び合板類 a. 石膏ボード ・ (JIS A-6901) 全て防火材料の認定表示のあるものとする。  
 ※ クロス・塗装下地は継目処理工法とする。

b. 化粧石膏ボード、特殊化粧石膏ボード (表面にオーバーレイ塗装等で加工) エポス  
 ○ 無石棉セメント板 不燃番号 1936号 1837号  
 ○ フレキシブル板 (F) ( ・ 3mm ○ 4mm ・ 5mm ・ 6mm )  
 ・ 平 板 (S) ( ・ 5mm ・ 6mm ・ 8mm )  
 ・ 軟 質 板 (N) ( ・ 4mm ・ 5mm )

d. 岩綿吸音板 (ロックウール吸音板) 不燃番号 1021号  
 ・ 9mm ・ 12mm ・ 15mm ( ・ カラー )  
 捨張 ・ 石膏ボード 9mm ・ 無石棉セメント板 (S) 5mm

工法 A種-接着剤を使用し沈め釘打し張付け、釘穴は表面仕上材と同色のパテ詰とする。  
 鉛木合板及び化粧ボードに使用。  
 B種-釘又は木ネジを使用し張付けるか、これと接着材を併用し張付ける。一般に使用。  
 テーパーボードの継目処理は出隅にはコーナー保護金物を使用し、入隅の処理は継目用テープを二つに折りL型にコーナーに当て一般部分の継目処理に準じて行う。

4. 化粧フロアーボード e. 壁張張り工法 ・ 使用可 ・ 外部断熱材部分以外使用可 ・ 使用不可  
 樹種 ・ ナラ ・ サクラ ・ カバ ・ エルム ※ 見本品にて決定  
 材種は ※ 1・2等級迄 ・ 1等級  
 厚さ ・ 12mm ・ 15mm ・ 18mm

5. フローリング ○ 単層フローリング ( ) ・ 天然木化粧複合フローリング ( ) 仕様

6. 壁紙及び布張り ○ 紙及び布は防火材の認定のあるものを使用する。認定マーク種類一区分 (一面) 毎に2枚以上貼る。  
 ○ モルタル面及びプラスチック面等の下地には、剥離・アルカリ止めとして、シーラーを1回塗る。  
 ○ 接着剤は塩ビ系エマルジョン接着剤を使用する。  
 ○ 指定メーカー : -----  
 ○ 厚 さ ・ 1.8mm ・ 2.0mm ・ 2.3mm ・ 3.2mm  
 ○ 指定メーカー : -----

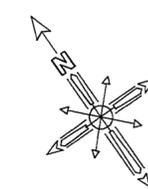
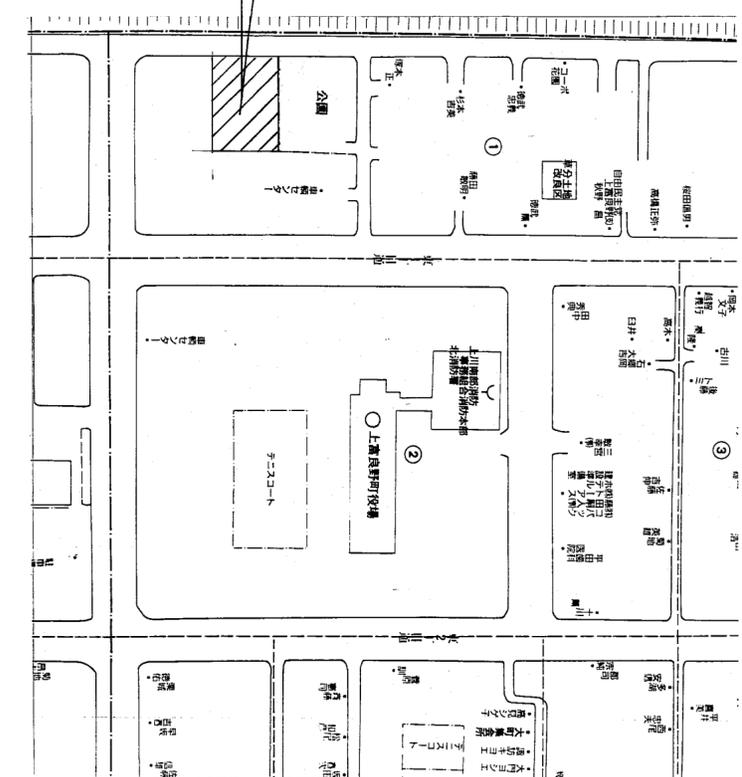
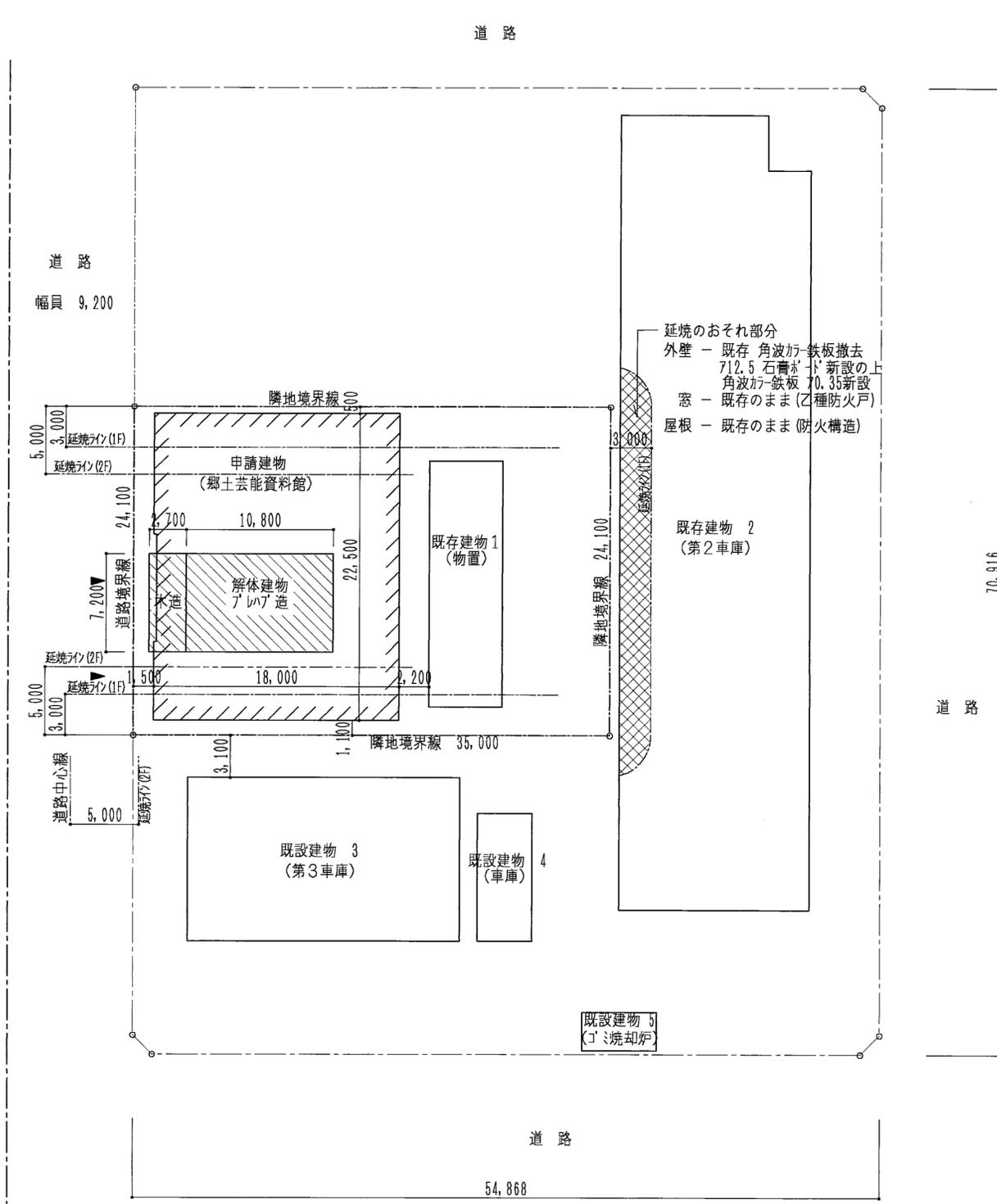
7. クッションフロア ○ カーベットは消防法に定める防火性能を有するものとし、認定表示のあるものとする。  
 ○ 種別 ・ パンチ縫 ・ ループ織 ・ カットバイル ・ ウール100%  
 ・ ラバー付 ・ ラバーなし

8. カーベット ○ 指定メーカー : -----  
 ○ 厚 さ ・ 1.8mm ・ 2.0mm ・ 2.3mm ・ 3.2mm  
 ○ 指定メーカー : -----

9. 畳 敷 き ○ 畳床は、(JIS A 5901) により防虫処理を行ったものとする。  
 ○ 種別 ・ A種 ※ B種 ・ 合成畳 (C種)  
 ※ 畳床は北海道畳工業組合の証紙を貼付したものを使用する。  
 ○ 柔道畳 ※ 講道館指定 2級品

10. デザインフロアー





附近見取図



用途地域 : 第2種住居地域  
敷地面積 : 843.5m<sup>2</sup>

	新設建物	既設建物	合計
建築面積	405.00m <sup>2</sup>	97.20m <sup>2</sup>	502.20m <sup>2</sup>
延べ床面積	483.67m <sup>2</sup>	97.20m <sup>2</sup>	580.87m <sup>2</sup>

建ぺい率 59.53% (60%)  
容積率 68.86% (200%)

配置図 1/300

建物概要

地業	基礎	構造	建具
直接基礎	鉄筋コンクリート造	鉄骨造	スチール製ドア・スライディングドア(手動)
			アルミ製ドア, アルミ製窓, 木製ドア(内部)

外部 仕上表

床	腰壁	上部壁	軒天	屋根	断熱	備考
コンクリート直均し仕上	防水コンクリート 7120	防火サイディング 712	長尺カラー鉄板 70.35	長尺カラー鉄板 70.35 (水密工法)	布基礎廻り(外壁面のみ): 合成樹脂発泡板 730 打込み(B-2)	アルミタラップ
一部 100角タイル(磁器質)	両面化粧積 (6段)	一部長尺角波カラー鉄板 70.35 下地 石膏ボード 712.5(防火構造)		アスファルトルーフィング 22kg 下地 木毛板 730 合成樹脂発泡板 720 (B-1)	ピット 天井 : 合成樹脂発泡板 730 打込み(B-2) 便所, 準備室(壁, 天井): グラスウール 16kg 775(壁)・7100(天井) ※ グラスウールの室内側にはビニールシート 70.15を 施工する。	

内部 仕上表

階	室名	床	巾木	壁	天井	天井高	備考	
1階	風除室	コンクリート直均し カラクリート	ビニール巾木 H=60	木毛板 715表し(鉄骨胴縁下地)	化粧石膏ボード 79.5 (LGS下地)	2,400	レジスター付アルミフード	
	展示場	コンクリート直均し カラクリート		外壁面: 木毛板 720張り 外壁廻り腰壁: コンクリート両面化粧積表し	鉄骨下地、合成樹脂発泡板 720 表し	—	レジスター付アルミフード, 床排水目皿 75φ(4ヶ所)	
	休憩コーナー	コンクリート直均し カラクリート		間仕切壁: 木毛板 715	化粧石膏ボード 79.5 (LGS下地)	2,900	レジスター付アルミフード	
	準備室	ビニール床タイル 72.0 下地 コンクリート直均し仕上	ビニール巾木 H=60	石膏ボード 79.5 GP 流し前 カラー珪藻土ボード 74.0	化粧石膏ボード 79.5 (LGS下地)	2,100	床下点検口 600角 流し台L=1200, 吊り戸棚L=1200, 掃除具入	
1階	便所	ビニール床タイル 72.0 下地 コンクリート直均し仕上	ビニール巾木 H=60	石膏ボード 79.5 GP	化粧石膏ボード 79.5 (LGS下地)	2,350	棚, レジスター付アルミフード 手摺, 天井点検口 450角	
	2階	見学室	ビニール床タイル 72.0 下地構造用合板 712 + ラワン合板 74.0(917Ⅱ)	ビニール巾木 H=60	石膏ボード 79.5 GP	化粧石膏ボード 79.5 (LGS下地)	2,400	レジスター付アルミフード
		物品庫	構造用合板 712 防錆剤塗布	ビニール巾木 H=60	外壁面 : 石膏ボード 79.5 (鉄骨胴縁下地) 間仕切壁: 石膏ボード 79.5	鉄骨下地、合成樹脂発泡板 720 表し	—	木製粗(造付) レジスター付アルミフード
2階	階段室	チェッカープレート OP ビニール床タイル 72.0 下地構造用合板 712 + ラワン合板 74.0(917Ⅱ)	ササラ OP	外壁面 : 石膏ボード 79.5 (鉄骨胴縁下地) GP 間仕切壁: 石膏ボード 79.5 GP	鉄骨下地、合成樹脂発泡板 720 表し	—	手摺, レジスター付アルミフード	

<防火認定番号>

石膏ボード 712.5 準不燃 第2015号  
化粧石膏ボード 準不燃 第2016号

天井廻り縁は、塩ビ製とする。

特記なき限り間地切壁下地はLGSW-65、030とする。

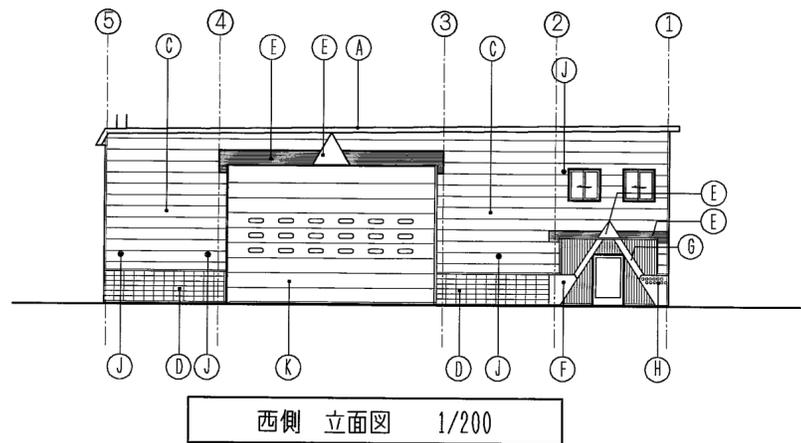
GPは、関西ペイント 7777 同等品とする。

土間下には、全てスリット 70.15敷込みとする。

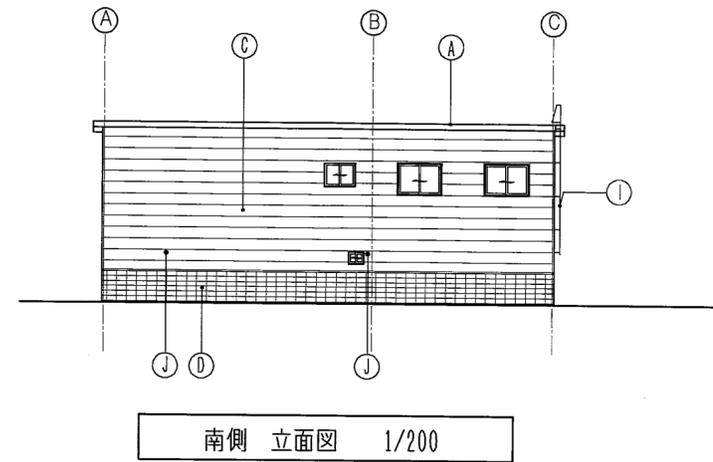
特記なき限り壁石膏ボードは、ペペボード 突付張りとする。

鉄骨胴縁下地に石膏ボードを貼る部分は、下地に70.15 W60程度を施工する。

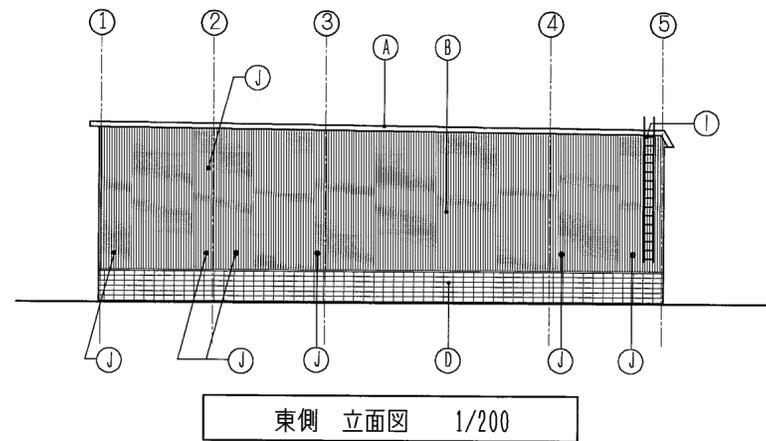




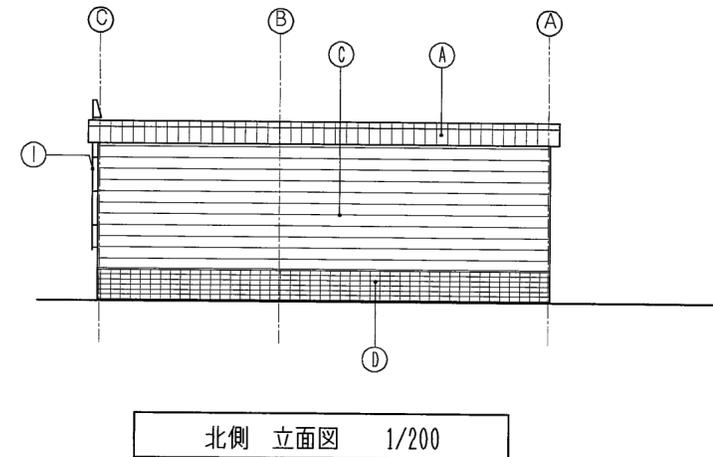
西側 立面図 1/200



南側 立面図 1/200



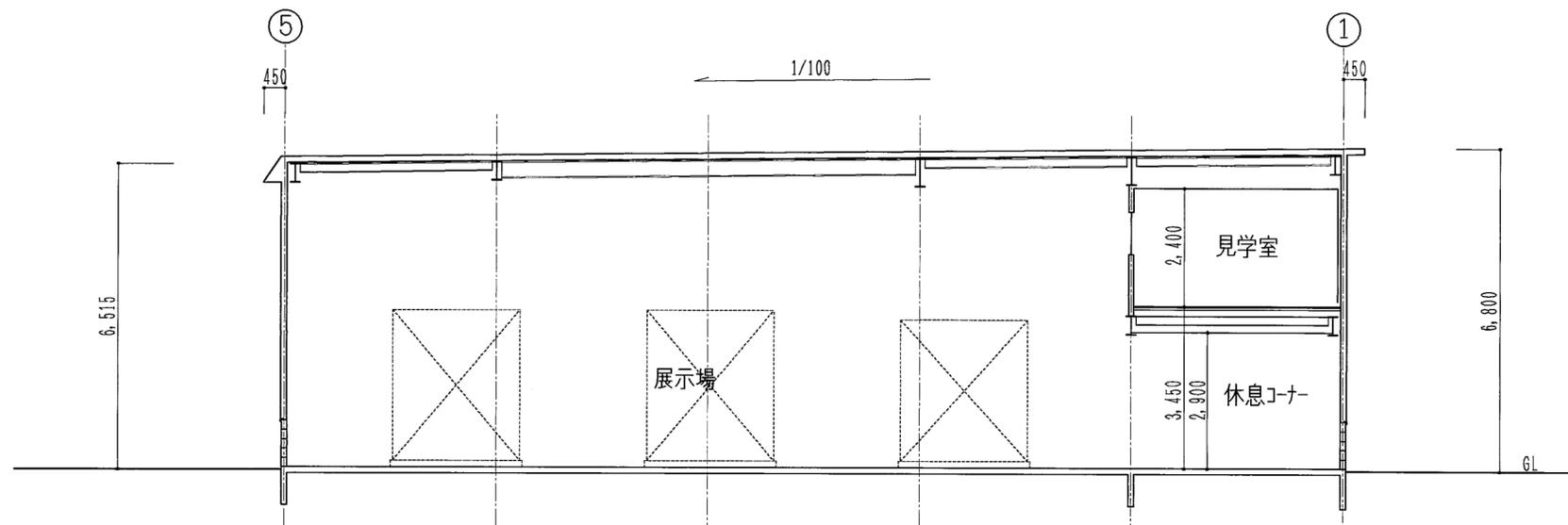
東側 立面図 1/200



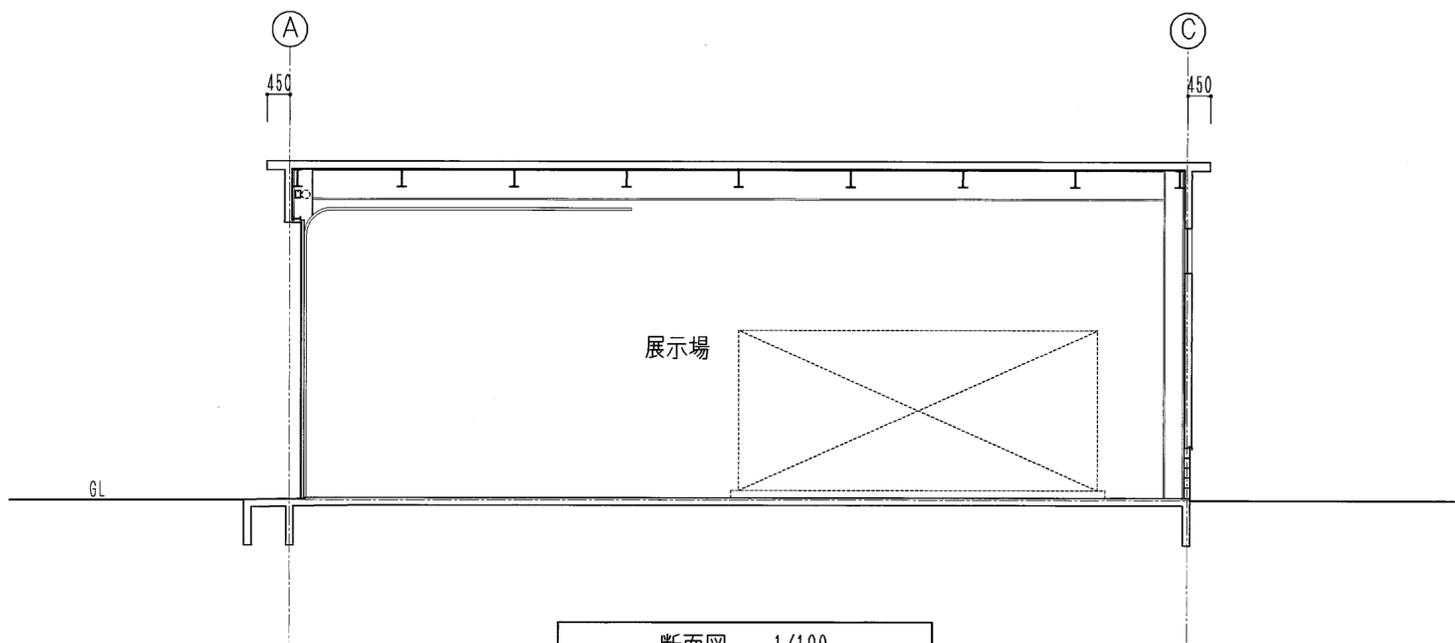
北側 立面図 1/200

仕上表 (外部)

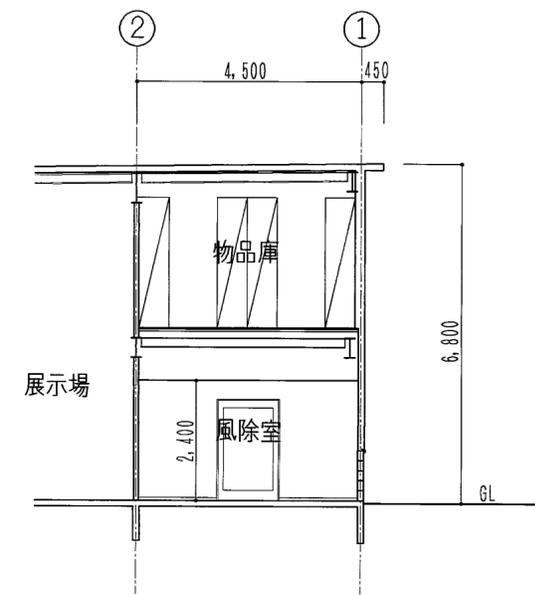
A	長尺角-鉄板 70.35 (水密工法)	E	防火サイディング 712 (無塗装板)の上 吹付タイル	I	アルミ製タラップ L-5,800
B	長尺角波角-鉄板 70.35 張り	F	打放しコンクリートの上 特殊塗料塗り	J	アルミフード
C	防火サイディング 712 張り	G	鉄骨現し OP塗	K	オーナースタイル-(スチール製) W8.300×H5.500
D	コンクリートブロック 7120 (防水型) 化粧目地積	H	館名文字 コンクリート彫込文字 100×100 12文字		



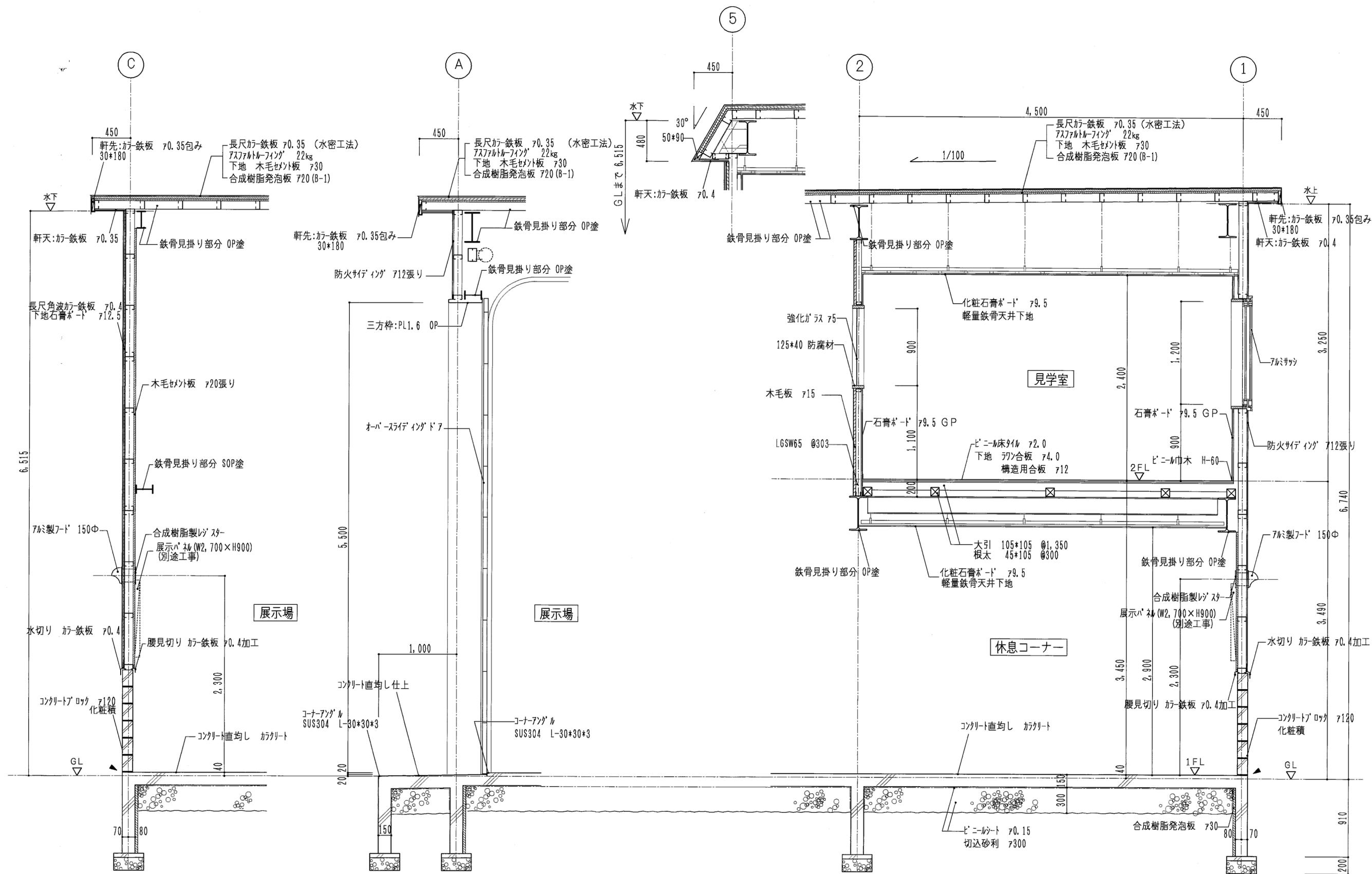
断面図 1/100



断面図 1/100



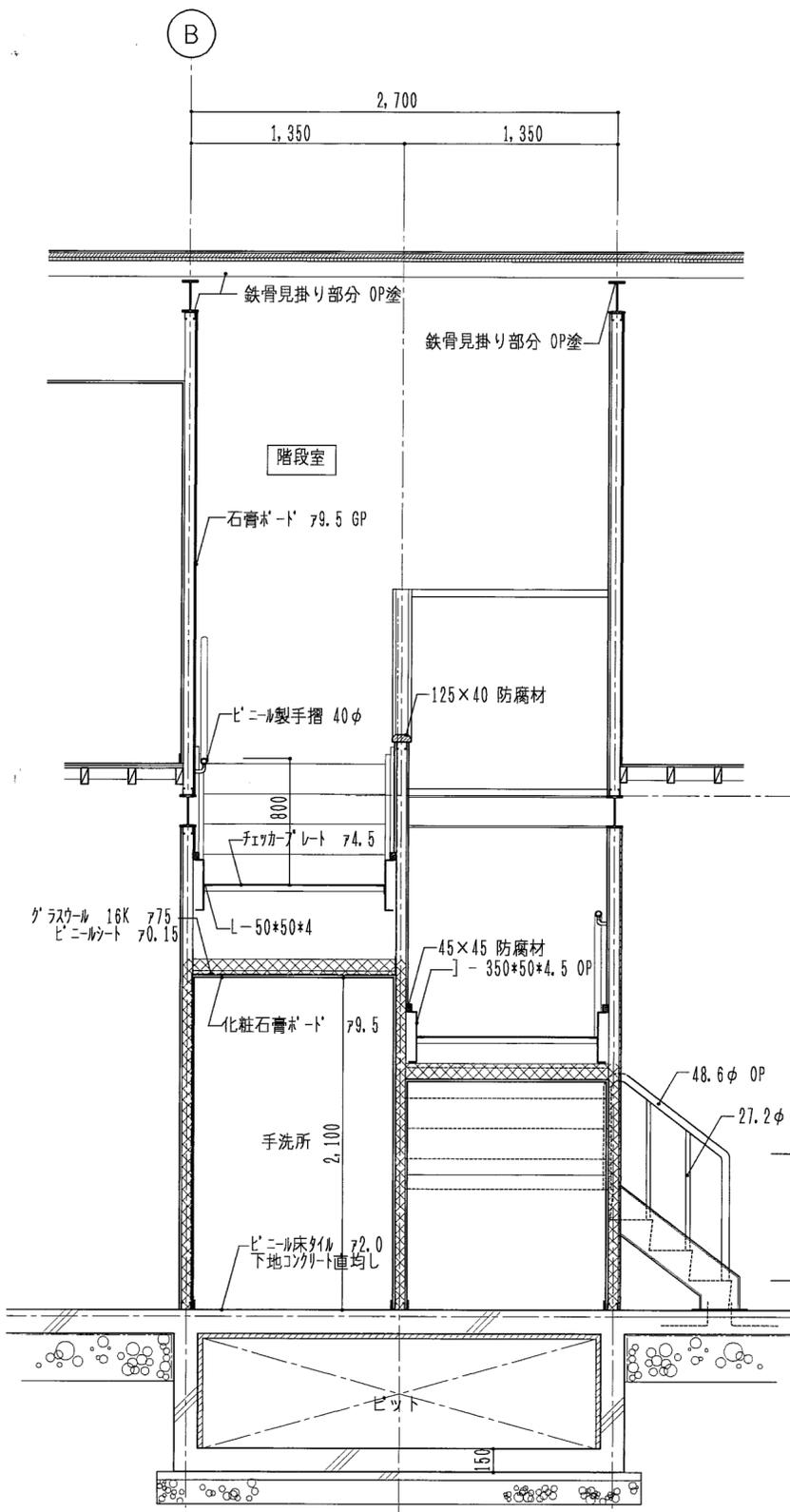
断面図 1/100



凡例  
シーリング ▶ PS-2 17×10 (ポリサルファイド系)

矩形図 1/30

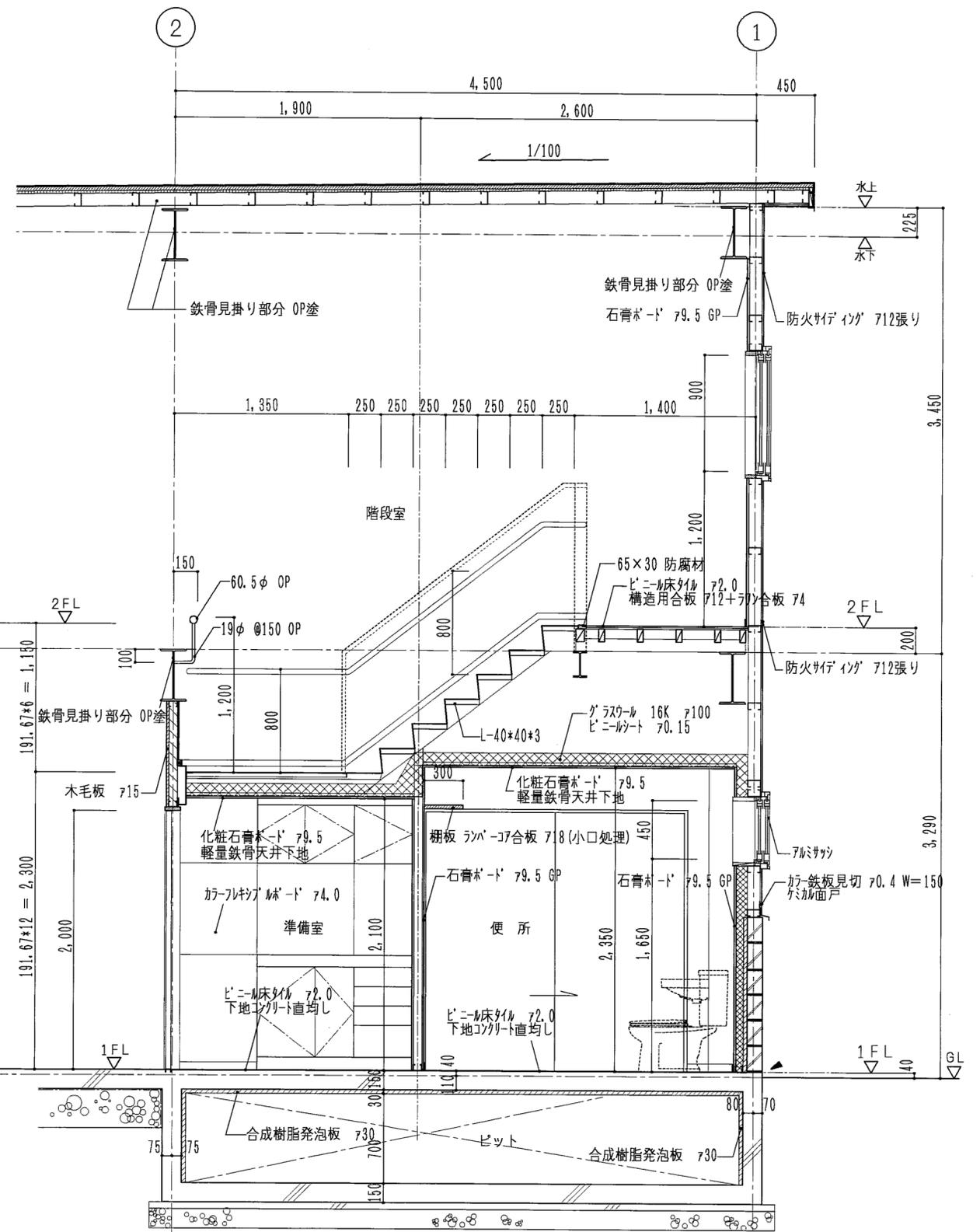
 一級建築士事務所 北海道知事登録(上)204号 <b>株式会社 創明建築設計事務所</b> SOUMEI ARCHITECTS CORPORATION	旭川市永山1条19丁目2番10号 Tel (0166) 47-7600 Fax (0166) 47-6577	管理建築士 一級建築士登録第143974号 三嶋 幸利	工事名 上富良野町郷土芸能資料館新築工事	年月日	図面名 矩形図	縮尺 1/30	校閲	計画	設計	製図	図面訂正	図面番号
		9										



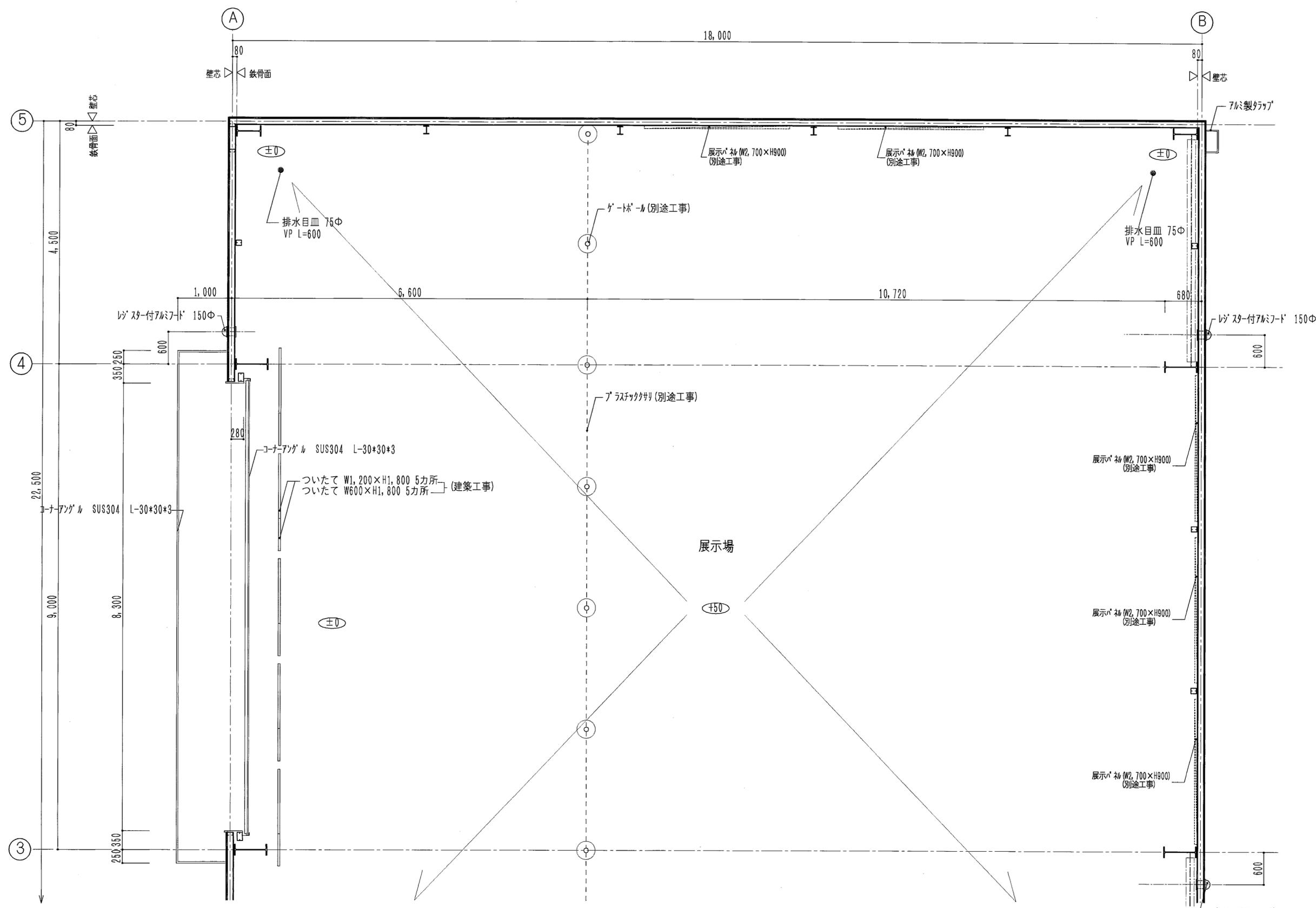
鉄骨階段BPL詳細図 1/10

階段断面詳細図 1/30

※ 鉄骨階段の見え掛り部分は全てOPとする。

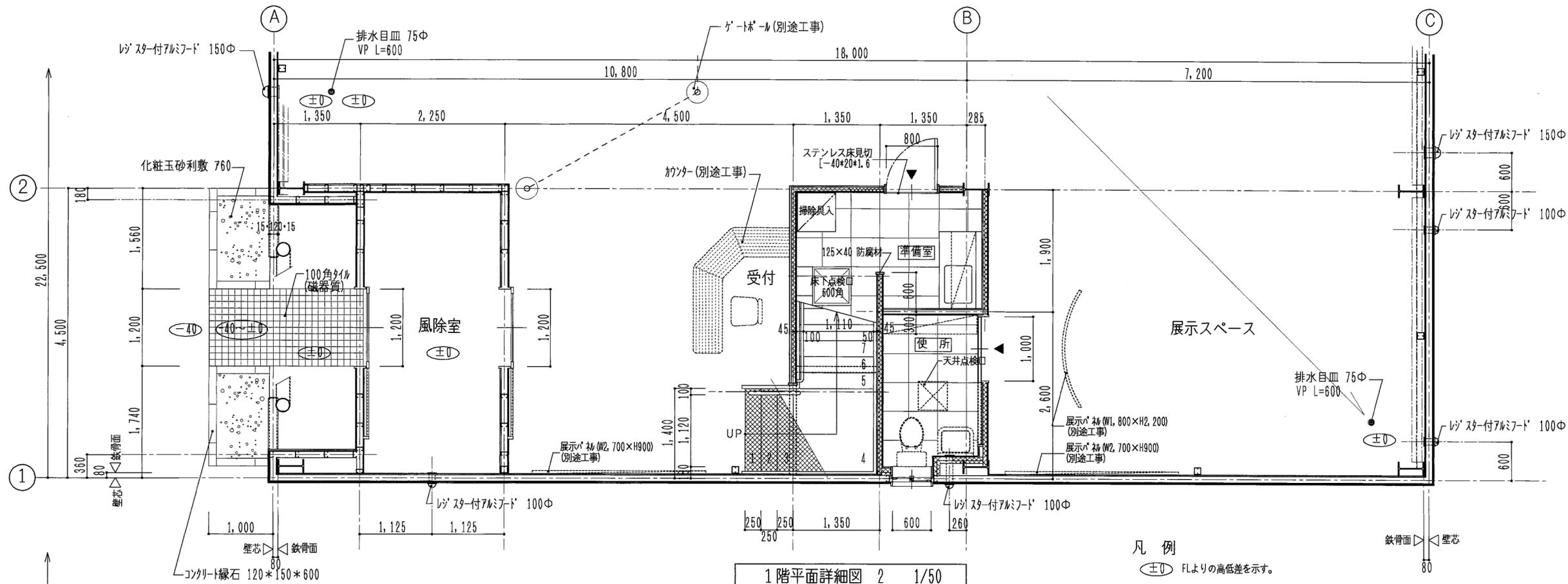


凡例  
シーリング ▶ PS-2 17×10 (ポリサルファイド系)

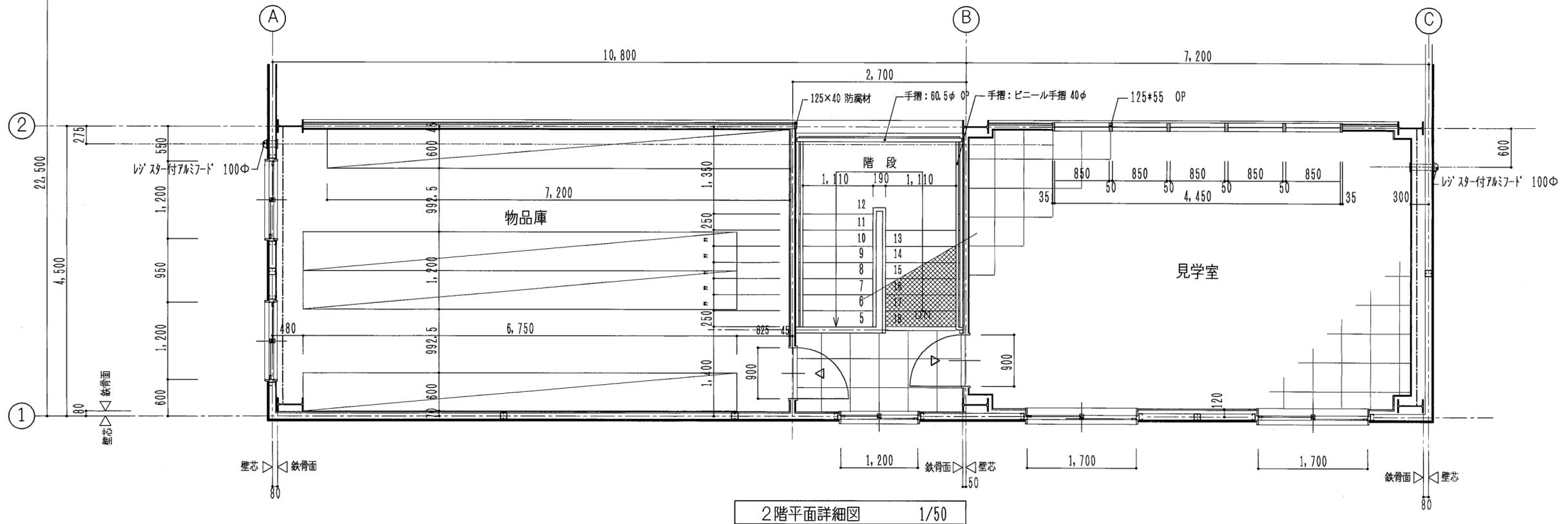


1階平面詳細図 1 1/50

凡例  
 (±0) FLより的高低差を示す。



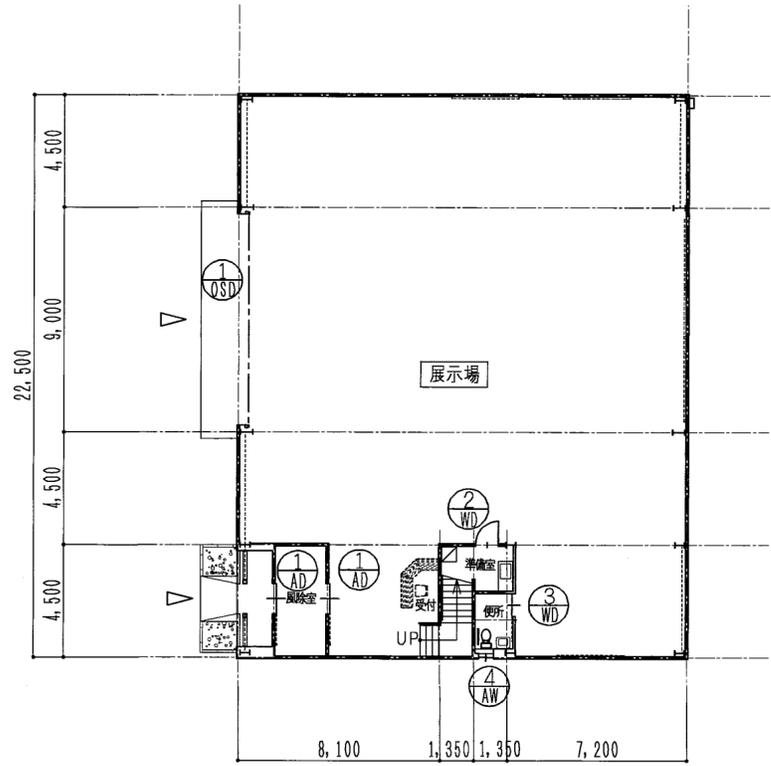
- 凡例**
- ±0 FLよりの高低差を示す。
  - ◀ ピタタイル(150×150)設置を示す。
  - ◁ 室名札設置を示す。



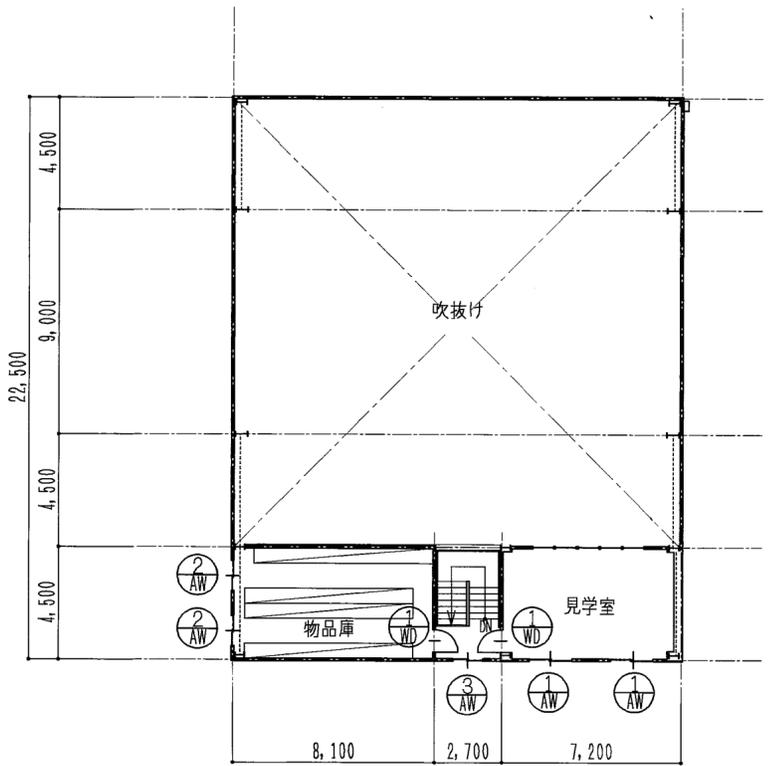
建具特記仕様書 ○印のついたものを適用する。

- 1 オーバースライダー ○ ガイドレールは、2.0 SUS304とする。  
 ・ ガイドレールは、2.3 スチール製とする。
- 2 軽量シャッター  
 ・ スラット鋼板は表面処理亜鉛メッキ鉄板に合成樹脂塗装を行ったものとする。  
 ・ ガイドレールまぐさ座板の包みは、2.0 SUS304とする。  
 ・ ガイドレールまぐさ座板の包みは、2.3 スチール製とする。
- 3 重量シャッター  
 ・ スラット鋼板は表面処理亜鉛メッキ鉄板に合成樹脂塗装を行ったものとする。  
 ・ ガイドレールまぐさ座板の包みは、2.0 SUS304とする。  
 ・ ガイドレールまぐさ座板の包みは、2.3 スチール製とする。
- 4 スチールフラッシュドア  
 ・ 出入口のクツズリは、JIS G4, 305 (冷間圧延ステンレス鋼板) による。2.0 SUS304とする。  
 ・ 但し点検口の類は除く。
- 5 アルミニウムサッシ  
 鉛止め ・ 鉛丹ジंकクロメート鉛止めペイント (JIS K5, 628) 2種。  
 表面処理 ○ B-1 (陽極酸化) ・ 電解着色 ・ 自然発色 (全て絶縁処理とする。)  
 気密性 ○ A-3 (8等級線)  
 水密性 ○ W-4 (350 Pa)
- 6 クツズリ  
 K 1  2.0 SUS304  
 K 2  2.0 PL  
 K 3  1.5 20.43 (T型) SUS304  
 K 4  2.0 SUS304  
 K 5  2.0 SUS304  
 K 6  ラワン  
 K 7  青木  
 K 8  ラワン及び青木 (粹材に合致)  
 U 1  ユーステンレス  
 U 2  ユーステンレスW

- 7 ガラス DO (O-AO-O) 複層ガラスを示す。 Oは厚さ。 AOは空気量を示す。  
 PWO 磨網入板ガラスを示す Oは厚さ F O 型板ガラスを示す Oは厚さ  
 RWO 網入型板ガラスを示す Oは厚さ FLO フロートガラスを示す Oは厚さ  
 S O 普通板ガラスを示す Oは厚さ BPO 熱線吸収ガラスを示す Oは厚さ  
 TDPO 強化ガラスを示す Oは厚さ  
 ※ 網入ガラスは全てクロス及び菱クロスとする。  
 網入ガラスの木口は全て錆止め塗装を塗る。
- 7-1 ガラス止め材  
 ・ ガラス用ストリップ材 (防火戸を除く) ・ ポリサルファイドシーリング材 (防火戸を含む)  
 ○ シリコンシーリング材
- 8 網戸 ○ サラン ・ ステンレス網 ・ グラスファイバー  
 ※ 網目は1mm目とする。
- 9 金物 PH (2) ピボットヒンジ2点吊 DC ドアチェック  
 PH (3) ピボットヒンジ3点吊 GB ガラスブロック  
 FH フロアーヒンジ FO フランス落とし  
 OH オートヒンジ AP アングルピース
- 9-1 マスターキー ○ 製作する。(1組3個) ・ 製作しない。
- 10 塗装・その他  
 A T エアタイトサッシ O P 合成樹脂ペイント 2回塗  
 C L クリヤーラッカー F E フタル酸樹脂エナメル  
 O S オイルステイン U E 2液型非黄変ウレタン樹脂塗料  
 OSC L オイルステイン+クリヤーラッカー R t 熱貫流抵抗  
 ・ 室名札 ・ アクリル板 公団型 ・ ステンレス製  
 ・ 文字書 ・ エナメル文字 角  
 ・ 木製フラッシュドアの木口は青木とする。  
 ・ 木製フラッシュドアの木口は薄皮テープ貼りとする。



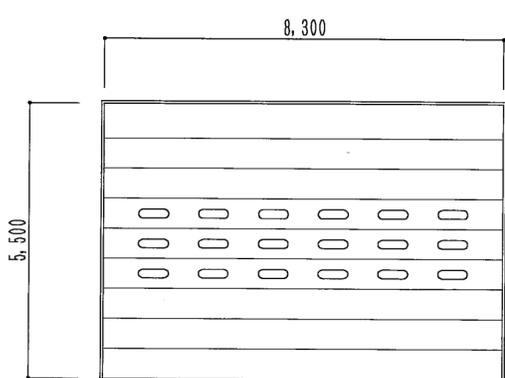
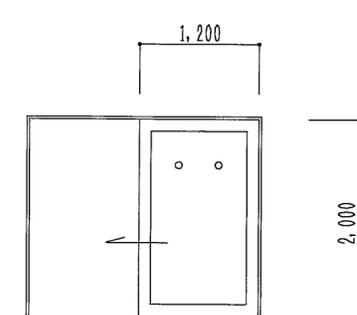
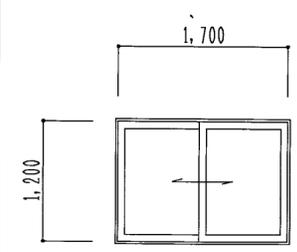
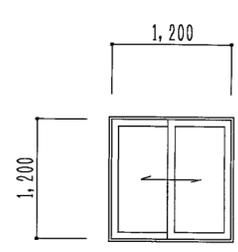
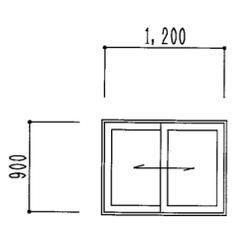
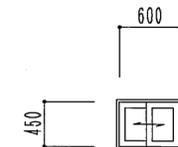
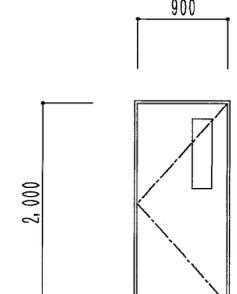
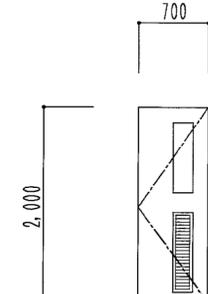
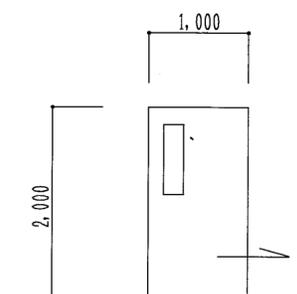
1 階建具記号図 1/200



2 階建具記号図 1/200

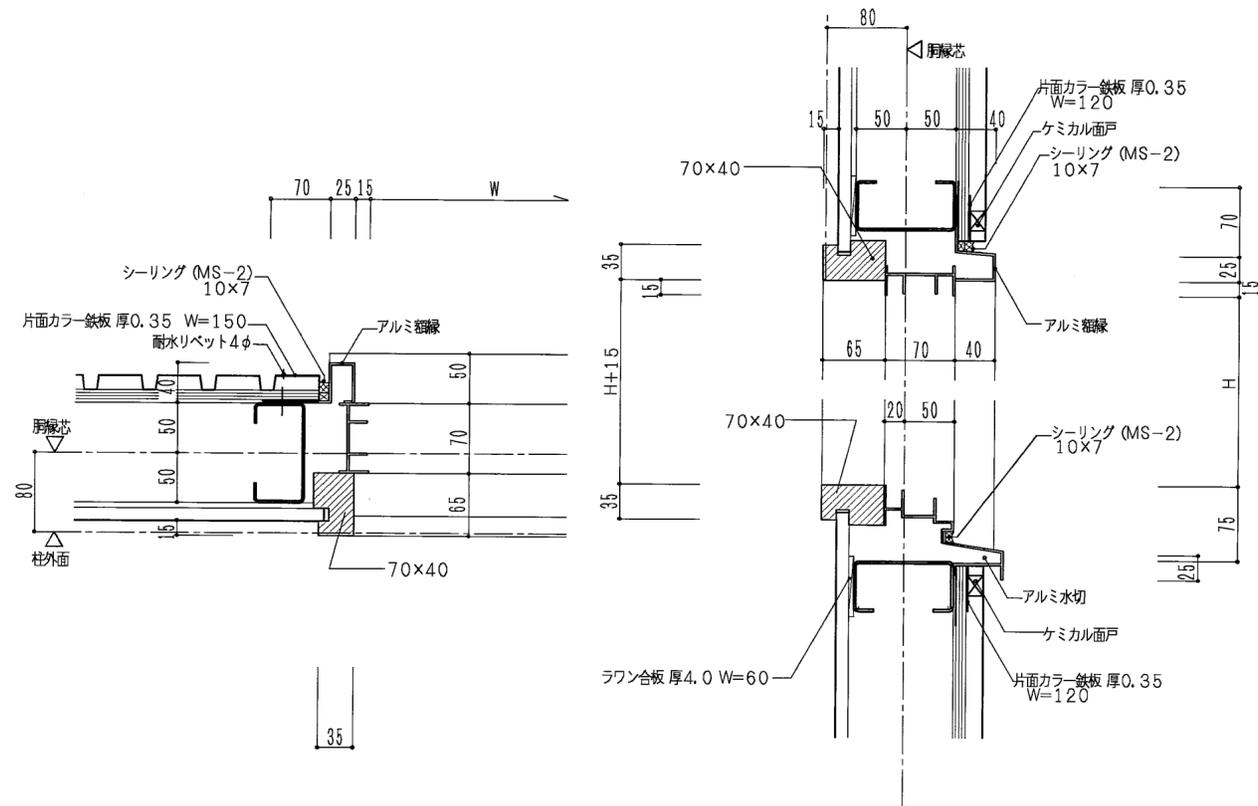
無窓階の検討

1 F	床面積 - 402.67 m <sup>2</sup>	402.67/30=13.42	OSD-1 8.30×5.50=45.65	結果 13.42 < 45.65	OK	
2 F	床面積 - 81.00 m <sup>2</sup>	81.00/30=2.70	AW-1 1.70×1.20×2=4.08	AW-2 1.20×1.20×2=2.88	結果 2.70 < 6.96	OK

記号	OSD-1		AD-1	AW-1	AW-2	AW-3
ヶ処(枚数)	1		2	2	2	1
名称	スチール製オバースライディングドア(手動)チェーン式		アルミ製引き框戸	アルミ製引違い窓	アルミ製引違い窓	アルミ製引違い窓
室名	展示場		風除室・展示場	2階:見学室	2階:物品庫	階段室
形状寸法	 <p>スタンダードタイプ、風圧荷重 75kg/m<sup>2</sup>以上</p>					
クツズリ			ステンレス 72.0			
ガラス			RW6.8	FL3	FL3	FL3
仕上	塗装溶融亜鉛メッキ鋼板 70.5		アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー
見込			70	70	70	70
附属金物	ガイドレール、明かり窓 水圧開錠装置 その他メーカー標準金物		引棒・ツリゲ-錠錠・スキマ防止材・アイストップ 3方額縁(外部) アルミ目板 72.0 自動閉鎖装置 その他メーカー標準金物	クレセント 水切 AP 結露受 網戸 その他メーカー標準金物による	クレセント 水切 AP 結露受 その他メーカー標準金物による	クレセント 水切 AP 結露受 網戸 その他メーカー標準金物による
記号	AW-4	WD-1	WD-2	WD-3		
ヶ処(枚数)	1	2	1	1		
名称	アルミ製引違い窓	木製片開きフラッシュ戸	木製片開きフラッシュ戸	木製片引きフラッシュ戸		
室名	便所	2階:物品庫, 見学室	準備室	便所		
形状寸法						
クツズリ				U1		
ガラス	F4	F4 (700×200)	F4 (700×200)	F4		
仕上	アルミシルバー	シナ合板 74.0 防腐材	シナ合板 74.0 防腐材	シナ合板 74.0 防腐材		
見込	70	36	36	36		
附属金物	クレセント 水切 3方額縁(外部) AP 結露受 網戸 その他メーカー標準金物による	本締め付ツリゲ-錠 丁番、戸当り、ドアクローザー 枠-PL加工 SOP	本締め付ツリゲ-錠 丁番、戸当り、ドアクローザー、ガラリ	表示錠、引手、戸車		

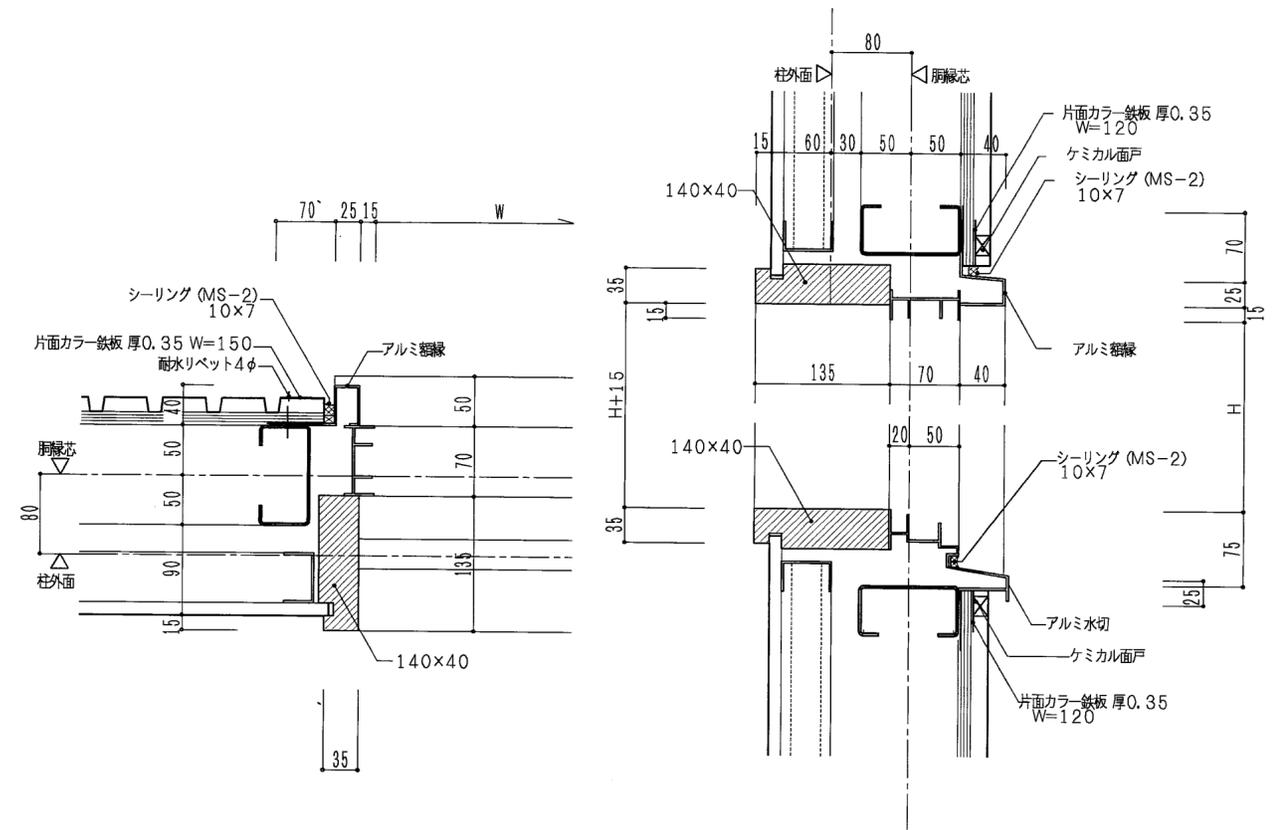
AW-2, 3廻り詳細図

S=1/5



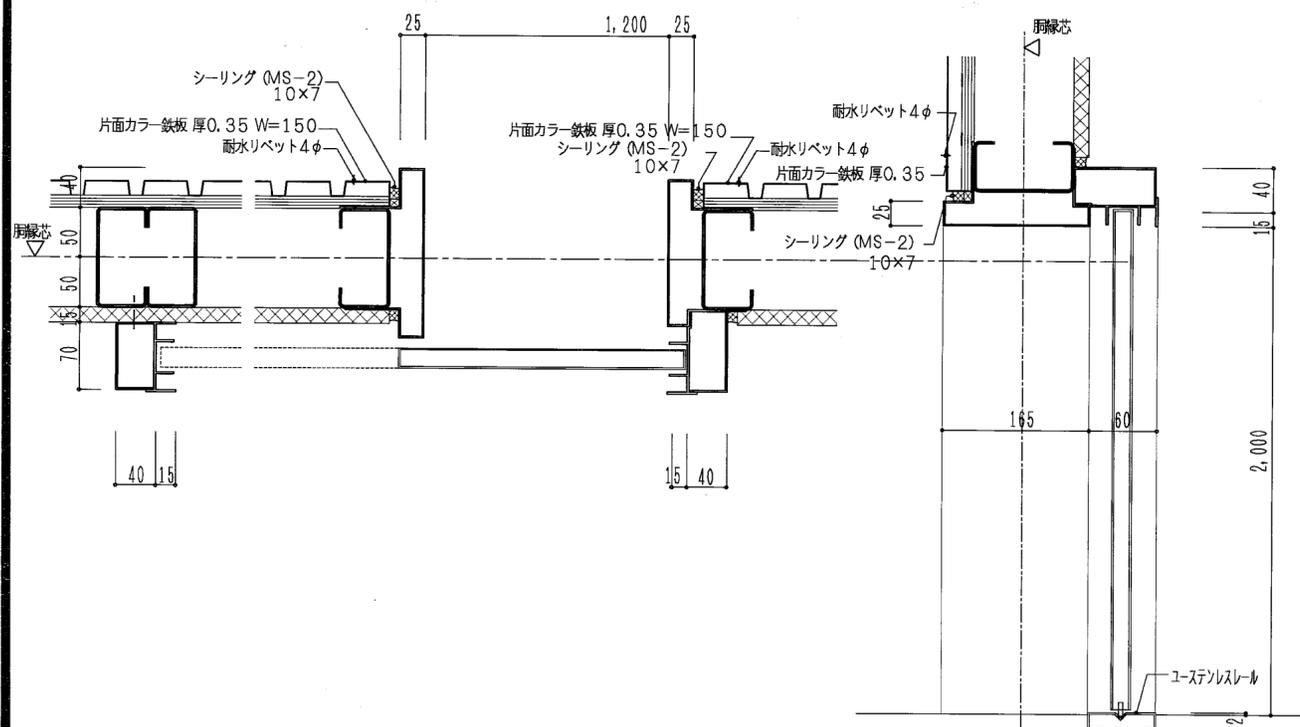
AW-1, 4廻り詳細図

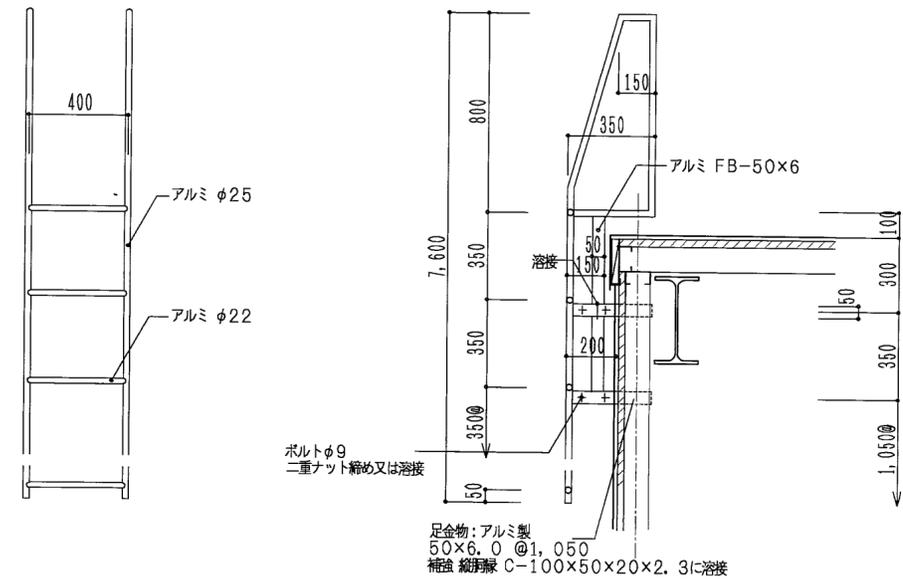
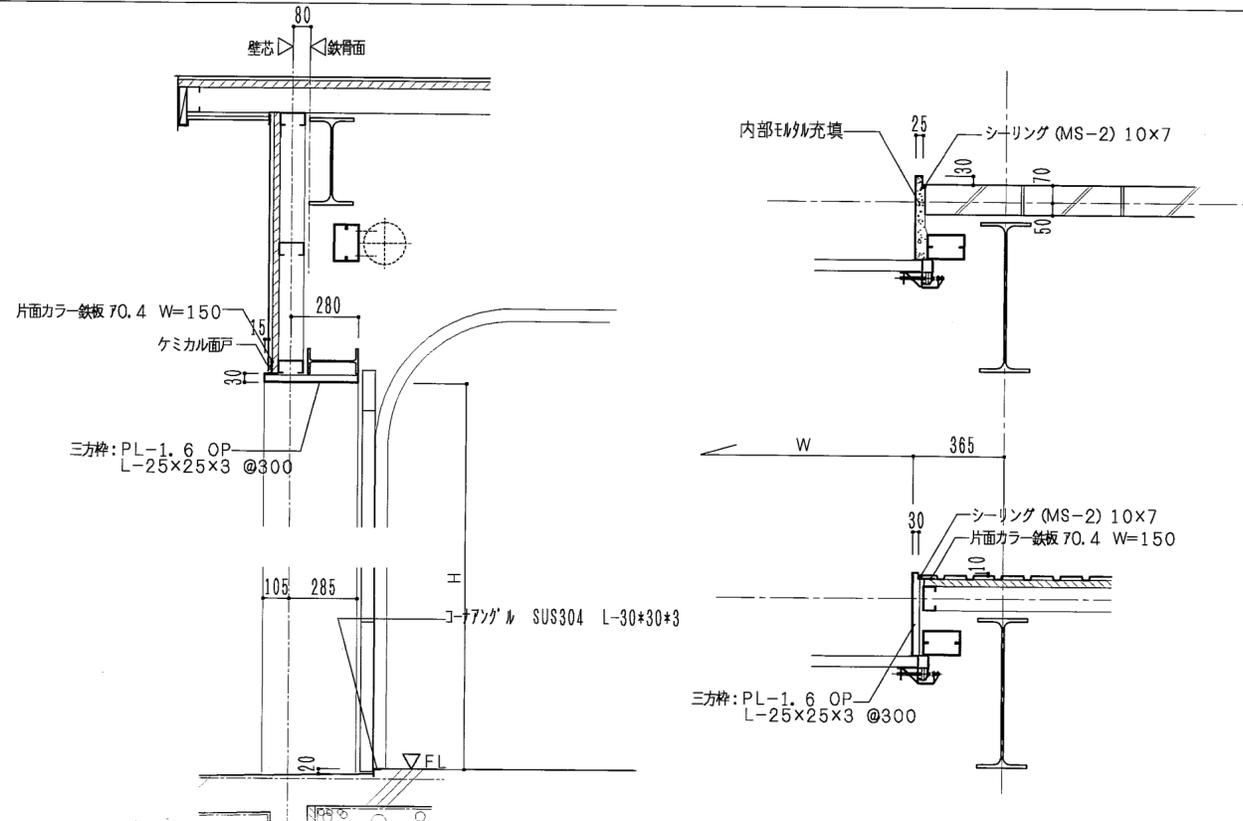
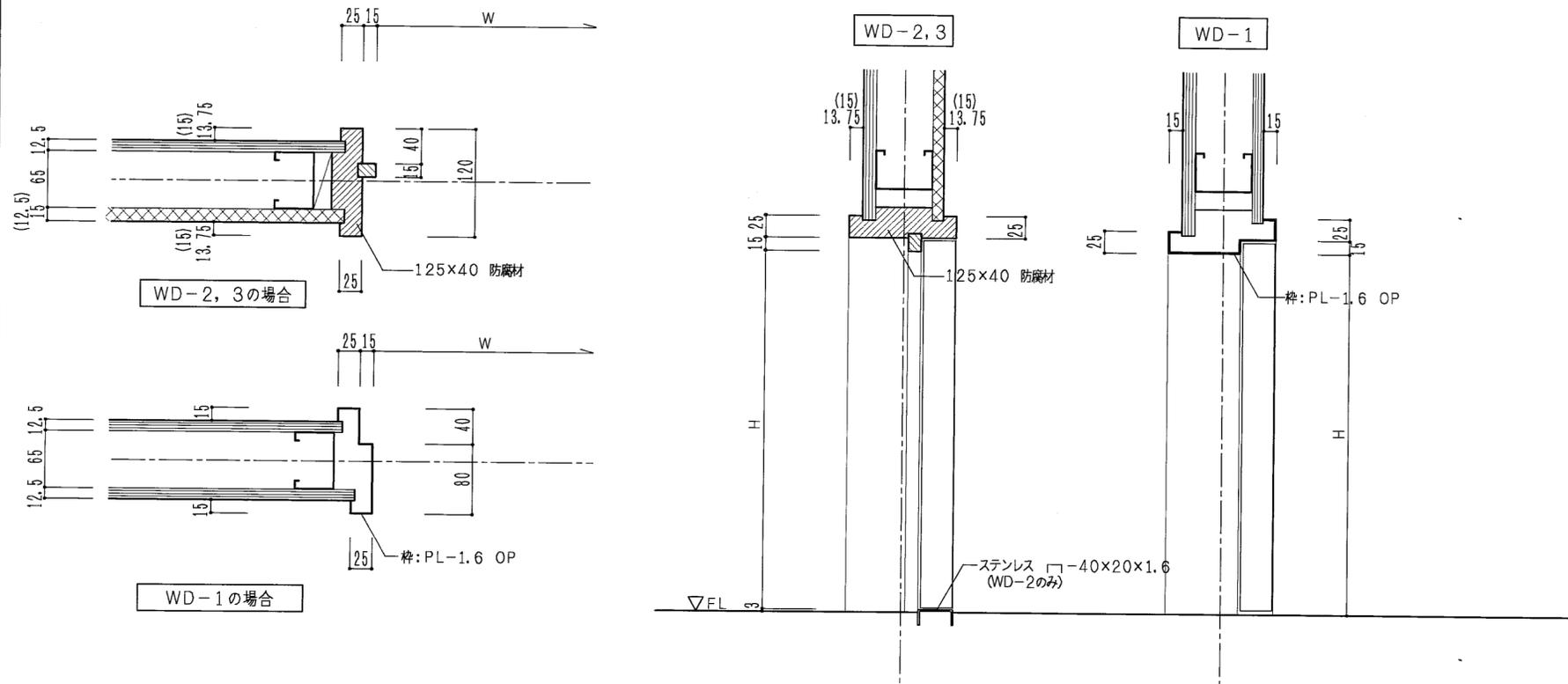
S=1/5



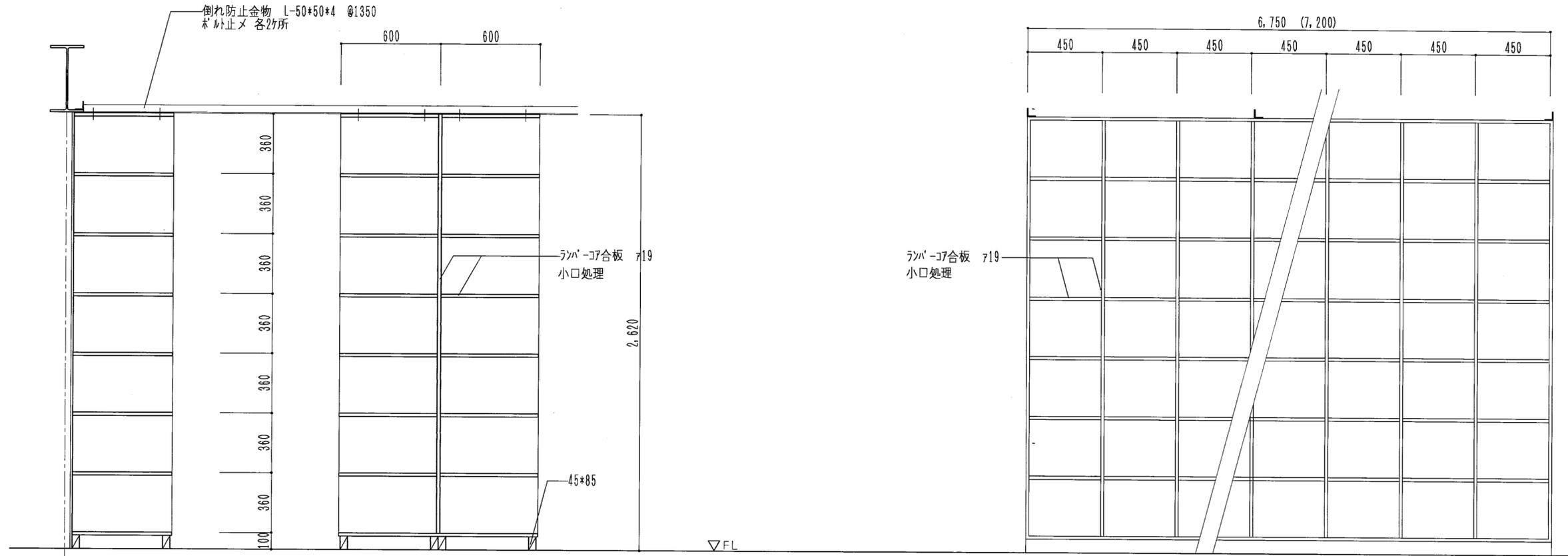
AD-1廻り詳細図

S=1/5

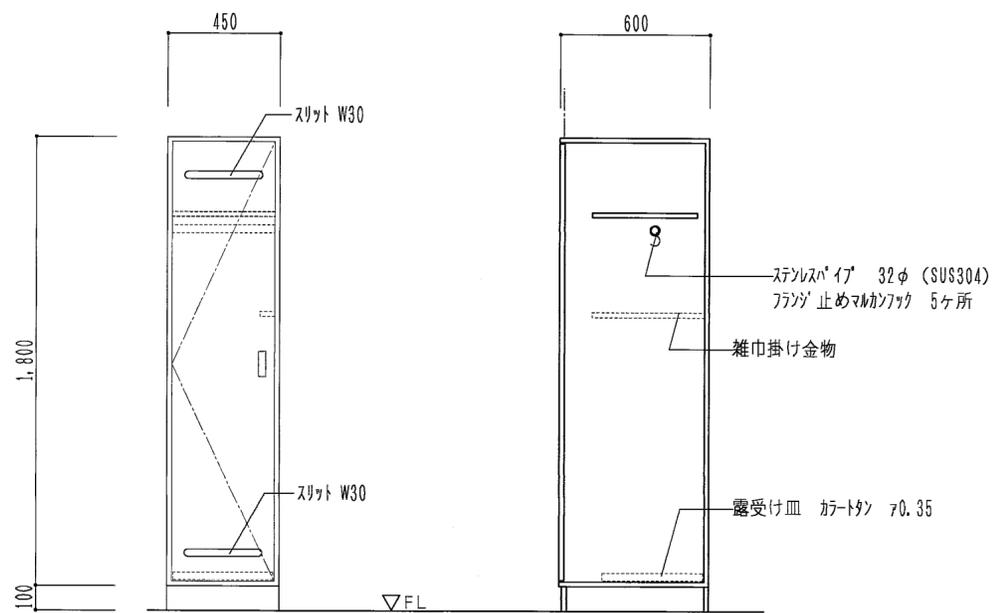




※ 最下段の踏子はGLから1,900程度とする。



手洗所 掃除具入詳細図



その他特記無き部材はラバー-コ合板 719とし、  
見え掛かり部分のみOPとする。





# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

### (2) 記号

d...異形断面の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 D...部材の径 R...直径  
 e...間隔 r...半径 C...中心線 L...部材間の内法距離 ho...部材間の内法高さ  
 ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

### (1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(≧4d以上)	8d以上(≧4d以上)
折曲げ内法寸法Rは、SR24は3d以上、SD30A、SD30B、SD35のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上	折曲げ角度90°はスラブ・梁の末端部またはスラブと同時に打ち込まれ、かつ形状のキップアップにのみ用いる。キップアップ		

### (2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

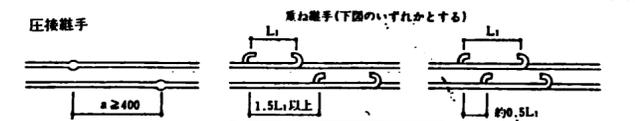
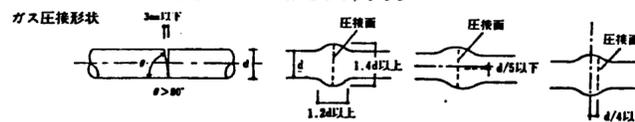
図	鉄筋の呼び名	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235, SD295A SD295B, SD345	16φ以下 D16 D19以上	3d以上
	上記以外の鉄筋	同上	16φ以下 D16 D19-D25 26φ-32φ D29-D38	4d以上 6d以上 8d以上

### (3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(kg/cm <sup>2</sup> )	定着の長さ			特別の定着及び重ね継手の長さ(L <sub>s</sub> )
		一般(L <sub>s</sub> )	下ば筋(L <sub>s</sub> )	小梁	
SR24	210 225 240	35d フックつき	25d フックつき	15cm フックつき	35d フックつき
	150 180	45d フックつき	35d または 25d フックつき	10d かつ 15cm以上	45d フックつき
SD30A SD30B SD35	210 225 240	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	150 180	40d または 30d フックつき	35d または 25d フックつき	10d かつ 15cm以上	45d または 35d フックつき

### 継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



### (4) かぶり厚さ(単位:mm)

ひびわれ防止目地など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所についても最小かぶり厚さを確保する。

部 位	設計かぶり厚さ(mm)		最小かぶり厚さ(mm)	
	標準	最小	標準	最小
土に接しない部分	圧縮スラブ	30	30	30(20)
	引張スラブ	40	40	30(20)
土に接する部分	柱	40	40	30
	梁	50	50	40
基礎	柱・はり・版スラブ・耐力壁	50	40	40
	基礎・隅	70	60	60

- (注) (1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
 (2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (3) コンクリートの品質および施工方法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
 (4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。  
 (5) ( )内は仕上げがある場合。

### (5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上 粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



### (6) 鉄筋のフック(=Iに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

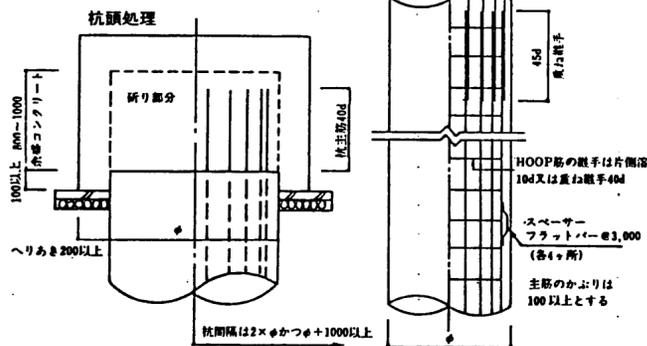
- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋 c. 煙突の鉄筋  
 d. 柱、梁(基礎梁を除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)  
 e. 単純梁の下端筋  
 f. その他、本配筋標準図に記載する箇所

## 3. 杭(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること)

### (1) PC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

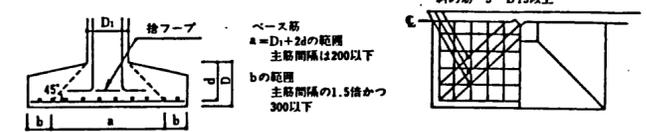
所定の位置に止まった場合	所定より低く止まった場合
杭 径 300φ, 350φ, 400φ	但しL≦φの場合 L>φの場合は工事監理者の指示による
補強筋 6-D13	補強筋 3-D16
HOOP φ150	HOOP φ150
補強筋 8-D13	補強筋 8-D13
補強筋 10-D13	補強筋 10-D13
補強筋 500φ	補強筋 500φ
補強筋 600φ	補強筋 600φ
補強筋 8-D16	補強筋 8-D16
補強筋 10-D16	補強筋 10-D16
HOOP φ150	HOOP φ150

### (2) 現場打ちコンクリート杭

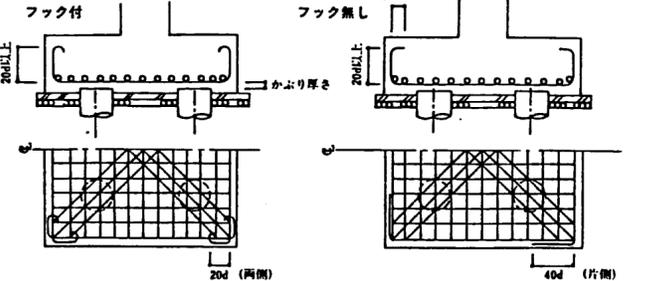


## 4. 基礎

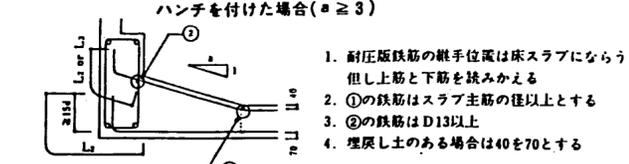
### (1) 直接基礎



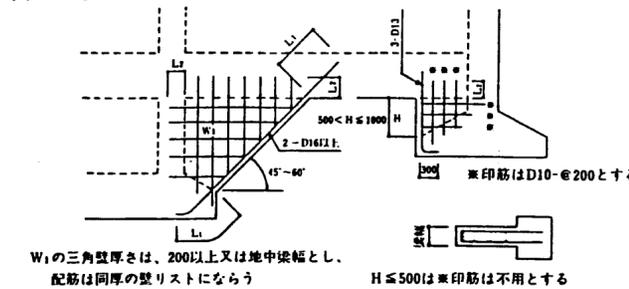
### (2) 杭基礎



### (3) ベタ基礎

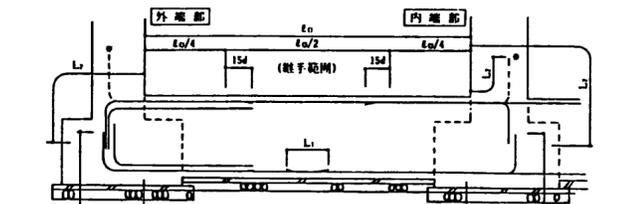


### (4) 基礎接合部の補強

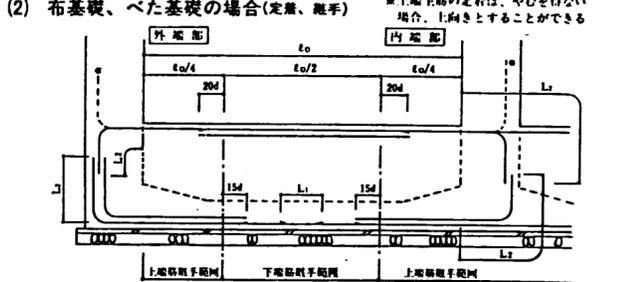


## 5. 地中梁

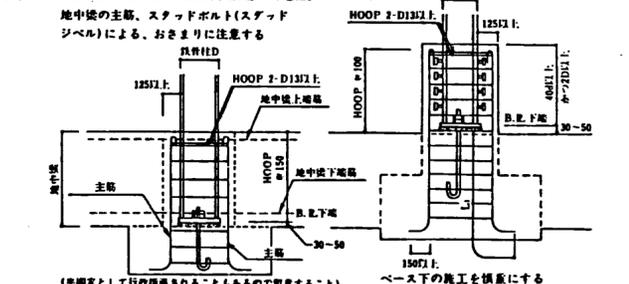
### (1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



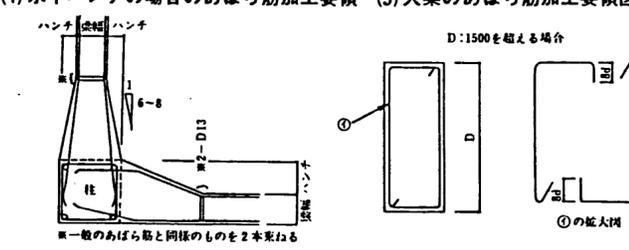
### (2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



### (3) 小規模鉄骨造の柱脚固定の配筋



### (4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領 (5) 大梁のあばら筋加工要領

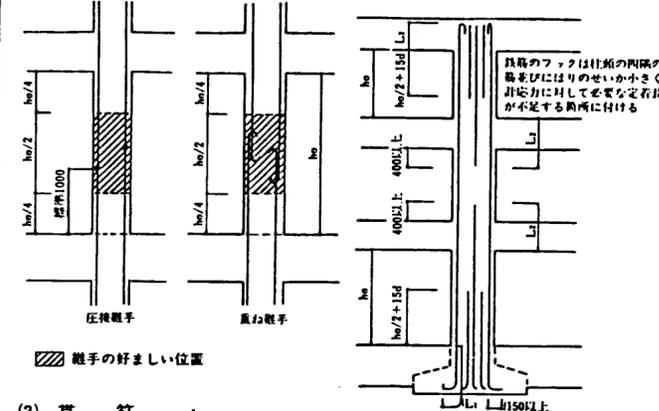


## 6. 柱

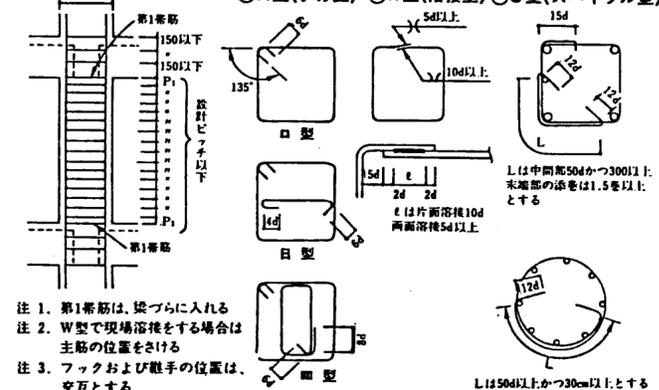
### (1) 柱主筋の継手



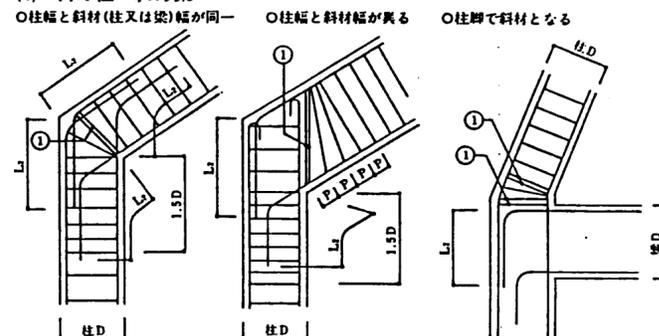
### (2) 柱主筋の定着



### (3) 帯筋

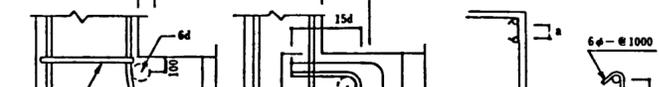


### (4) 斜め柱・斜め梁

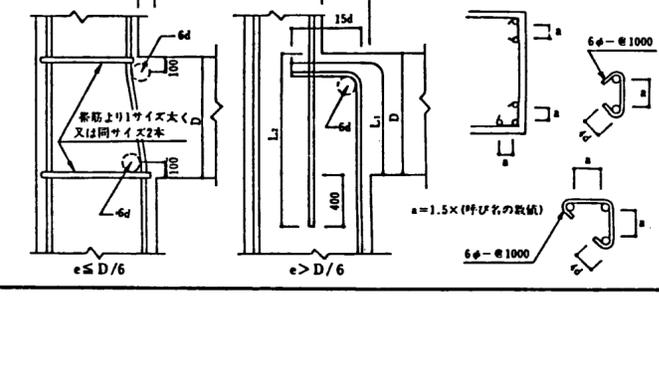


- 注 1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとしφ100以下とする  
 注 2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

### (5) 絞り



### (6) 二段筋の保持



# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

(1) 定着

①大梁

②小梁の定着

③片持梁の定着

(2) 大梁主筋の継手

(3) あばら筋、腹筋、横止めの配置

(4) あばら筋の型

(5) 横止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600 不要
	600 ≤ D < 900 2-D10(9φ) 1段
	900 ≤ D < 1200 4-D10(9φ) 2段
	1200 ≤ D D10(9φ) @ 300以内
横止めの筋	D10(9φ) @ 1000以内で斜り付け

## 8. 床板

(1) 定着および継手

①片持床スラブ

②一般床スラブ

(2) 置換スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床板開口部の補強(開口の径500以上の場合)

床板厚さD	間隔	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16

(5) 床板段差

(6) 土間コンクリート

(7) 蓋場

(8) 打継ぎ補強(タテ大打継ぎについて)

## 9. 壁

(1) 定着

(2) スリット部(設計図に記入のあるとき)

(3) 手摺、パラペット

(4) コンクリートブロック積置

(1) 柱・梁増打コンクリート補強(増打するときは事前に設計者、及び工事監理者と打合せのこと)

## (2) 梁

(3) 梁と柱4等一となる場合は、配筋を考慮して、右図のとおり増打する。

## 11. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

(2) 鉄筋標準配筋 但しφ ≤ D/3とする

80 < φ ≤ 100	100 < φ ≤ 150	150 < φ ≤ 250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	折筋 4-(2-D13)
縦筋 ST 2-D13-100	縦筋 ST 2-D13-100	縦筋 ST 2-D13-100
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		横筋 ST 2-D13

(3) 既製品(使用するときには、設計者又は工事監理者と打合せのこと)

□リング型 □パイプ型 □金網型 □プレート型

## 12. 増築予定(将来増築予定のコンクリート増打部分には、増築時の鉄筋継手工法を考慮して設置する)

(1) 柱、梁 (2) 地中梁 (3) 床板、壁

# 鉄骨構造標準図 (1)

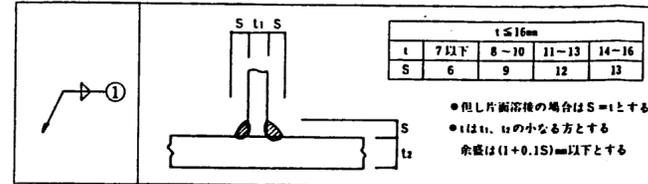
## 1. 一般事項

- (1) 材料及び検査  
 (a) 構造設計仕様による  
 (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする  
 (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (2) 作業一般  
 (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督者の承認を得る  
 (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による  
 (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (3) 高力ボルト接合  
 (a) 本構めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (4) 溶接接合  
 (a) 溶接工  
 溶接工は施工する溶接に適合するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする  
 (b) 溶接機器  
 (イ) 交流アーク溶接機 300A~500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機  
 (ロ) アークエアーガウジング機(直流) 600A (ホ) 溶接電流を測定する電流計  
 (ハ) 溶接棒乾燥器 (ヘ) サブマージドアーク溶接機1式  
 (c) 溶接方法  
 アーク手溶接 (MC) ガスシールドアーク溶接 (GC)  
 ノンガスシールドアーク溶接 (NGC) アークエアーガウジング (AAG)  
 (d) 溶接姿勢  
 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O  
 (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う  
 (イ) 仮付位置  
 仮付溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (ロ) 突合せ溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する
- (イ) 溶接施工  
 (イ) エンドタブ  
 1) 突合せ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける  
 2) エンドタブの材質は、母材と同質とする  
 3) エンドタブの長さは、MC:35mm以上、NGC、GC:40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、エンドタブ母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする  
 4) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監督者の承認を得る
- (ロ) 裏あて金  
 材質は母材と同質材料とする  
 (ハ) スカーラップ 半径は30~35mmとする  
 (ニ) 裏はつり  
 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督者の確認を仰ぎ、部材に確認マークをつける  
 (ホ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行なう
- (5) 塗装  
 コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

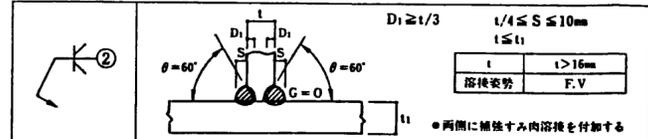
## 2. 溶接規準図

(注) f: 余盛 G: ルート間隔 R: フェース S: 脚長 (単位mm)

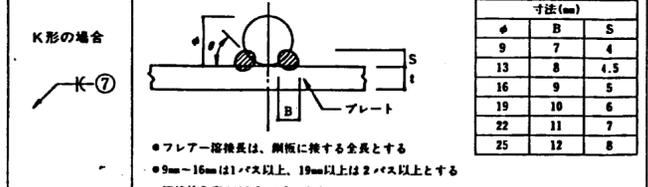
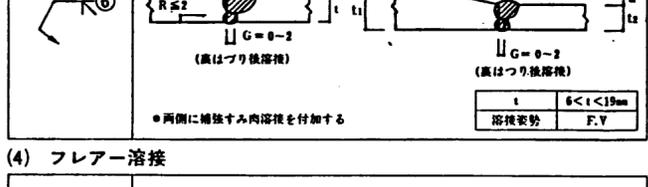
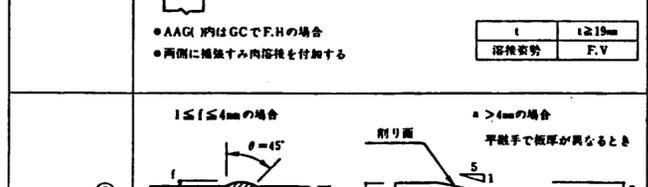
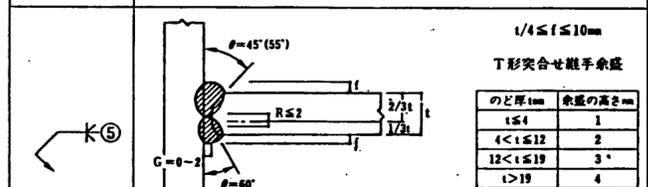
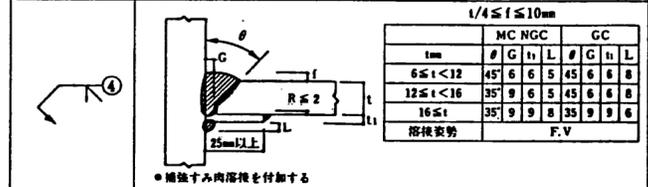
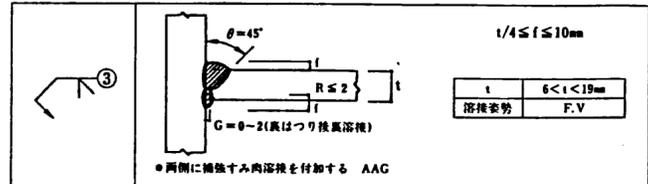
### (1) スミ肉溶接



### (2) 部分溶け込み溶接 (使用箇所注意到)

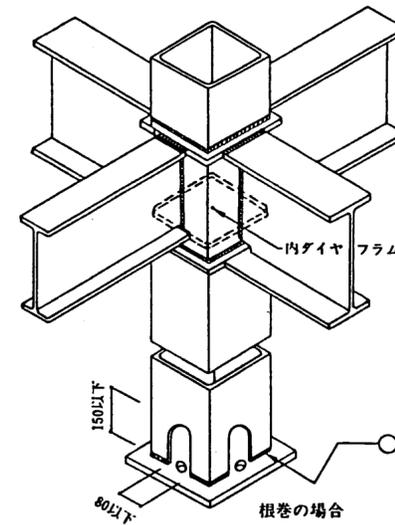


### (3) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

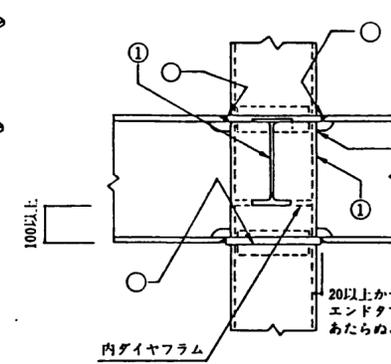


○溶接記号番号を○中に記入のこと

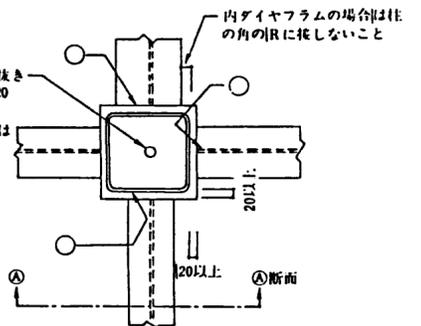
### ●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)



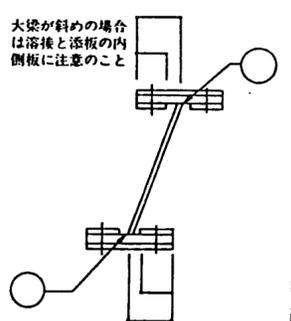
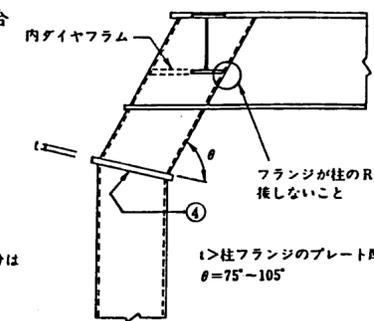
### ●A-A断面図



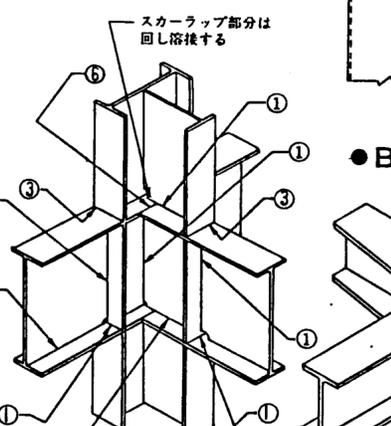
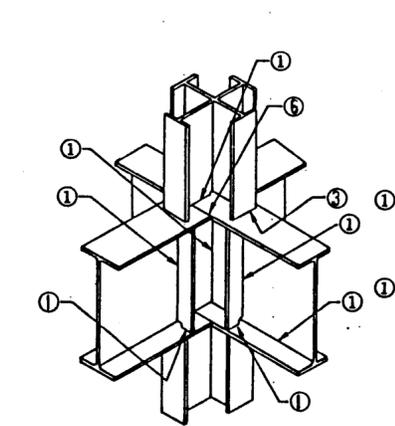
### ●平面詳細



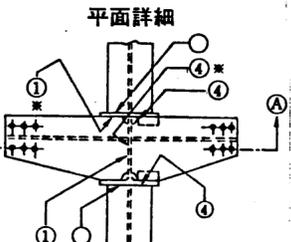
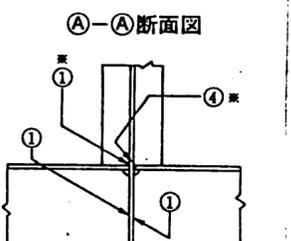
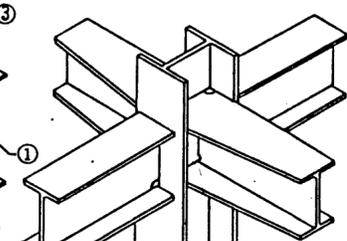
●柱が途中で折れる場合  
 及梁成が異なる場合



### ●I、H型



### ●B.H方式



※全周すみ肉溶接又は突合せ(裏あて金付)

# 鉄骨構造標準図 (2)

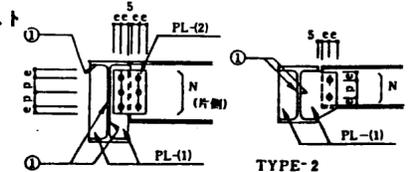
## 3. 継手標準図、その他

### (1) ボルトピッチ(P)、ボルト穴径・最小縁端距離 (mm)

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離 (e)				ピッチ (P)	
		(1)	(2)	(3)	(2)(3)の標準	最小	標準
M16	17.0	40	28	22	30	40	60
M20	21.5	50	34	26	35	50	70
M22	23.5	55	38	28	40	55	80
M24	25.5	60	44	30	45	60	90

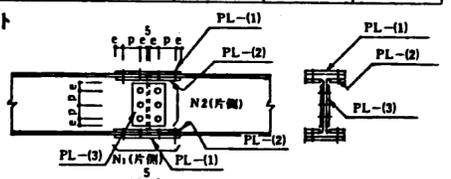
- (注) (1) 引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ぶ場合の応力方向の縁端距離  
 (2) セン断線・手動ガス切断線の場合の縁端距離  
 (3) 圧延線・自動ガス切断線・のりき線・機械仕上線の場合の縁端距離

### (2) ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-(1)	PL-(2)	N-径
		部材リストによる			

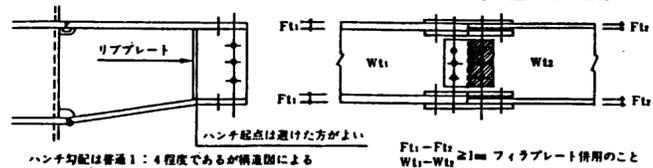
### (3) 剛接合継手リスト



注) 端部をBHとする場合の部材は設計図による

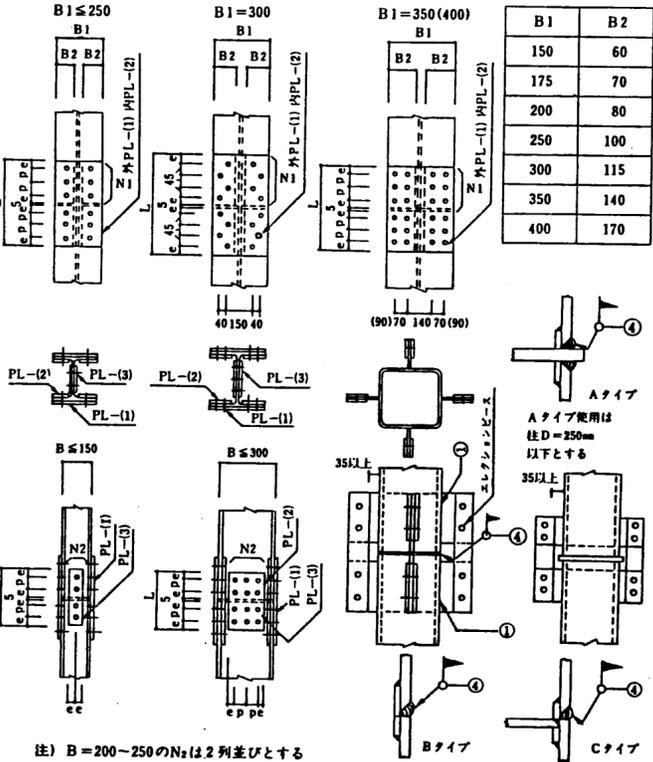
符号	部材	フランジ		ウェブ		
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
	部材リストによる					

### (4) ハンチ部の継手



ハンチ配点は普通 1 : 4 程度であるが構造図による  
 $F1 - F2 \geq 1m$  フィラプレート併用のこと  
 $W1 - W2 \geq 1m$  フィラプレート併用のこと

### (5) 柱継手リスト



注) B = 200 - 250 の N2 は 2 列並びとする  
 注) 現場溶接は原則として超音波探傷試験を 100% を行う

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-(1)	PL-(2)	N1-径	PL-(3)	N2-径
	部材リストによる					

### (6) 鉄筋ブレース (JIS規格品とする...JISA5540-5542...1982)

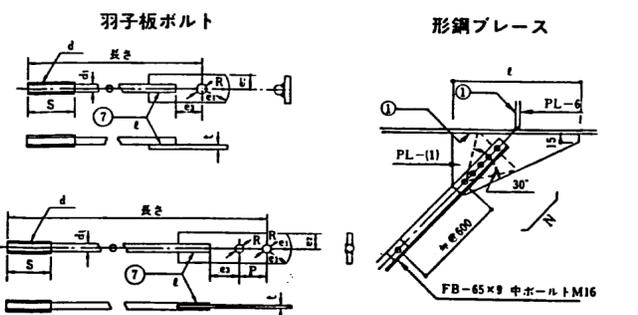
#### (a) 羽子板ボルト

ねじの呼び (d)	軸径 d <sub>1</sub>	調整ねじの長さ S	ねじの呼び (d)					
			M12	M14	M16	M18	M20	M22
最大	10.81	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
最小	10.64	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
取付ボルト穴径 許容差 +0, -0.5mm R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5	
はしあき (最小) e <sub>1</sub>	35	40	45	50	50	55	50	
切板製 へりあき (最小) e <sub>2</sub>	22	28	28	34	34	38	38	
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	
平鋼製 へりあき (最小) e <sub>2</sub>	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5	
	板厚 t	4.5	6	6	9	9	9	
ボルト端から取付ボルト 穴心のあき (最小) e <sub>3</sub>	47	52	59	66	66	73	70	
溶接長さ (最小) l	40	50	55	60	75	85	85	
取付ボルト	種類	JIS B 1186 2種高力ボルト (F10T) 又は JIS B 1180 中 8 g 10.9						
	ねじの呼び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
本数	1	1	1	1	1	1	2	

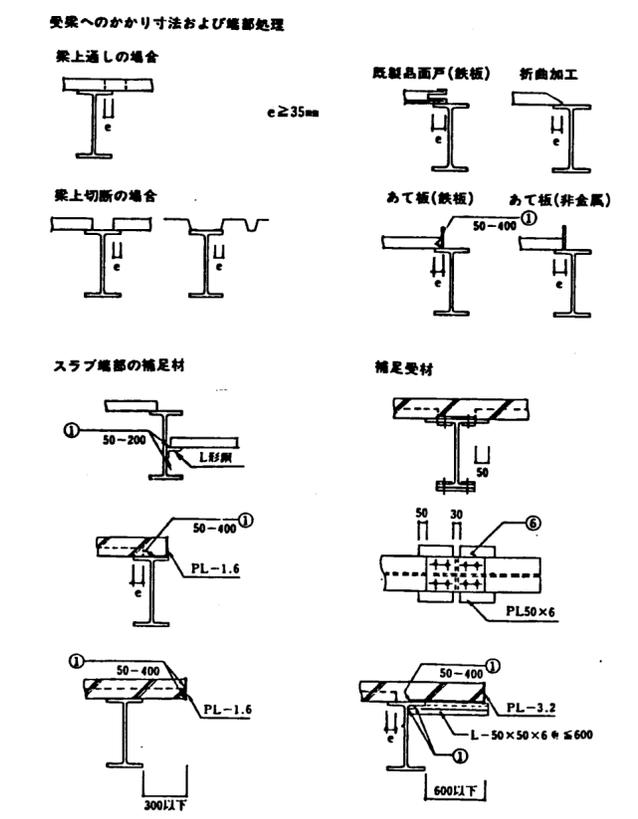
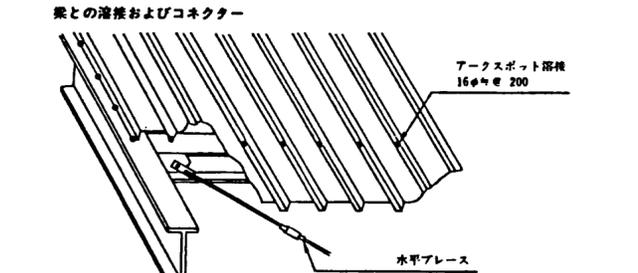
注 (1) e<sub>1</sub>, e<sub>2</sub> が確保されていれば形状は自由でよい  
 (2) 羽子板とガセットプレートの場合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断 (変圧) 接合とする

### (b) 形鋼ブレース

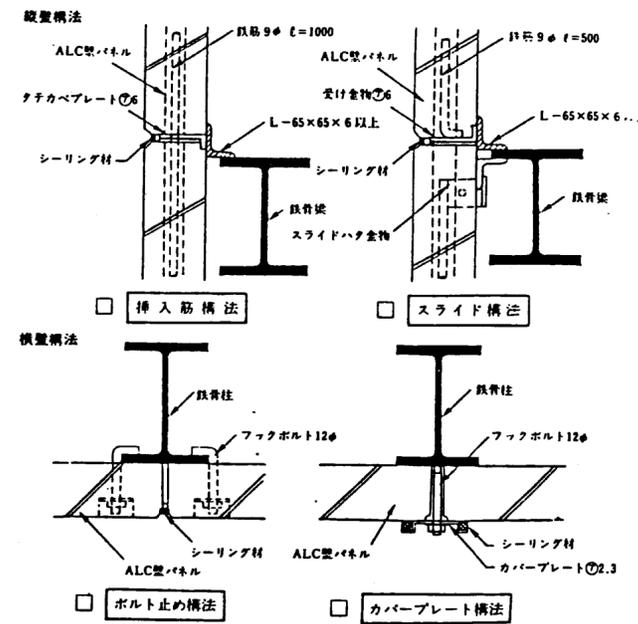
符号	部材	PL-(1)	N-径	l
	部材リストによる			



### (7) デッキプレート (床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照)



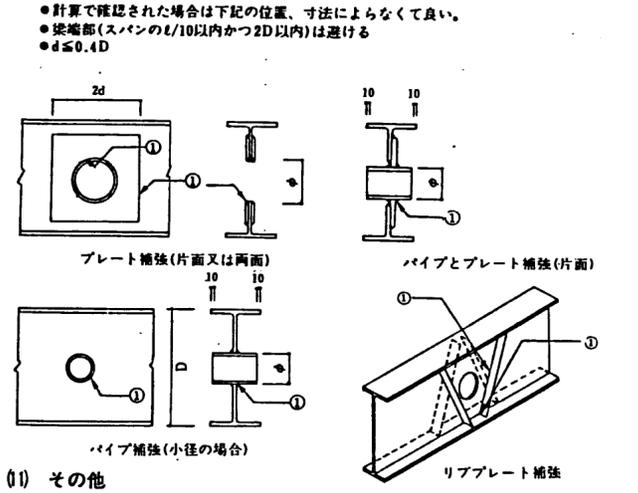
### (8) ALC板取付要領



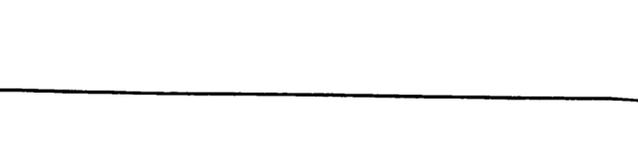
### (9) 頭付きスタッド (JIS 1198)

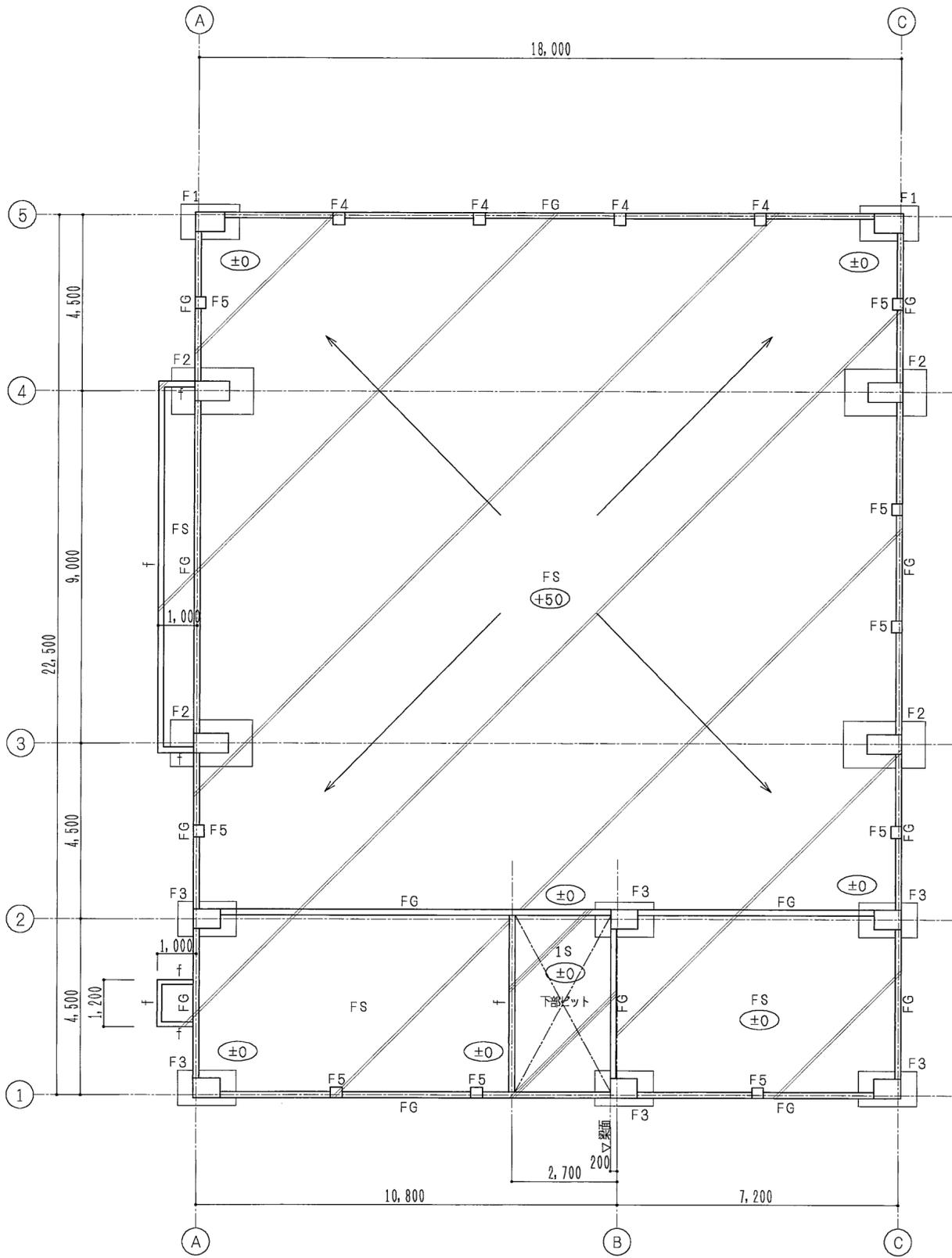
呼び名	スタッド材			
	軸径 d (mm)	頭径 D (mm)	頭高さ T (mm)	溶接後の長さ L (mm)
φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
	12.7	25.4	7.9	
φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
	15.8	31.7	7.9	
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
	19.0	31.7	9.5	
φ22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150
	22.2	34.9	9.5	

### (10) 梁貫通補強



### (11) その他



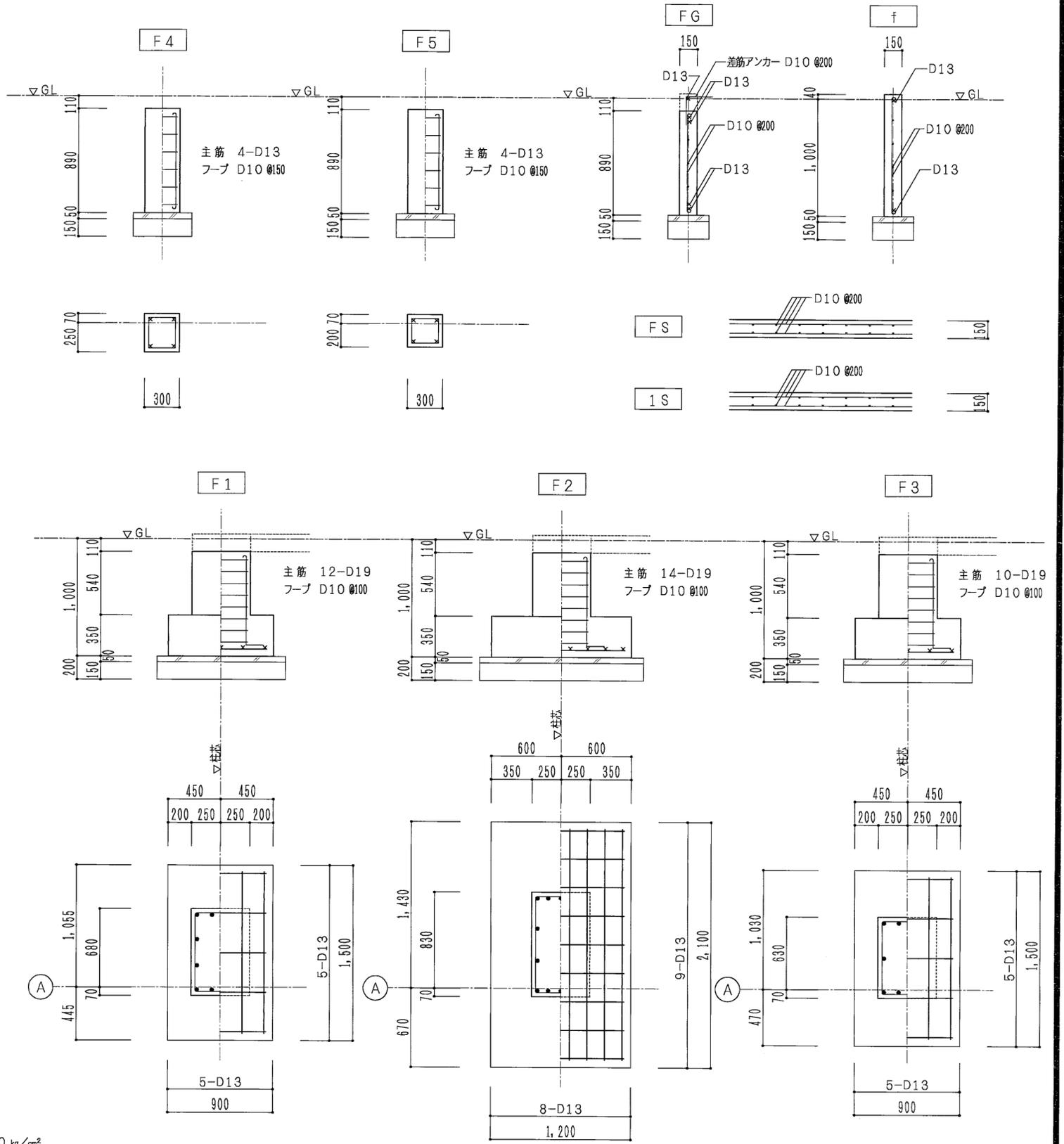


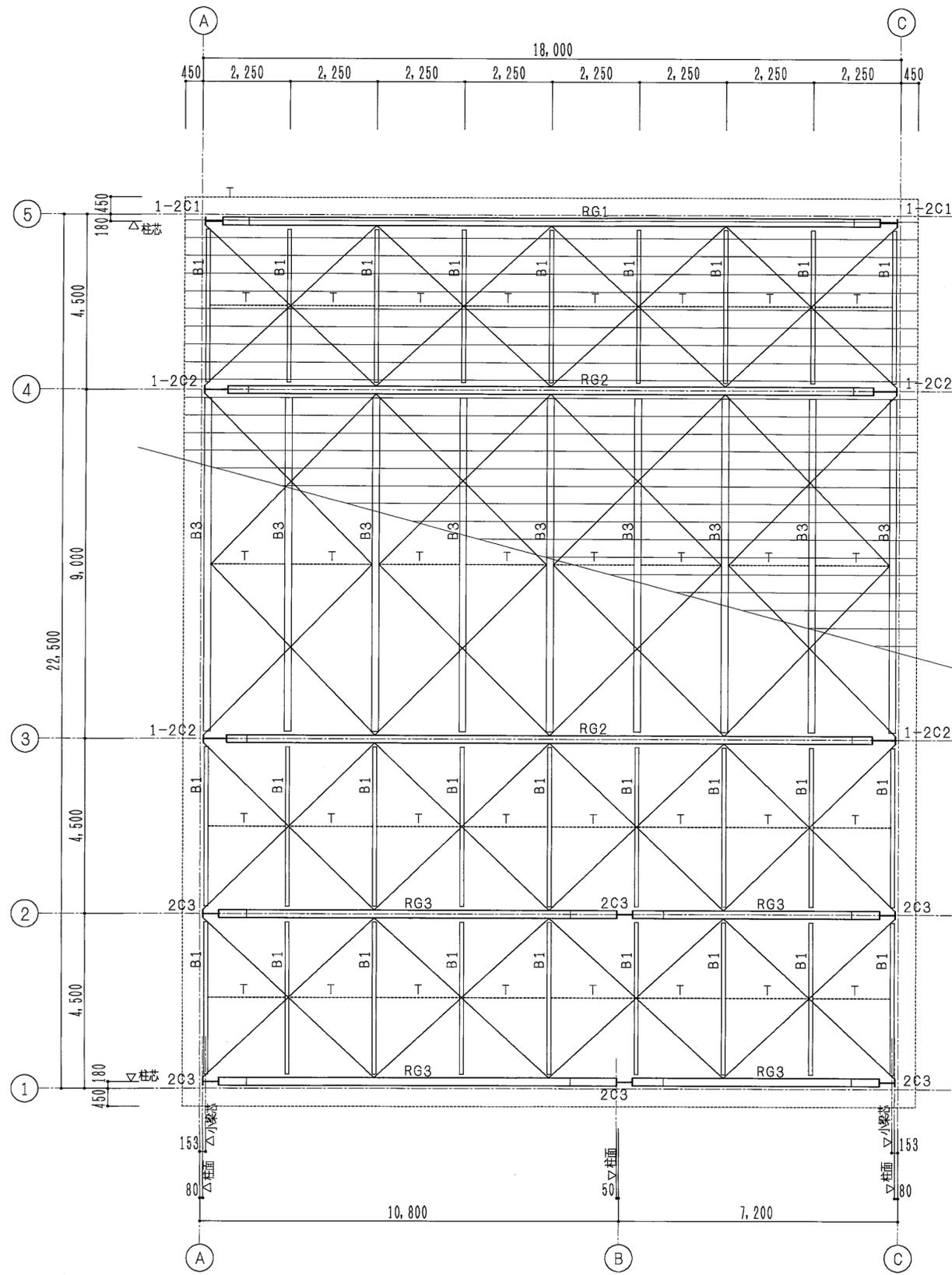
凡例  
○ - FLよりの高さを示す。

基礎伏図 1/100

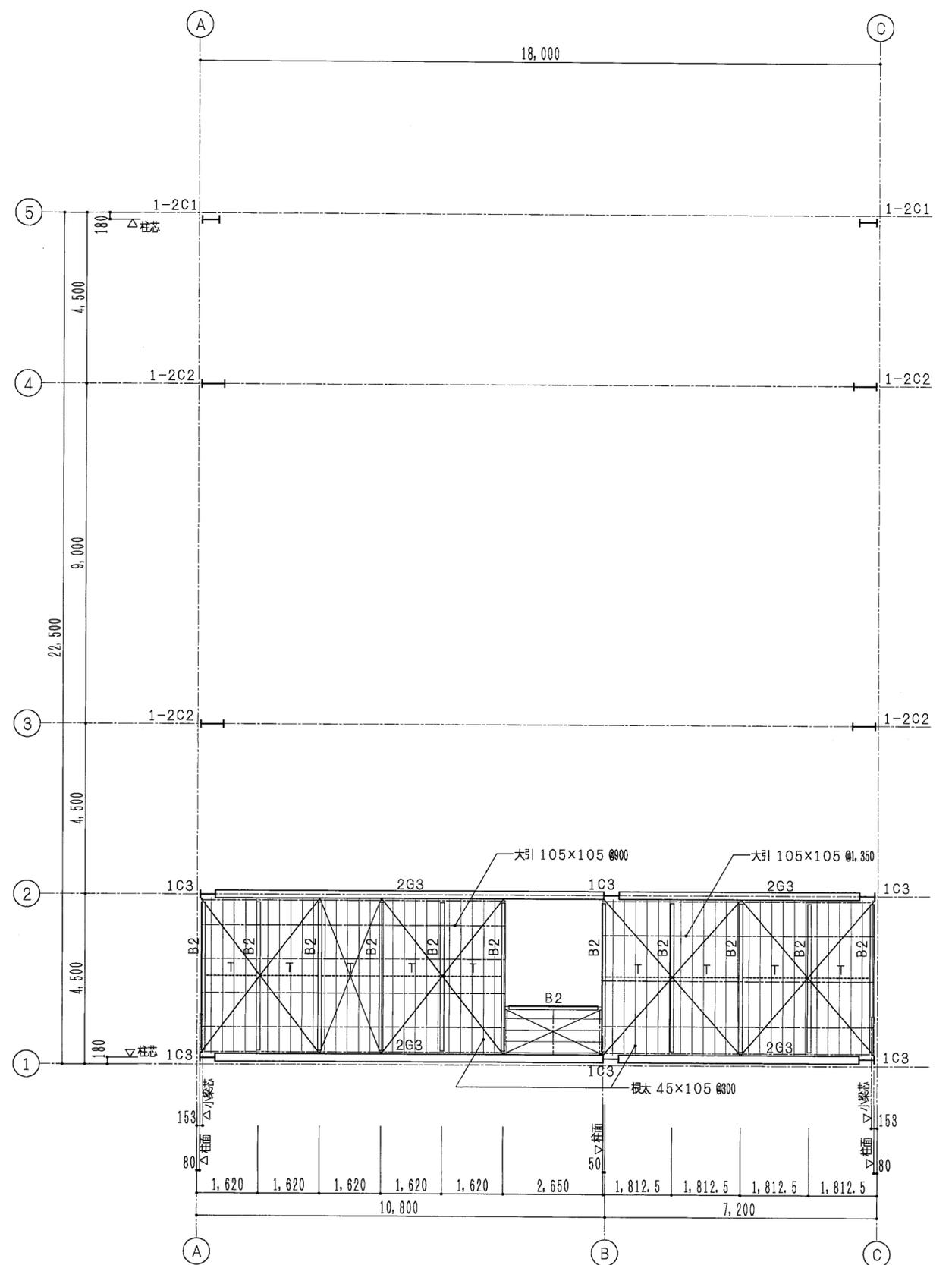
鉄筋 SD 295A  
コンクリート FC= 180+30 kg/cm<sup>2</sup>  
地耐力 20 t/m<sup>2</sup>

基礎配筋図 1/30

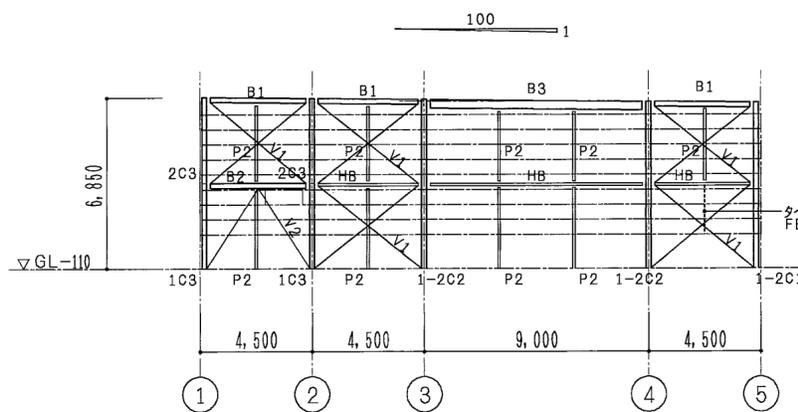




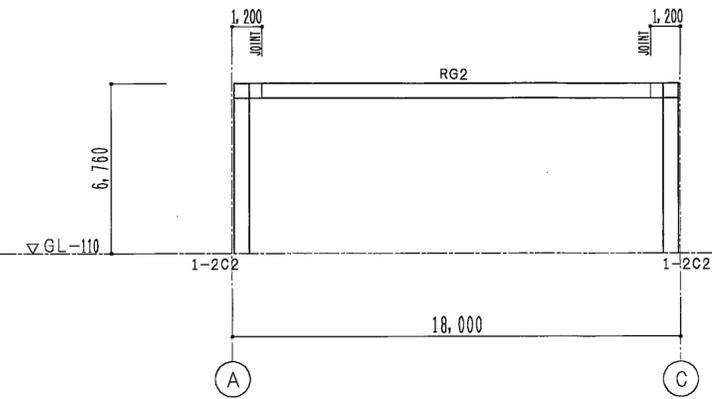
RF 梁伏図 1/100



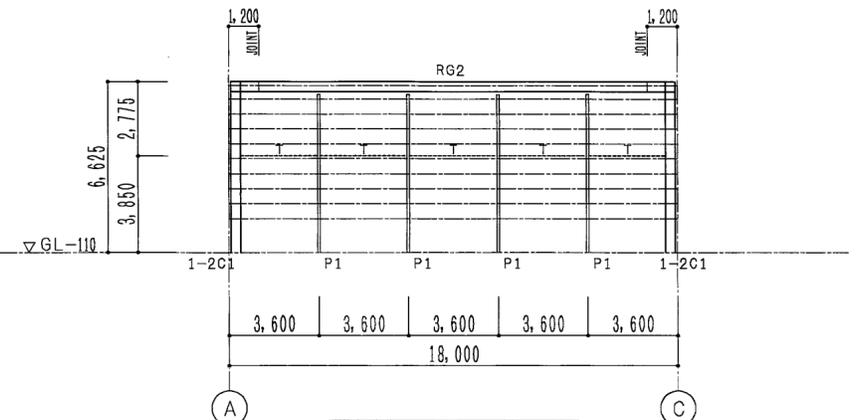
2F 梁伏図 1/100



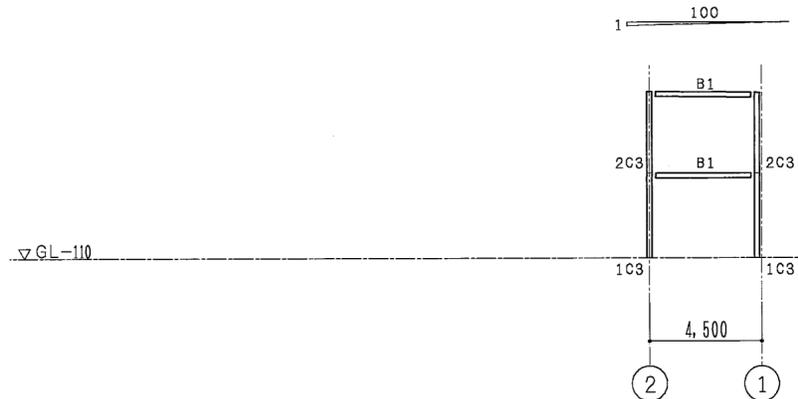
C通 軸組図 1/200



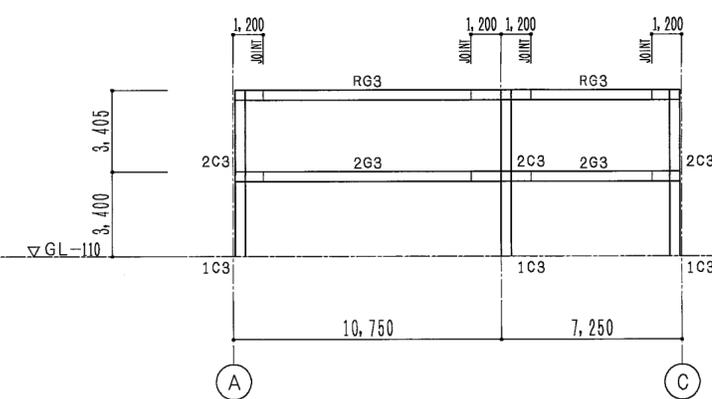
3・4通 軸組図 1/200



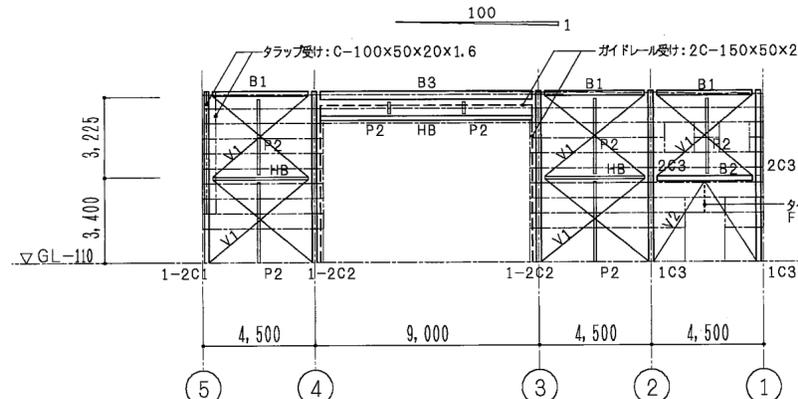
5通 軸組図 1/200



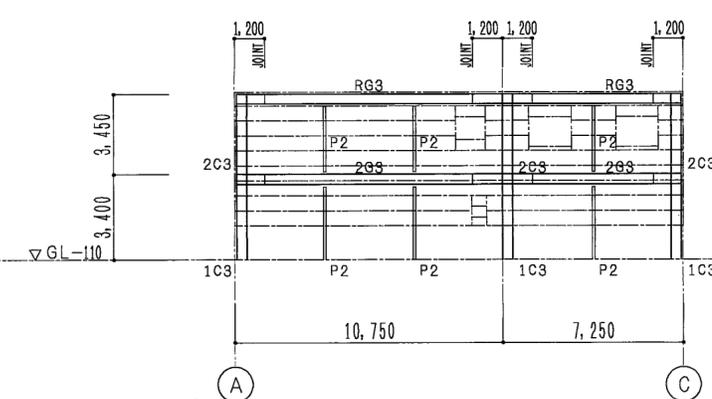
B通 軸組図 1/200



2通 軸組図 1/200



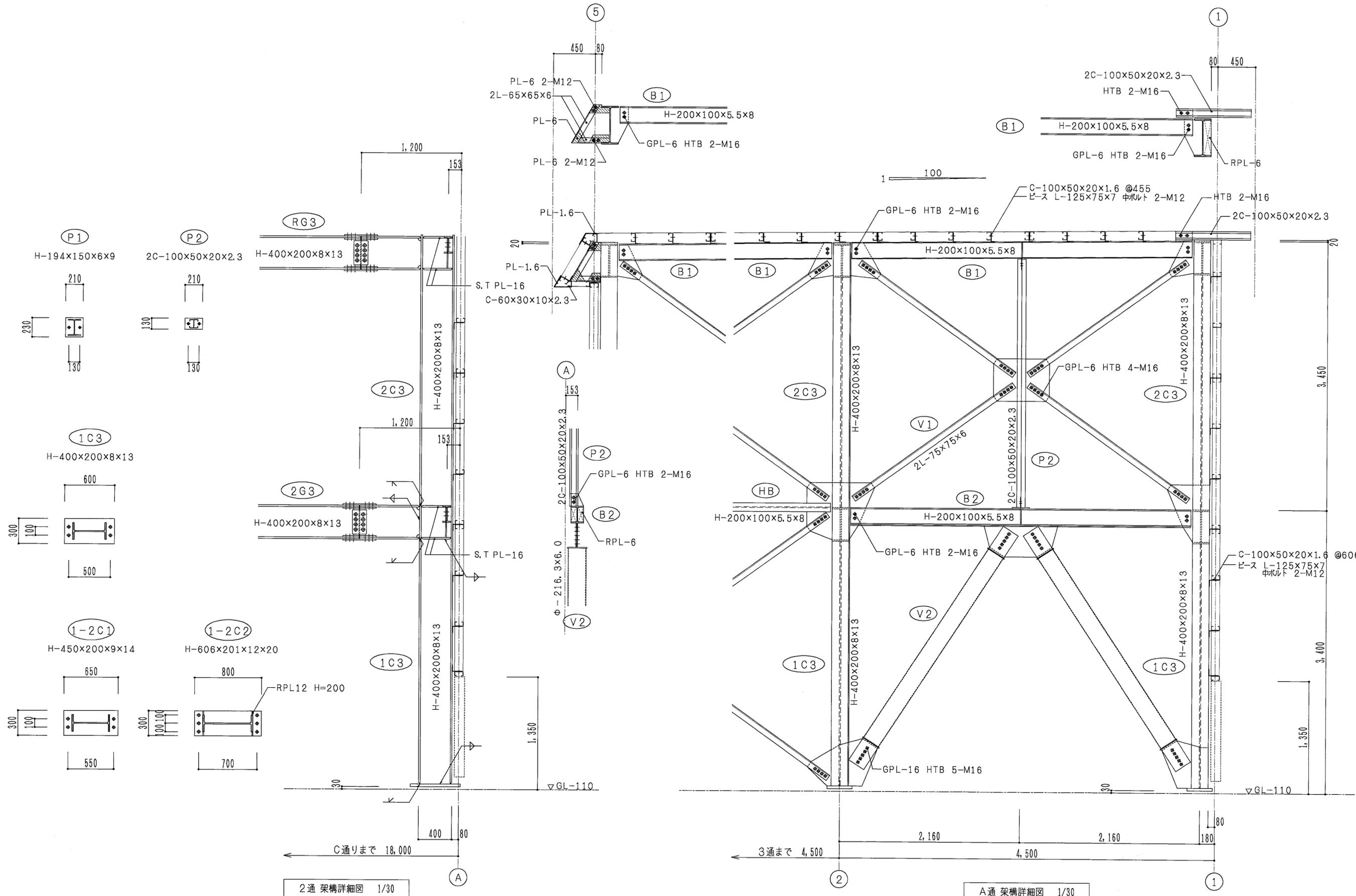
A通 軸組図 1/200



1通 軸組図 1/200

鉄骨部材リスト 鉄骨 SS 400 SSC 400 HTB F10T

記号	部材	継手・仕口
1-2C1	H - 450×200×9×14	BPL-32×300×650 A.BOLT 4-M22 L=800
1-2C2	H - 606×201×12×20	BPL-42×300×800 A.BOLT 6-M28 L=800
2C3	H - 400×200×8×13	
1C3	H - 400×200×8×13	BPL-32×300×600 A.BOLT 4-M16 L=600
P 1	H - 194×150×6×9	BPL-9×230×210 A.BOLT 2-M16 L=600 GPL-6 HTB 2-M16
P 2	2C - 100×50×20×2.3	BPL-9×130×210 A.BOLT 2-M16 L=600 GPL-6 HTB 2-M16
RG1	H - 450×200×9×14	FLNG SP-PL-12 HTB 8-M20 WEB 2W-PL-9 HTB 5-M20
RG2	H - 606×201×12×20	FLNG SP-PL-19 HTB 10-M20 WEB 2W-PL-9 HTB 7-M20
RG3	H - 400×200×8×13	FLNG SP-PL-12 HTB 6-M20 WEB 2W-PL-9 HTB 4-M20
2G3	H - 400×200×8×13	FLNG SP-PL-12 HTB 6-M20 WEB 2W-PL-9 HTB 4-M20
B 1	H - 200×100×5.5×8	GPL-6 HTB 2-M16
B 2	H - 200×100×5.5×8	GPL-6 HTB 2-M16
B 3	H - 350×175×7×11	GPL-6 HTB 4-M16
T	2C - 100×50×20×1.6	GPL-6 HTB 2-M16
HB	H - 200×100×5.5×8	GPL-6 HTB 2-M16
V 1	2L - 75×75×6	GPL-6 HTB 4-M16
V 2	Φ - 216.3×6.0	GPL-16 HTB 5-M16
母屋	C - 100×50×20×1.6 @455	ピース L-125×75×7 中ボルト 2-M12 (継手部)
胴縁	C - 100×50×20×1.6 @606 2C - 100×50×20×1.6 @1,818	ピース L-125×75×7 中ボルト 2-M12 (継手部)
ブレース RF・2F	M16	GPL-6 HTB 1-M16 FB-6×65



A 工事概要																																																																																																										
1. 工事場所	北海道空知郡上富良野町大町2丁目4583-3																																																																																																									
2. 建物概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>構造、階数</th> <th>延床面積</th> <th>通 要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>郷土資料館</td> <td>鉄骨造 2階</td> <td>402.67㎡</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				名称	構造、階数	延床面積	通 要	郷土資料館	鉄骨造 2階	402.67㎡																																																																																															
名称	構造、階数	延床面積	通 要																																																																																																							
郷土資料館	鉄骨造 2階	402.67㎡																																																																																																								
3. 工事種目	※種目は番号を付したものを適用する。																																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>電力設備工事</th> <th>通信情報設備工事</th> <th>防災及び特殊設備工事</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 電灯設備</td> <td><input type="checkbox"/> 電話設備</td> <td><input checked="" type="checkbox"/> 火災報知設備</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="checkbox"/> 幹線設備</td> <td><input type="checkbox"/> 構内交換機設備</td> <td><input type="checkbox"/> 自動閉鎖設備</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 動力設備</td> <td><input type="checkbox"/> 非常放送設備</td> <td><input type="checkbox"/> 非常警報設備</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 変電設備</td> <td><input type="checkbox"/> 非常放電設備</td> <td><input type="checkbox"/> 自家発電設備</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 避雷設備</td> <td><input type="checkbox"/> 身障者呼出し設備</td> <td><input type="checkbox"/> ガス漏れ警報設備</td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 非常照明設備</td> <td><input type="checkbox"/> テレビ共同受信設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 外灯設備</td> <td><input type="checkbox"/> 電気時計設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 構内配電線路設備</td> <td><input type="checkbox"/> 機械警備設備</td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 既存設備撤去</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	電力設備工事	通信情報設備工事	防災及び特殊設備工事	<input checked="" type="checkbox"/> 電灯設備	<input type="checkbox"/> 電話設備	<input checked="" type="checkbox"/> 火災報知設備	<input checked="" type="checkbox"/> 幹線設備	<input type="checkbox"/> 構内交換機設備	<input type="checkbox"/> 自動閉鎖設備	<input type="checkbox"/> 動力設備	<input type="checkbox"/> 非常放送設備	<input type="checkbox"/> 非常警報設備	<input type="checkbox"/> 変電設備	<input type="checkbox"/> 非常放電設備	<input type="checkbox"/> 自家発電設備	<input type="checkbox"/> 避雷設備	<input type="checkbox"/> 身障者呼出し設備	<input type="checkbox"/> ガス漏れ警報設備	<input type="checkbox"/> 非常照明設備	<input type="checkbox"/> テレビ共同受信設備		<input type="checkbox"/> 外灯設備	<input type="checkbox"/> 電気時計設備		<input type="checkbox"/> 構内配電線路設備	<input type="checkbox"/> 機械警備設備		<input type="checkbox"/> 既存設備撤去																																																																													
電力設備工事	通信情報設備工事	防災及び特殊設備工事																																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 電灯設備	<input type="checkbox"/> 電話設備	<input checked="" type="checkbox"/> 火災報知設備																																																																																																								
<input checked="" type="checkbox"/> 幹線設備	<input type="checkbox"/> 構内交換機設備	<input type="checkbox"/> 自動閉鎖設備																																																																																																								
<input type="checkbox"/> 動力設備	<input type="checkbox"/> 非常放送設備	<input type="checkbox"/> 非常警報設備																																																																																																								
<input type="checkbox"/> 変電設備	<input type="checkbox"/> 非常放電設備	<input type="checkbox"/> 自家発電設備																																																																																																								
<input type="checkbox"/> 避雷設備	<input type="checkbox"/> 身障者呼出し設備	<input type="checkbox"/> ガス漏れ警報設備																																																																																																								
<input type="checkbox"/> 非常照明設備	<input type="checkbox"/> テレビ共同受信設備																																																																																																									
<input type="checkbox"/> 外灯設備	<input type="checkbox"/> 電気時計設備																																																																																																									
<input type="checkbox"/> 構内配電線路設備	<input type="checkbox"/> 機械警備設備																																																																																																									
<input type="checkbox"/> 既存設備撤去																																																																																																										
4. 別途工事																																																																																																										
5. 工事区分	※該当は●印とする。																																																																																																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>建築</th> <th>電気</th> <th>暖房</th> <th>衛生</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ 躯体のスリーブ、箱抜きボックス入れ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>補強は建築工事</td> </tr> <tr> <td>○ 床、天井点検口の取付け</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電気器具等の取付け枠組み、切込み</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電気設備機器の基礎、架台</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電気シャッター、自動ドア等の電源供給</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>二次側配管配線</td> </tr> <tr> <td>○ 配管配線（一次側結線まで）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>○建築 ○電気</td> </tr> <tr> <td>○ 昇降機電源供給、配管配線</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>一次側まで</td> </tr> <tr> <td>○ 防火戸用煙感知器連動制御機器の取付け、（煙感知器）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td>防火戸は建築</td> </tr> <tr> <td>○ 電極棒及び電極保持器取付け</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>長さの指示は衛生設備</td> </tr> <tr> <td>○ 電極の信号回路配管配線</td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 電動機及び制御盤までの電源供給</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2次側配管配線</td> </tr> <tr> <td>○ 配管配線（1次側結線まで）</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○電気○暖房○衛生</td> </tr> <tr> <td>○ 防災設備の起動表示回路等の配管配線</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 排煙機度計、タンクレベルメーター等の配管配線</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ ダンパー類の制御用配管配線</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 浄化槽制御盤以降の配管配線</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>1次側は別途工事</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	建築	電気	暖房	衛生	備 考	○ 躯体のスリーブ、箱抜きボックス入れ	○	○	○	○	補強は建築工事	○ 床、天井点検口の取付け	○					○ 電気器具等の取付け枠組み、切込み	○	○				○ 電気設備機器の基礎、架台	○	○				○ 電気シャッター、自動ドア等の電源供給					二次側配管配線	○ 配管配線（一次側結線まで）	○	○			○建築 ○電気	○ 昇降機電源供給、配管配線	○	○			一次側まで	○ 防火戸用煙感知器連動制御機器の取付け、（煙感知器）	○	○			防火戸は建築	○ 電極棒及び電極保持器取付け		○	○	○	長さの指示は衛生設備	○ 電極の信号回路配管配線		○	○	○		○ 電動機及び制御盤までの電源供給					2次側配管配線	○ 配管配線（1次側結線まで）	○	○	○	○	○電気○暖房○衛生	○ 防災設備の起動表示回路等の配管配線	○	○	○	○		○ 排煙機度計、タンクレベルメーター等の配管配線	○	○	○	○		○ ダンパー類の制御用配管配線	○	○	○	○		○ 浄化槽制御盤以降の配管配線	○	○	○	○	1次側は別途工事			
項 目	建築	電気	暖房	衛生	備 考																																																																																																					
○ 躯体のスリーブ、箱抜きボックス入れ	○	○	○	○	補強は建築工事																																																																																																					
○ 床、天井点検口の取付け	○																																																																																																									
○ 電気器具等の取付け枠組み、切込み	○	○																																																																																																								
○ 電気設備機器の基礎、架台	○	○																																																																																																								
○ 電気シャッター、自動ドア等の電源供給					二次側配管配線																																																																																																					
○ 配管配線（一次側結線まで）	○	○			○建築 ○電気																																																																																																					
○ 昇降機電源供給、配管配線	○	○			一次側まで																																																																																																					
○ 防火戸用煙感知器連動制御機器の取付け、（煙感知器）	○	○			防火戸は建築																																																																																																					
○ 電極棒及び電極保持器取付け		○	○	○	長さの指示は衛生設備																																																																																																					
○ 電極の信号回路配管配線		○	○	○																																																																																																						
○ 電動機及び制御盤までの電源供給					2次側配管配線																																																																																																					
○ 配管配線（1次側結線まで）	○	○	○	○	○電気○暖房○衛生																																																																																																					
○ 防災設備の起動表示回路等の配管配線	○	○	○	○																																																																																																						
○ 排煙機度計、タンクレベルメーター等の配管配線	○	○	○	○																																																																																																						
○ ダンパー類の制御用配管配線	○	○	○	○																																																																																																						
○ 浄化槽制御盤以降の配管配線	○	○	○	○	1次側は別途工事																																																																																																					

B 総 則				
1. 適用規 準	本工事において設計図書及び特記仕様書に記載されていない事項は全て下記による。 (但し機器類は製造者標準仕様とする)			
	(1)	建設大臣官庁官庁営繕部監修	建築工事共通仕様書 (平成 9年度版)	
	(2)	建設大臣官庁官庁営繕部監修	機械設備工事共通仕様書 (平成 9年度版)	
	(3)	建設大臣官庁官庁営繕部監修	電気設備工事共通仕様書 (平成 9年度版)	
	(4)	建設省住宅局建築指導課監修	建築設備耐震設計・施工指針 (平成 年度版)	
2. 特記仕様書の取扱	(1)	項目については、○印を付したものを適用する。		
	(2)	特記事項については●印を付したものを適用する。		
3. 設計図書の優先順位	(1)	現場説明書 (追加説明、質疑応答を含む)		
	(2)	特記仕様書		
	(3)	設計図書 (標準設計図共)		
	(4)	共通仕様書		

C 共 通 事 項	
① 機器及び材料の製造所等	本工事の使用材料、製造所、商品、施工業者等は記載されたものとする。尚同等品以上及び級の記載がある場合で記載された以外を使用する場合は資料等を提出して監督員の承認を受ける。
② 特殊の材料の工法	共通仕様書に記載されていない特殊な工法は監督員の承認を受けて当該製品指定の工法による。

③ 技 能 士	本工事の主要な部分については技能士に施行させる。またその他工事についても技能士に施工させる様に努める事、尚監督員より指示ある場合は職種名、技能士名を書面で提出する。
④ 主任技術者	資 格 ○1級電気工事施行管理技士 ○電気工事士 (実務経験 年以上) ○高圧電気工事士 現場常駐 ○する ○しない
⑤ 現場代理人	資 格 ○1級電気工事施行管理技士 ○電気工事士 (実務経験 年以上) ○高圧電気工事士 現場常駐 ○する ○しない
⑥ 交通安全及び公害防止	請負者は工事の施工にあたり関係法令に従って第三者への災害防止、交通事故防止、交通路線の維持保全、騒音公害防止等に努めなければならない。 下記により提出する。尚撮影所は監督員の指示による。
⑦ 工事写真	(1) 工程写真 ネガアルバム ○提出する、 ○提出しない、 種 別 ○カラーE版 ○モノクロームE版 台 紙 ○工程写真帳 (四つ切) 冊 (2) 竣工写真 ネガアルバム ○提出する、 ○提出しない、 種 別 ○カラーE版 ○モノクロームE版 台 紙 ○竣工写真帳 (四つ切) 冊
⑧ 完成図の作成	○ 版2つ折製本 部 ○ 版折込製本 部 ○ 版縮小図2つ折製本 部 (縮小原図共) ○ 施行図製本 部
⑨ 工事票 職	監督員の指示により遅滞なく標示する。
⑩ 提出書 類	監督員の指示により遅滞なく提出する。
⑪ 施工計画書その他	着工に先立ち、実施工程表、施工計画書等を作成し、監督員の承認を受ける。

D 共 通 事 項	
① 結 露 防 止	(1) 外部に面する壁、天井に取付ける壁及び位置ボックス等で躯体の断熱材を切り取る場合は、壁等の背面に断熱材を取付ける。 (2) 外部に面する壁、天井に配管する場合で躯体の断熱材を切り取る場合は、その廻りに発砲ウレタンフォーム吹付けとする。
② 電 線 管	電線管は特記なき限り、(○ネジ無し電線管としEの記号は省略する。○合成樹脂可撓電線管としPFの記号は省略する。
③ 空 配 管	入線しない管路には特記なき限り1.2mm以上のビニール被覆鉄線管を挿入する。
④ プ レ ー ト 類	○ステンレス ●新金属 ○合成樹脂 ○絶縁棒付
⑤ 電 線 管 保 護	図中ケーブル配線の立上げ、立下げ及び造管材等の貫通部分は電線管にて保護を行う。
⑥ 測 定 及 び 試 験	工事完成後、竣工検査までに監督員の指示により、下記の測定・試験を行い成績表を提出する。尚竣工後検査困難な工事は、随時立会い検査を受けること。 ○高圧機器耐圧試験 ○絶縁抵抗測定 (○高圧 ○低圧 ○ ) ○接地抵抗試験 (○1種 ○2種 ○3種 ○特別3種 ) ○照度測定 ○電圧・電流・力率測定 ○断電器・遮断器動作試験 ○境界強度・出力レベル
7 そ の 他	

E 仮 設 工 事	
1. 監督員事務所	○設ける。(号)但し設備、備品等は監督員の指示による。 ○設けない。但し請負事務所内に打合せ場所を必要とする。
2. 工事用水	構内既存の施設 ○利用出来る。(有償) ○利用出来ない、
3. 工事用電力	構内既存の施設 ○利用出来る。(有償) ○利用出来ない、

F 土 工 事	
1 埋戻し種別	○ A 種 B 種 ○切込砂利 ○その他 ( )
2 残土処分	○構内敷均し ○構内指定場所に堆積 ○構外搬出 ( km ○堆積 ○敷均し) 設計地盤の高さに地均しを行い、ガレキ、木屑等を除去し水はけの良い勾配に仕上げる。
3 地均し	
G 地 業 工 事	
1 砂利地業	φ45mmの切り込み砂利又は切り込み砕石
2 捨てコンクリート	レディーミクスコンクリート ○標準。普通160- 8-25N。厚さ60mm ○標準。普通160- 8-25N。厚さ50mm

H コ ン ク リ ー ト 工 事													
1 レディーミクスコンクリート	○I類 (JIS表示許可工場) ○II類												
2 セメントの種類	○普通ポルトランドセメント ○その他												
3 調 合													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>施行ケ所</th> <th>種類</th> <th>設計基準強度</th> <th>所要スランプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○標準品 ○特注品</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>○標準品 ○特注品</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		施行ケ所	種類	設計基準強度	所要スランプ		○標準品 ○特注品				○標準品 ○特注品		
施行ケ所	種類	設計基準強度	所要スランプ										
	○標準品 ○特注品												
	○標準品 ○特注品												
4 鉄筋の種類	○SD295A ○SD345												

I 左 官 工 事	
1 セメントの種類	○普通ポルトランドセメント ○混合セメントB種 ○フライアッシュセメント
2 防水剤	○マノールウォータータイム級

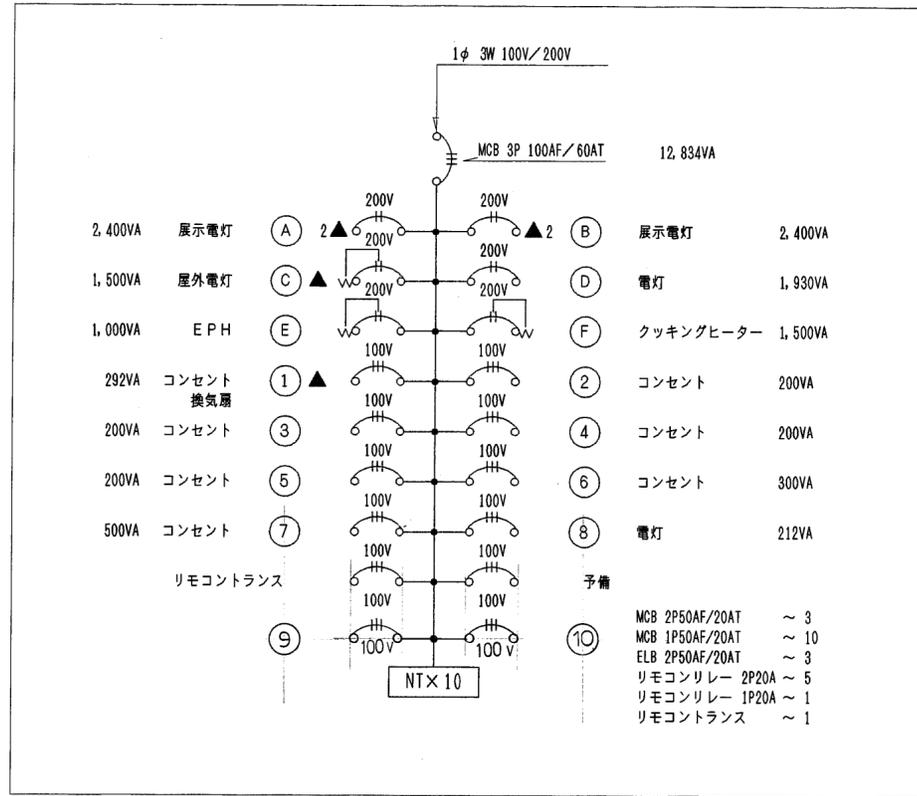
H 塗 装 工 事 ( 一 般 )					
① 鉄部及び木部	塗 装 ケ 所	状 態	塗 料 の 種 類	塗 り 回 数	備 考
	材				
	金属製位置ボックス類	露出	調合ペイント	2	内面は除く
		隠蔽	錆止めペイント	1	めっき又は塗装のはがれ部分
	金属製ダクト	露出	調合ペイント	2	
	プルボックス	隠蔽	錆止めペイント	1	塗装のはがれた部分
	金属管	露出	調合ペイント	2	内面は除く
		隠蔽	錆止めペイント	1	めっき又は塗装のはがれ部分
	支持金物・架台	露出	調合ペイント	2	下塗りは錆止め1回
		隠蔽	錆止めペイント	1	
	木 部	露出	調合ペイント	3	
		隠蔽	調合ペイント	2	
② 錆止めペイント	(1) 鉄 部	鉛丹錆止めペイント A種 J I S K 5 6 2 2			
	(2) 亜鉛めっき部	ジンクロメート錆止めペイント 2種 A J I S K 5 6 2 7			

I 機 器 の 取 付 け 高 さ				
機 器 名 称	測 上 ~ 中 心	取 付 け 高 さ	備 考	
機 引 用 器	床 上 ~ 中 心	1,800~2,000		
引 込 開 閉 器	床 上 ~ 上 端	2,000~2,200		
分 電 盤	床 上 ~ 中 心	1,800~2,000		
ス イ ッ チ	床 上 ~ 中 心	1,300		身障者用は打合せによる。
コ ン セ ン ト	床 上 ~ 中 心	300		
同 上 ( タ タ ミ )	床 上 ~ 中 心	200		
手 元 開 閉 器	床 上 ~ 中 心	1,300		
制 御 盤	床 上 ~ 上 端	1,800~2,000		
端 子 盤	床 上 ~ 下 端	300		
保 安 器	床 上 ~ 上 端	2,000		
表 示 器	床 上 ~ 中 心	2,300		
火 報 總 合 盤	床 上 ~ 中 心	1,500		
火 報 試 験 器	床 上 ~ 中 心	800~1,500		

J J I S の 表 示 品	
① 鋼 製 電 線 管 及 び 附 属 品	鋼製電線管
② 電 線 ・ ケ ー ブ ル 及 び 附 属 品	I V . V V F . C V .
③ 配 線 器 具	小型スイッチ、コンセント、自動点滅器
④ コ ン テ ン サ ー	低圧コンデンサー
⑤ 計 器 類	指示電気計器

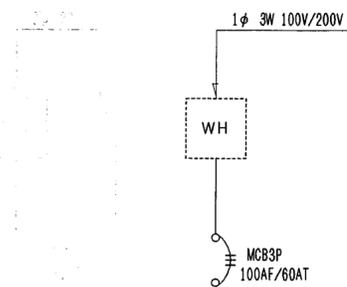
K 指 定 製 造 業 者	
電線管及び附属品	
電線・ケーブル	
配線器具	
制御盤	
変圧器	
コンデンサー	
分・配電盤	
キュービクル	
遮断器	
油入開閉器	
電磁開閉器	
計器・継電器	
照明器具	
拡声装置	
テレビ共聴	
電話機	
電気時計	
インターホン機器	
ナースコール	
火災報知機器	
自動閉鎖機器	
自家発電機	

A 電力設備工事		B 通信設備工事		C 防災及び特殊設備	
1 電気方式 2 受電設備 3 接地工事	1 受変電設備 ○受変電設備 3相3線 6KV50Hz ○屋外キュービクル○屋内キュービクル○屋内電気室(組立) ○基礎工事(○本工事 ○建築工事) ○第1種 ○第2種 ○第3種 ○特別第3種 ○単独 ○共用(10Ω以下)	1 電話配管設備 ○配管 ○配線 ○器具付け ○保安器接地 ○中配管径の記載のないものは( )とする。 水平高低調整付アウトレットボックス 119×119×54cとする。 PVC線引出用 ○アルミ合金製 ○陶金製 ○クラゲ型 ○クロハ型 ○亀甲型 ○内線電話用 ケーブル引出用 ○アルミ合金製 ○陶金製 ○クラゲ型 ○クロハ型 ○亀甲型 ○内線電話用 ○角型 ○丸型(○ステンレス製 ○新金属 ○合成樹脂)	1 施工範囲 2 親時計 3 子時計 4 配線	7 表示・設備 ○配管 ○配線 ○器具付け ○埋込型(○キャノピスイッチ ○トグルスイッチ ○押ボタンスイッチ) ○壁掛型 ○自立型 ○中配線太さ・電線管径の記載なきものは AE1. 2×2cとする。	8 電気時計設備 ○配管 ○配線 ○器具付け ○水晶式親時計2級・壁掛 ○水晶式親時計3級・壁掛 ○水晶式親時計1級・自立型 ○水晶式親時計・自立型 ○壁掛型 ○半埋込型 ○埋込型 ○円型 ○角型 ○スピーカー組込 ○片面スピーカー ○両面スピーカー ○平ガラス ○球面ガラス ○ ○中配線太さ・電線管径の記載なきものは AE1. 2×2c( )とする。
1 電気方式 2 配線方式 3 その他	○構内配線設備 ○高圧 3相3線 6.6KV50Hz ○低圧 3相3線 210V ○低圧 単相3線 210/105V ○ ○地中線式(○直埋式 ○管路式) ○架空線式(○コンクリート柱 ○木柱) (1) ケーブルの系統別表示(プラスチック製名札)を行う。 (2) 地中埋設配線には、埋設標識及び埋設シートを布設する。	1 施工範囲 2 交換機設備 ○配管 ○配線 ○器具付け ○保安器接地 ○クロスバ分散型 ○クロスバ簡易キャビネット ○クロスバキャビネット型 ○クロスバ架型 ○電子交換機 ○無ヒモ式局線中継台 ○ヒモ式局線中継台 ○ ○自立フレーム片面型 ○自立フレーム両面型 ○配管配線 ○ダクト配線 ○ケーブル配線 ○床上配線 5 フローアボックス ○水平高低調整付 アウトレットボックス119×119×54cとする。 PVC線引出用 ○アルミ合金製 ○陶金製 ○クセ型 ○クロハ型 ○亀甲型 ○内線電話用 ケーブル引出用 ○アルミ合金製 ○陶金製 ○クラゲ型 ○クロハ型 ○亀甲型 ○内線電話用 ○角型 ○丸型(○ステンレス製 ○新金属 ○合成樹脂)	1 施工範囲 2 受信機 3 感知器 4 発信機	1 火災報知設備 ○配管 ○配線 ○器具付け P級 回線(自動閉鎖 回線) ○壁掛 ○防災複合盤 ○副受信機(○あり ○なし) 確認ランプ付 ○差動式スポット ○定温式スポット ○煙式(光電式) ○差動分布型( ) P級 ○埋込型 ○露出型 ○総合盤 ○別途消火栓組込 ○単独	
1 電気方式 2 施工範囲 3 電極・フロートスイッチ 4 動力制御盤	2 幹線設備 ○1相3線 105V/210V/50Hz ○単相2線 /105V50Hz 屋外 ○地中埋設 ○架空 屋内 ○配管 ○ケーブル ○露出 ○隠蔽 ○ケーブルラック配線	3 拡声設備 1 施工範囲 2 増幅器 3 スピーカー 4 マイクロホン 5 音量調節器 6 配線と器具の接続 7 配線 8 非常警報 ○配管 ○配線 ○器具付け ○保安器接地 ○トランジスター式 ○卓上式 ○壁掛式 ○キャビネットスピーカー(○金属製○木製) ○天井埋込型防塵袋入りスピーカー ○電気計組込型スピーカー ○ホーンスピーカー ○マイクロホン(○卓上型 ○床上型 ○兼用型) ○リモコンマイク ○スピーカー組込型 ○壁埋込型 ○露出型 ○直接接続 ○コネクター接続 ビニール電線を使用し○中配線太さ・条数の記入なきものは AE1. 2×3Cとする。 消防法による非常警報設備と ○する ○しない	1 施工範囲 2 連動制御器 3 自動閉鎖装置 4 感知器	2 自動閉鎖設備 ○配管 ○配線 ○器具付け 回線(予備電源付) ○単独 ○複合(火報盤) ○防火戸用 ○本工事 ○別途 ○防火シャッター用 ○本工事 ○別途 ○防火ダンパー用 ○本工事 ○別途 確認ランプ付 煙式(光電式)	
1 電気方式 2 施工範囲 3 点滅器・コンセント 4 配線 5 照明器具の吊りボルト等 6 照明器具仕様 7 分電盤開閉器	3 動力設備 3相3線 210V 50Hz ○配管 ○配線 ○器具付け ○電動機等への配線結線までとする。 ○電極棒(保持器共) (○本工事 ○機械設備) ○フロートスイッチ (○本工事 ○機械設備) ○普通型キャビネット (○鋼板製 ○ステンレス SUS304) ○屋外型キャビネット (○鋼板製 ○ステンレス SUS304) ○型キャビネット (○鋼板製 ○ステンレス SUS304) ○鋼板製は表面見掛り部分は指定色仕上げとする。	4 非常放送設備 1 施工範囲 2 配線方式 3 増幅器 4 機器種別 5 配線 ○配管 ○配線 ○器具付け 3線式(HP0.9×3c)とする。 ○トランジスター式 ○卓上式 ○壁掛式	1 施工範囲 2 電動装置 3 起動装置 4 機器取付方法	3 非常警報設備 ○配管 ○配線 ○器具付け φ mm ○埋込型 ○露出型 丸多 押ボタン式 ○総合盤 ○単独	
1 電気方式 2 施工範囲 3 配線方式 4 点滅方式	4 電灯・コンセント設備 幹線 ●単相 3線105V/210V 50Hz 分岐 ●単相 2線 105V 50Hz 単相2線 210V ○配管 ○配線 ○器具付け ○露出 ○埋込 ○単一型 ○大角適用型 ○防水型 ○防塵型 ○自動点滅 ○リモコン ○埋込型 ○単一型 ○大角適用型 ○防水型 ○防塵型 ○埋込型 ○引掛型 ○抜け止め ○中配線太さ・条数ならびに配管径の記入なきものは、下記による。 電灯回路 ○1V1.6×2(E19, PF16) ○VVF1.6×2C コンセント回路 ○1V2.0×2(E19, PF16) ○VVF2.0×2C 原則としてφ9以上の吊りボルト・インサート等で支持し平座金・ナットを用いて取付けとする。 尚使用金物は全て防錆びを施す事。 40W以上の器具で記載のないものは、ラビットスタート式高効率とする。 20W以下の器具で記載のないものは、グロースタート式高効率とする。 ○官電協仕様器具 ○一般仕様器具 ○省電力型 ○ ○普通キャビネット (○ステンレス製 ○鋼板製) 樹脂製 ○防湿キャビネット (○ステンレス製 ○鋼板製) ○ ○屋外キャビネット (○ステンレス製 ○鋼板製) ○	5 インターホン設備 1 施工範囲 2 電源装置 3 機器種別 4 機能・形式 5 配線 ○配管 ○配線 ○器具付け ○卓上式 ○壁掛式 ○送受話式同時通話式 ○相互式 ○親子式 ○ 回線 ○一斉放送 ○話中表示 ○ボタン型 ○ダイヤル型 ○PVC線 ○マイクロホンコード ○インターホン用ケーブル	1 施工範囲 2 ガス種別 3 受信機 4 警戒区域 5 警報器・電源 6 中継器 7 配線	4 ガス漏れ警報設備 ○配管 ○配線 ○器具付け ○都市ガス用 ○プロパンガス用 ○単独盤 ○複合盤 ○壁掛型 ○自立型 ○別途 警戒 ○本工事 ○別途工事 ○DC24V ○AC100V ○本工事 ○別途工事 ○中配線太さ・電線管径の記載のないものは、 AE1. 2mm×2c( )とする。	
1 電気方式 2 施工範囲 3 照明器具 4 配線 5 照明器具仕様	5 外灯設備 単相 2線式 210V 50Hz ○配管 ○配線 ○器具付け ○地中線式(○直埋式 ○管路式) ○架空線式 ○自動点滅器 ○その他( )	6 テレビ共同受信設備 1 施工範囲 2 ケーブル 3 アンテナ 4 増幅器 5 接続用接合器 6 ○配管 ○配線 ○器具付 ○同軸ケーブル ○ラミネート型ケーブル ○衛星放送同軸ケーブル(低損失) ○アルミ ○ステンレス ○カーボンファイバー ○BSアンテナ ○トランジスター ○1端子 ○2端子 ○埋込型 ○露出型 ○衛星放送対応型	1 施工範囲 2 電動装置 3 起動装置 4 機器取付方法	7 非常照明設備 ○常用電源 単相 2線式 105V ○非常用電源 ○蓄電池 ○自家発電機 ○配管 ○配線 ○器具付け ○常時灯 ○非常時点灯 ○1V ○VVF ○HIV ○FP-C ○官電協仕様器具 ○一般仕様器具	



電灯分電盤

屋内用露出型 (銅板製指定色)

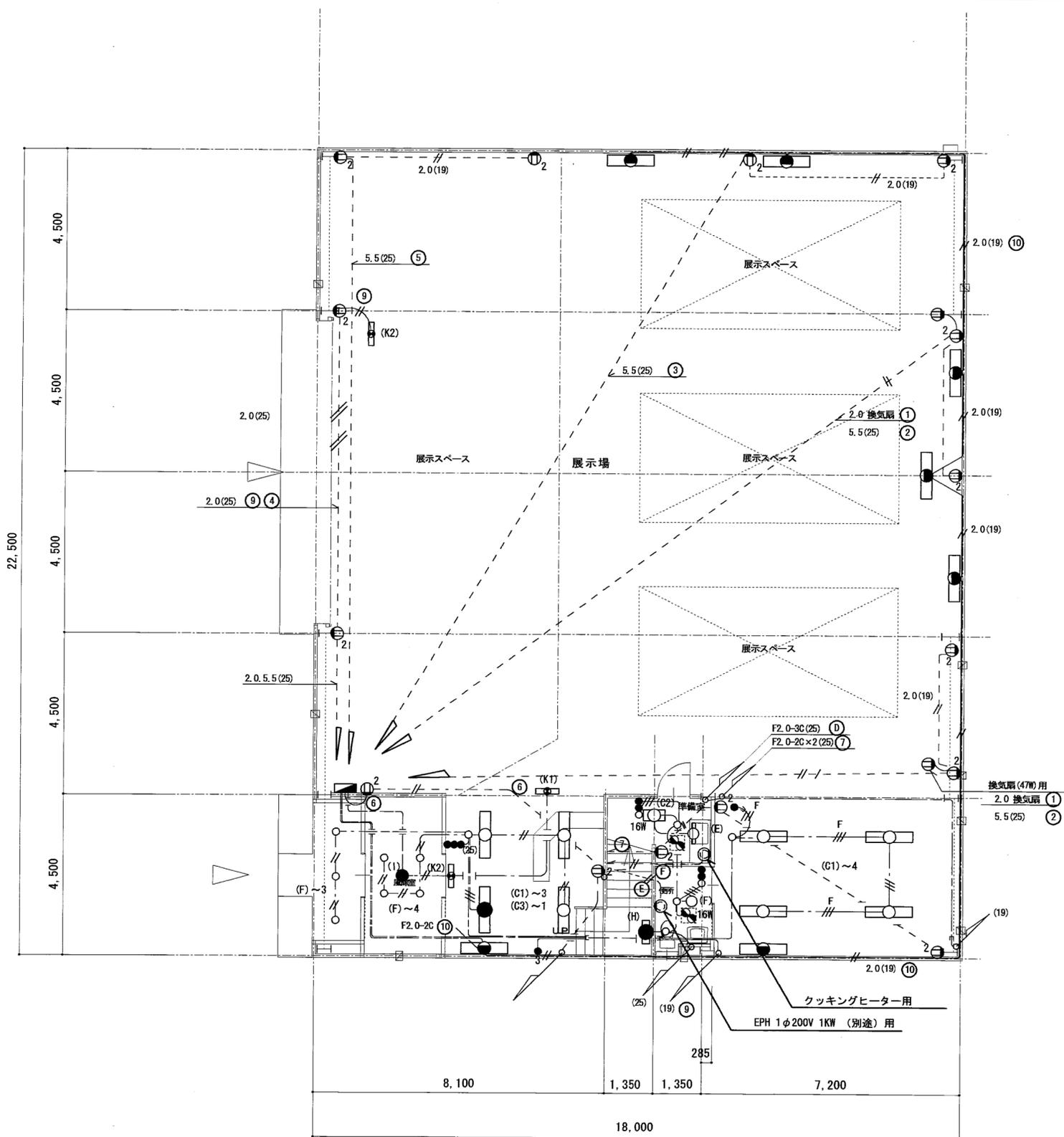


引込開閉器盤

屋外用防水型 (銅板製指定色)

照明器具姿図

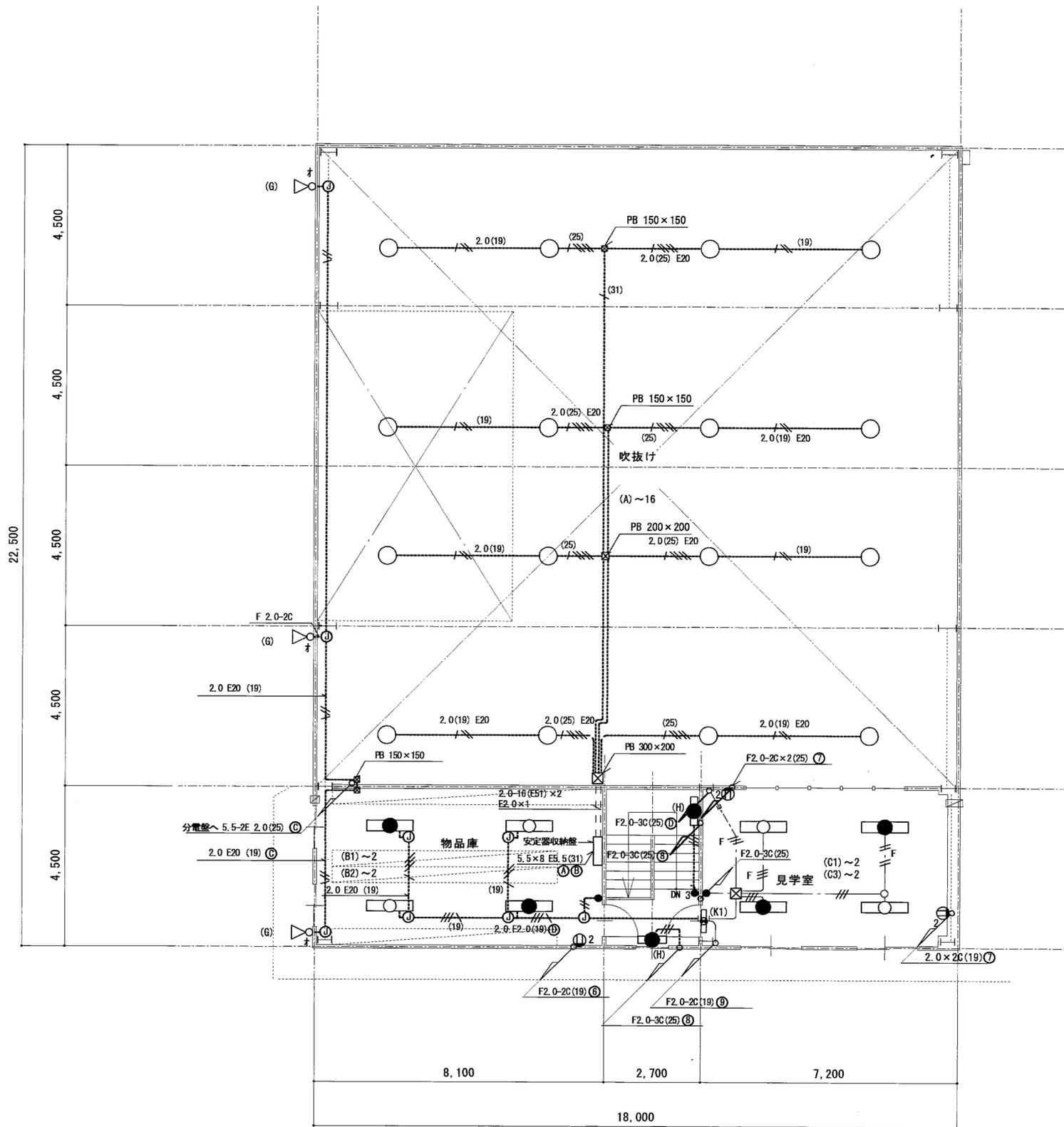
A	HF 250W	B	FLR 40W×2
<p>HSR1W-250</p>		<p>FSR1-402</p>	
C1	FLR 40W×2	D	FLR 40W×1
C2	FL 20W×2		
<p>FSS4-402 FSS4-202</p>		<p>FBS4-401</p>	
E	FL 20W×1	F	FDL 13W
<p>FBS2-201</p>		<p>FRS11S-D131</p>	
G	HF 400W		
<p>HPJ1W-400</p>			



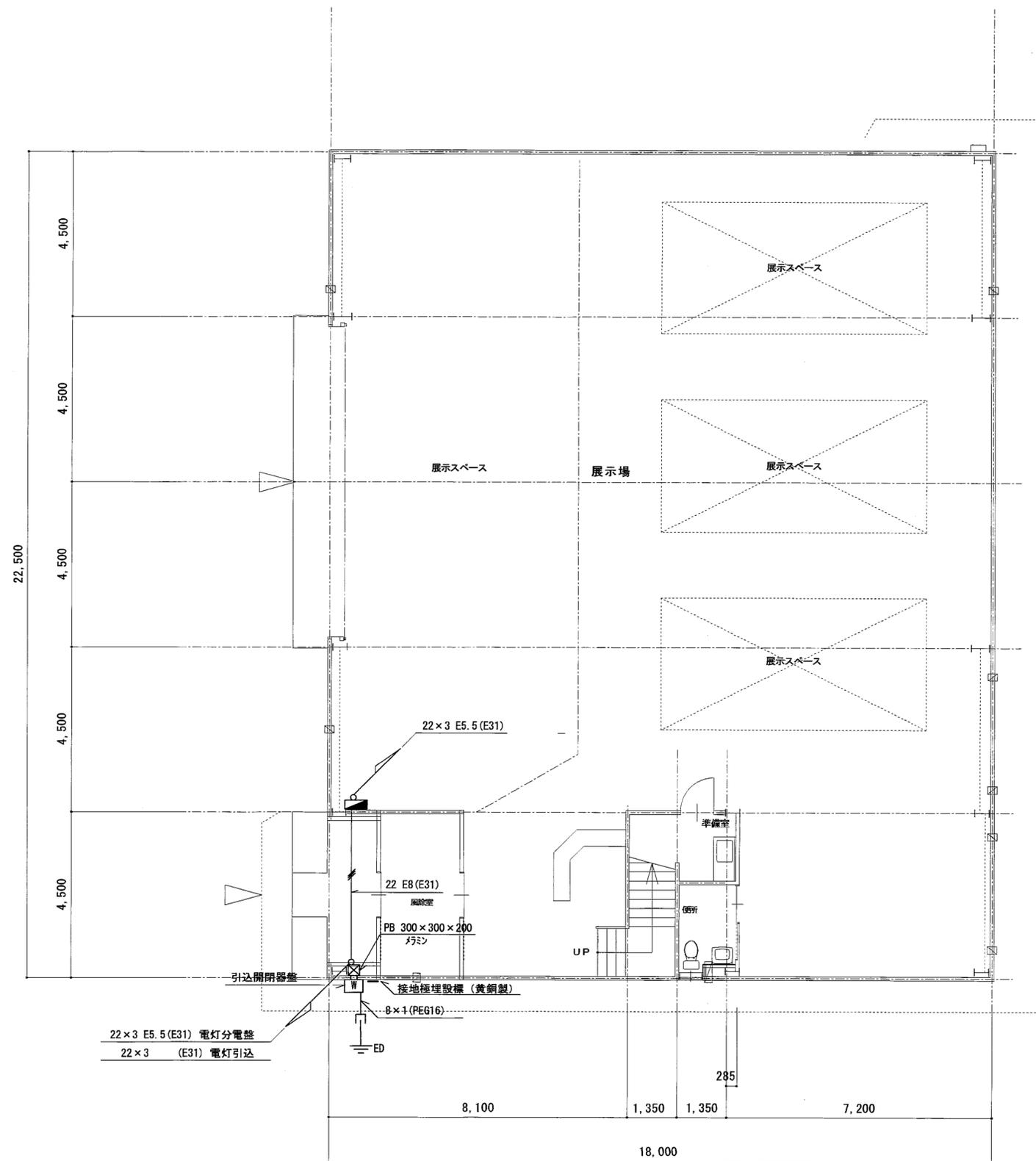
凡例

-----	2.0×2 (E19)	露出 SOP
-----	2.0×3 (E19)	露出 SOP
-----	2.0×4 (E25)	露出 SOP
-----	2.0×2 (E19)	
-----	2.0×3 (E19)	
-----	WF 2.0×2C (E19)	立上げ保護
-----	WF 2.0×3C (E25)	立上げ保護
-----	WF 2.0×2C~2 (E25)	立上げ保護
●	1P15A	7&#246;SP
●L	1P15A NL付	7&#246;SP
●3	3W15A	7&#246;SP
○	パイルボックス	
⊖	2P15A×1	7&#246;SP
⊖	2P15A×2	7&#246;SP
⊙	250V 3P20A	埋込引掛'ム'ラ'共
●R9	リモコンスイッチ	24V 1.5A×6 7&#246;SP
○	丸型露出ボックス	
○	角型露出ボックス+ス'ル'レ'ト	

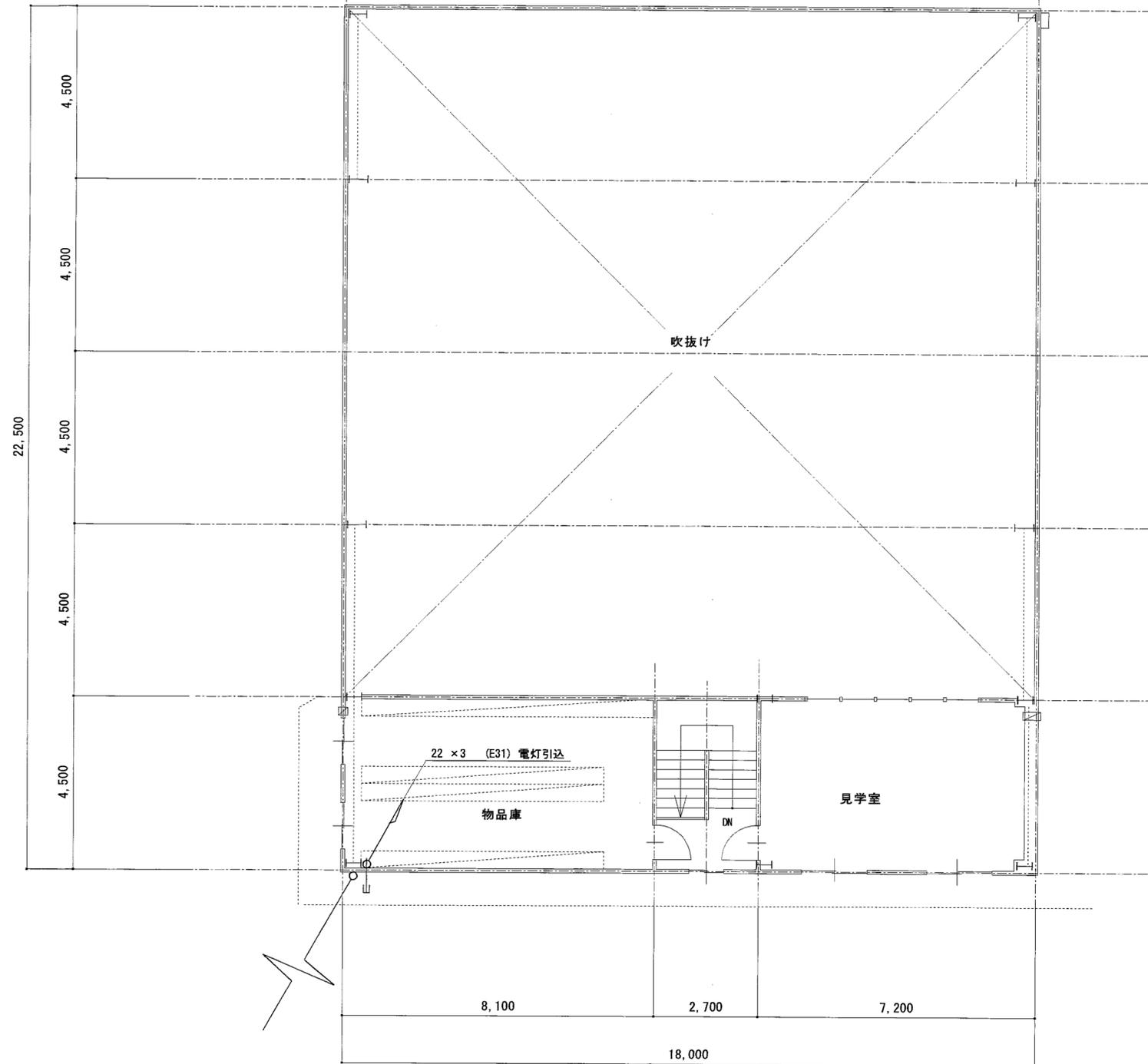
1階電灯コンセント設備配線図 1/100



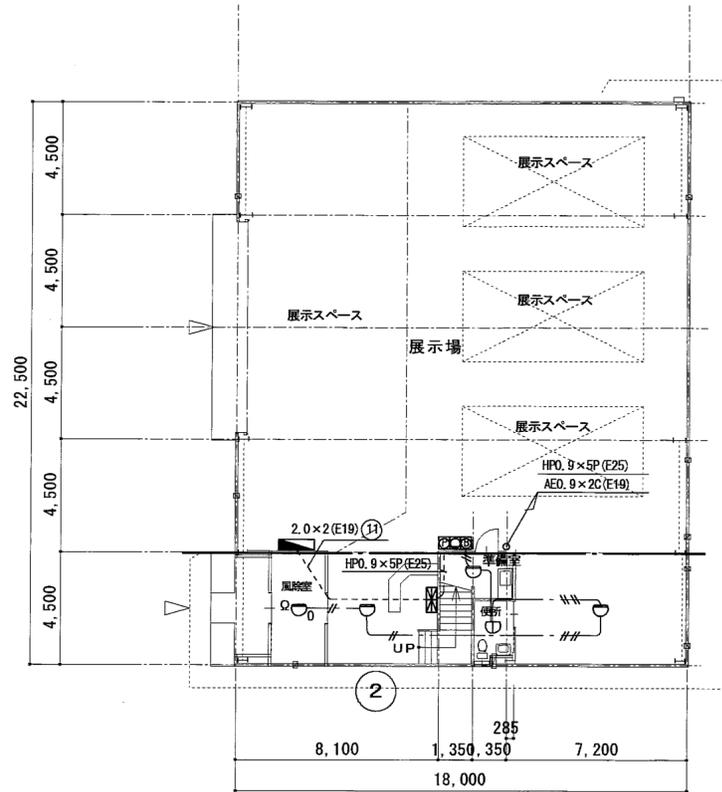
2階電灯コンセント設備配線図 1/100



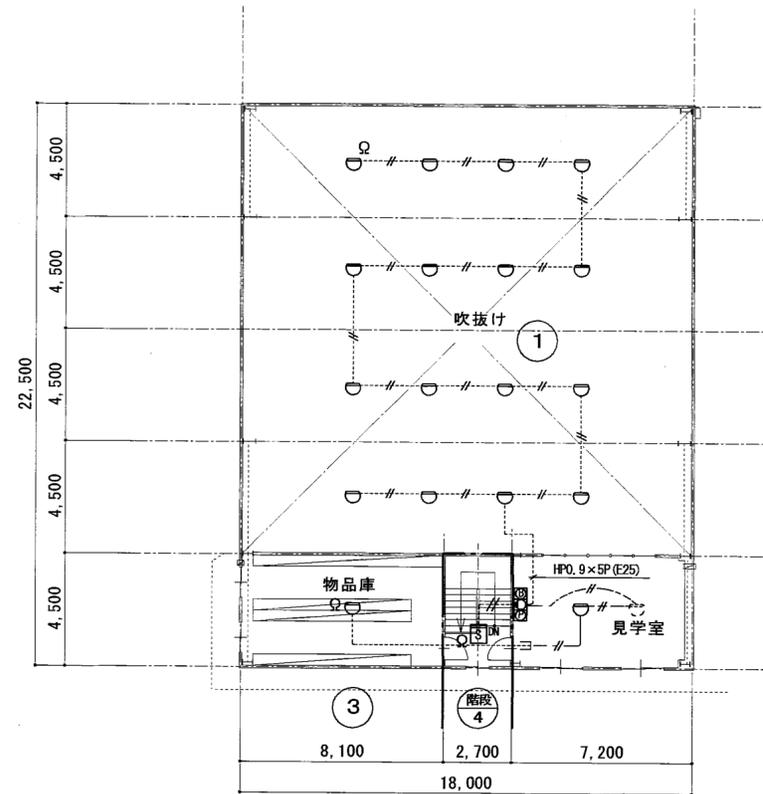
1階幹線・動力設備配線図 1/100



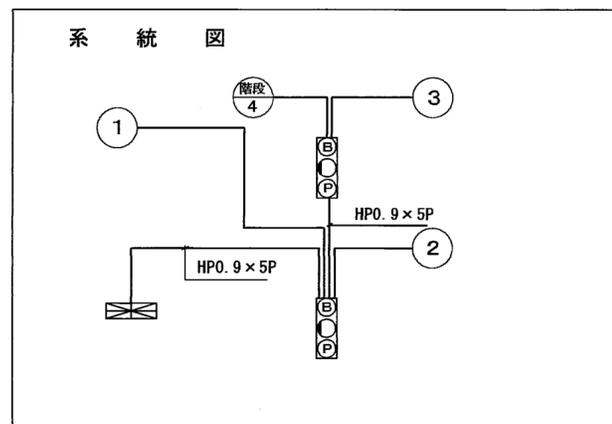
2階幹線・動力設備配線図 1/100



1階自動火災報知設備配線図 1/200



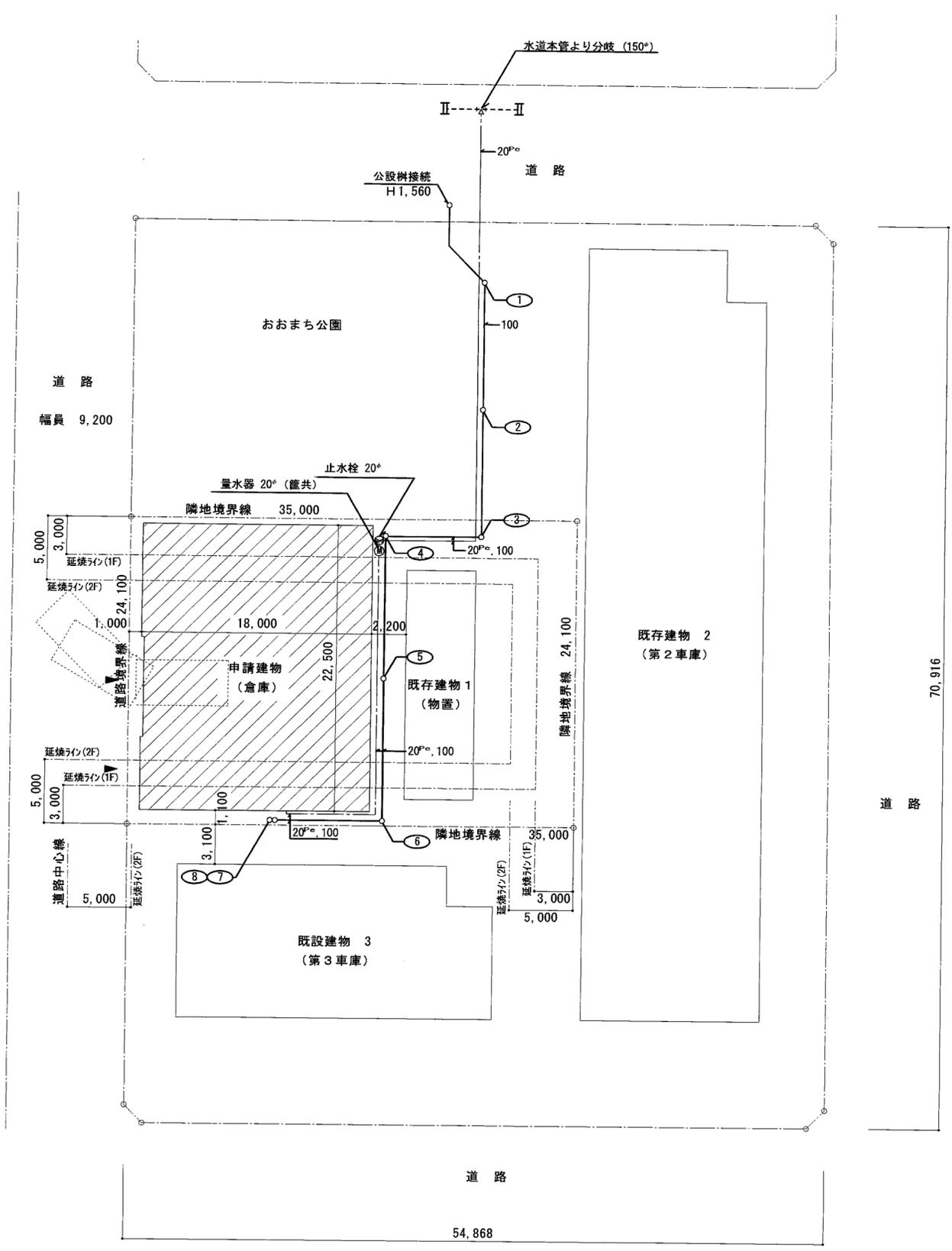
2階自動火災報知設備配線図 1/200



特記なき配線は、下記とする。

— // —	AE 0.9 × 2 C
— // —	AE 0.9 × 4 C
--- // ---	AE 0.9 × 2 C (E19)

凡 例	
	受信機 P型2級5回路線
	電鈴 DC 24V 150mm
	表示灯 AC 24V 5W
	発信機 P型2級
	総合盤 埋込型
	感知器 差動式スポット型 2種
	感知器 差動式スポット型 2種 小屋裏
	感知器 定温式スポット型 特種
	感知器 定温式スポット型 1種
	感知器 定温式スポット型 1種 (防水型)
	感知器 光電式スポット型 2種
	終端抵抗 10KΩ
	警戒区域境界線
	警戒区域番号



屋外配管図 1/300

樹 一 覧 表

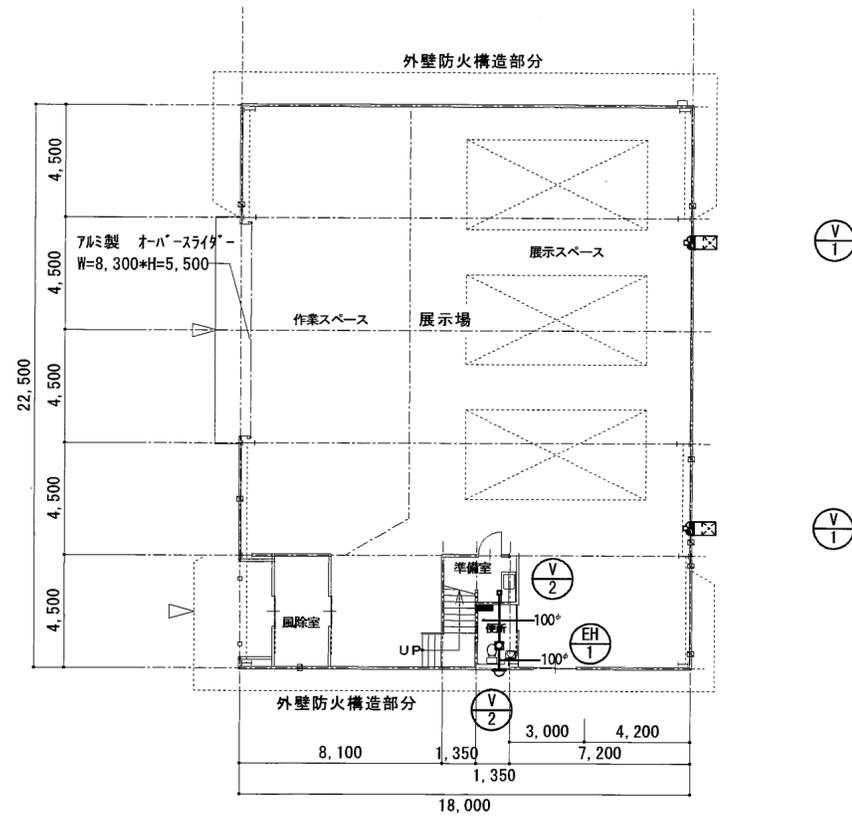
番号	樹 名 称	樹 径	樹 深 さ	区 間 距 離	備 考
	公 設 樹		(1,560 <sup>H</sup> )		
1	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	1,490 <sup>H</sup>	7.0	45L 100×150
2	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	1,255 <sup>H</sup>	10.0	ST 100×150
3	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	1,045 <sup>H</sup>	10.0	LL 100×150
4	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	1,080 <sup>H</sup>	7.5	LL 100×150
5	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	1,010 <sup>H</sup>	10.0	ST 100×150
6	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	920 <sup>H</sup>	13.5	LL 100×150
7	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	850 <sup>H</sup>	8.4	UT 100×75-150
8	塩 ビ 樹	150 <sup>φ</sup>	820 <sup>H</sup>	0.3 <sup>m</sup>	TY 100×150

換気機器表

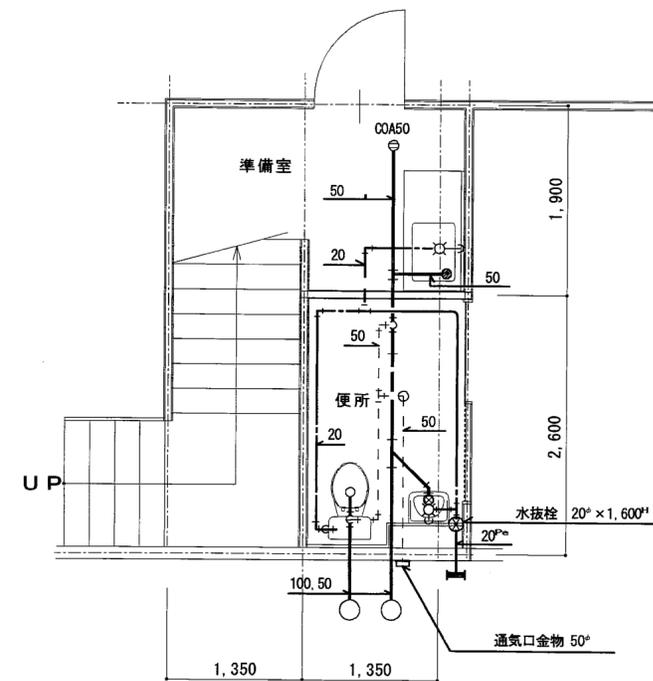
記号	名称	仕様	電力	数量	備考
V-1	有圧扇	羽根径 300φ × 風量 1.520 m³/H ES付 (格子型)	1φ × 100V × 47KW	2	
		防雪フード 350 × 350 (SUS)			
V-2	天井扇	VD-15ZF5	1φ × 100V × 16KW	1	
		セルフフード 100φ (アルミ)			
EH-1	電気ヒーター	壁掛サーモ付	1φ × 200V × 1KW	1	

衛生器具表

名称	型式・仕様	数量	備考
和風大便器	C420, S517BR, TC262N 紙巻器他附属品共	1	
手洗器	L-5D, T205S, ストラップ	1	
自在水栓	T30AR-13	1	
化粧鏡	363 × 455	1	



1階平面図 (換気) 1/200



平面詳細図 (衛生) 1/50